SONY

HD DIGITAL VIDEOCASSETTE PLAYER

HDW-A2100
HDW-M2100

⚠警告

電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

このオペレーションマニュアルには、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示してあります。**このオペレーションマニュアルをよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

HDCAM Tele-File MEMORY STICK CINEALTA

OPERATION MANUAL Japanese

1st Edition (Revised 9)

安全のために

ソニー製品は安全に十分に配慮して設計されています。しかし、電気製品はまちがった使い方をすると、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあり、危険です。
事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

3～6ページの注意事項をよくお読みください。

定期点検を実施する

長期間安全に使用していただくために、定期点検を実施することをおすすめします。点検の内容や費用については、ソニーのサービス担当者または営業担当者にご相談ください。

故障したら使用を中止する

ソニーのサービス担当者または営業担当者にご連絡ください。

万一、異常が起きたら

異常な音、においや煙が出たら

➡
1. 電源を切る。
2. 電源コードや接続コードを抜く。
3. ソニーのサービス担当者または営業担当者に修理を依頼する。

炎が出たら

➡ すぐに電源を切り、消火する。

警告表示の意味

このオペレーションマニュアルおよび製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

火災

感電

注意

手を挟まれないよう注意

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

行為を指示する記号

指示

アース線を接続せよ

目次

⚠ 警告 3
⚠ 注意 5
その他の安全上のご注意 6

第1章 概要

1-1 特長 1-1
1-2 システム構成例 1-3

第2章 各部の名称と働き

2-1 コントロールパネル 2-1
2-1-1 上部コントロールパネル 2-2
2-1-2 下部コントロールパネル 2-3
2-1-3 スイッチパネル 2-11
2-2 コネクターパネル 2-12

第3章 準備

3-1 外部機器との接続 3-1
3-1-1 デジタル機器との接続 3-1
3-1-2 基準信号の接続 3-2
3-2 セットアップ 3-3
3-3 スーパーインポーズされる文字情報 3-4
3-4 カセットの取り扱い 3-6
3-4-1 使用可能なカセット 3-6
3-4-2 カセットを出し入れするには 3-6
3-4-3 ストップコードおよびショットマークの記録を禁止するには 3-7
3-5 メモリースティックの取り付け 3-8
3-5-1 メモリースティックについて 3-8

第4章 再生

4-1 再生 4-1
4-1-1 再生の準備 4-1
4-1-2 再生操作 4-2
4-1-3 DMC（ダイナミックモーションコントロール）再生 4-6

第5章 ショットマーク

5-1 ショットマーク機能の概要 5-1
5-2 ショットマーク操作メニュー 5-2
5-3 ショットマークの操作 5-3
5-3-1 ショットマークの読み込み 5-3
5-3-2 ポストマークの書き込み 5-3
5-3-3 ショットマークリストの操作 5-4
5-3-4 ショットマークへのキューアップ 5-6
5-3-5 ショットデータの読み込み 5-6
5-3-6 ショットマークのソーティング 5-8

第6章 ストップコード

6-1 ストップコード 6-1
6-2 ストップコードの操作 6-2
6-2-1 ストップコードの検出 6-2
6-2-2 ストップコードの記録 6-2
6-2-3 ストップコードの消去 6-3

第7章 テレファイル

7-1 テレファイル機能の概要 7-1
7-2 テレファイルメニューを開く 7-2
7-3 テレファイルメニュー 7-3
7-3-1 クリップデータの表示 7-3
7-3-2 クリップデータを使用したプリロール/キューアップ 7-6
7-3-3 クリップデータの変更 7-7
7-3-4 アンドゥ/レジューム機能 7-10
7-3-5 アトリビュートデータの表示・変更 7-11

第8章 UMID機能

8-1 UMID機能の概要 8-1
8-2 UMIDの出力と表示 8-2
8-2-1 UMIDの出力に関する設定 8-2
8-2-2 UMIDの表示 8-2

第9章 ファンクションメニュー

9-1 概要 9-1
9-1-1 ファンクションメニューの構成 9-1
9-1-2 ファンクションメニューの操作 9-2
9-2 ファンクションメニューの項目一覧 9-3

第10章 セットアップメニュー

10-1 セットアップメニューの構成 10-1
10-2 セットアップメニューの操作 10-2
10-3 基本メニューの項目 10-6
10-4 拡張メニューの項目 10-9

第11章 保守・点検

11-1 テープスラック時のカセットの取り出しかた 11-1
11-2 ヘッドクリーニング 11-1
11-3 エラーメッセージ 11-2
11-4 結露 11-4
11-5 定期点検 11-5
11-5-1 デジタル時間計 11-5
11-5-2 部品交換と点検 11-6

付録

仕様 A-1

索引 I-1

⚠警告　火災　感電

下記の注意を守らないと、
火災や感電により死亡や大けがにつながることがあります。

分解禁止

外装を外さない、改造しない

外装を外したり、改造したりすると、感電の原因となります。
内部の調整や設定および点検を行う必要がある場合は、必ずサービストレーニングを受けた技術者にご依頼ください。

禁止

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。
万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続コードを抜いて、ソニーのサービス担当者または営業担当者にご相談ください。

指示

指定の電源コードを使用する

指定以外の電源コードを使用すると、火災や感電の原因となります。
他の電源コードを使用する場合は、ソニーのサービス担当者または営業担当者にご相談ください。

禁止

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。
- ラックマウントするとき、レールにはさみ込まない。

万一、電源コードが傷んだら、ソニーのサービス担当者に交換をご依頼ください。

禁止

油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所では設置・使用しない

上記のような場所で設置・使用すると、火災や感電の原因となります。

指示

表示された電源電圧で使用する

機器に表示されたものと異なる電源電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。

禁止

ラックマウントした機器を、2台以上同時に引き出さない

2台以上同時に引き出すと、機器の重みでラックが転倒し、大けがの原因となります。
一度にラックから引き出すのは1台だけにしてください。
また、ラックが転倒・移動しないように適切な処置をとってください。

禁止

カセット挿入口に手や指を入れない

カセット挿入口に手や指を入れると、けがの原因となることがあります。

⚠注意 下記の注意を守らないと、けがをしたり周辺の物品に損害を与えることがあります。

禁止

通気孔をふさがない

通気孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- 逆さまや横倒ししない。
- 風通しの悪い、狭いところに押し込まない。
- 毛足の長いじゅうたんや布団の上に置かない。
- 布をかけない。

禁止

ファンが止まったままの状態で使用しない

ファンがついている製品では、ファンが止まると、エラーメッセージ(Error 14)が表示されます。ファンが止まったまま使用し続けると、内部に熱がこもり火災の原因となることがあります。ソニーのサービス担当者にご連絡ください。

禁止

異常なにおい、煙が出ている状態で使用しない

異常なにおい、煙が出ている状態で使用し続けると、火災や感電の原因となることがあります。電源を切って、電源コードや接続を抜き、ソニーのサービス担当者にご連絡ください。

禁止

2台以上積み上げない

ラックを使用せずに2台以上積み上げると、製品が落下してけがの原因となることがあります。

手を挟まれないよう注意

ラックマウントレールに手や指をはさまない

ラックマウントした機器を収納するときおよび引き出すとき、ラックマウントレールに手や指をはさみ、けがの原因となることがあります。

指示

電源コードのプラグおよびコネクターは突き当たるまで差し込む

真っ直ぐに突き当たるまで差し込まないと、火災や感電の原因となります。

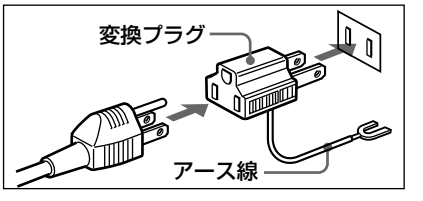
アース線を接続せよ

安全アースを接続する

安全アースを接続しないと、感電の原因となることがあります。次の方法でアースを接続してください。

- **電源コンセントが3極の場合**
  指定の電源コードを使用することで安全アースが接続されます。

- **電源コンセントが2極の場合**
  指定の3極→2極変換プラグを使用し、変換プラグから出ている緑色のアース線を建物に備えられているアース端子に接続してください。



安全アースを取り付けることができない場合は、ソニーのサービス担当者にご連絡ください。

その他の安全上のご注意

アース接続は必ず主電源プラグを主電源につなぐ前に行ってください。またアース接続を外す場合は、必ず主電源プラグを主電源から切り離してから行ってください。

機器を水滴のかかる場所に置かないこと。および水の入ったものや花瓶などを機器の上に置かないこと。

ご注意

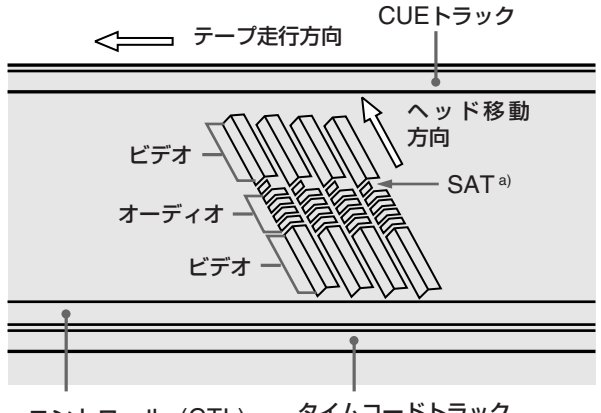
日本国内で使用する電源コードセットは、電気用品安全法で定める基準を満足した承認品が要求されます。ソニー推奨の電源コードセットをご使用ください。

1-1 特長

HDW-A2100/M2100は、HDCAMフォーマットに基づくHDデジタルビデオカセットプレーヤーです。
信号処理回路の大規模LSI化とシンプルな内部構造の採用により、従来のVTRと同等以上の機能を搭載しながら、小型(4Uサイズ)/軽量/低消費電力を実現しています。
また、HDW-A2100はHDCAMフォーマットによる再生だけでなく、アナログベータカムフォーマットで記録されたテープを再生することもできます。
さらにHDW-M2100はデジタルベータカムフォーマット、MPEG IMXフォーマット、ベータカムSXフォーマットで記録されたテープも再生することができます。

HDCAMフォーマット

HDCAMフォーマットでは、従来のベータカムシリーズ同様に12.65 mm幅のテープを使用して、HDの高画質で最大2時間の記録が可能です。
映像信号の圧縮には、プリフィルターとコエフィシェントレコーディング技術を採用しています。



a) 補助AT (Supplemental Automatic Tracking)信号

高性能ヘッドの採用と互換再生機能の実現

新開発の高性能ヘッドとダイナミックトラッキング(DT)技術により、幅のせまいトラックでの高密度再生を高い信頼性で実現しています。HDCAMの再生ヘッドに加えて、ベータカムSX再生ヘッドアナログベータカム用DTヘッドを搭載し、互換再生を可能にしています。また、挿入されたテープの記録フォーマットはVTRで自動検知するので、フォーマット変更に伴うメニュー設定などの必要はありません。

高精度デジタル信号処理と多彩なインターフェース

HD4:2:2コンポーネント映像信号を、SMPTE 292Mに基づき、パラレルデータに変換し、HDCAM圧縮へ処理します。
音声信号も、AES/EBUフォーマットに基づいて、非圧縮のままデジタル処理されます。

標準でダウンコンバーターを搭載し、以下のインターフェースを装備しているため、広範囲の外部機器を含むシステム内に設置することが可能です。

- SDアナログコンポジット信号出力
- SDアナログコンポーネント信号出力
- アナログオーディオ信号出力(4チャンネル)
- HDSDI SMPTE 292M出力 (HDデジタルビデオ/オーディオ4チャンネル)
- SDI SMPTE 259M出力(コンポーネントデジタルビデオ/オーディオ4チャンネル)
- AES/EBU シリアルデジタルオーディオ出力 (4チャンネル)
- SDTI SMPTE 305M出力(HDCAMビデオデータ/オーディオデータ)(オプション)
- タイムコード出力
- CUEオーディオ出力

高音質4チャンネルオーディオ

20ビット/48kHzの高音質デジタル音声用のAES/EBUオーディオ出力とアナログオーディオ出力を4チャンネル装備しています。

SDTI圧縮データの再生 (オプション)

SMPTE 305Mに準拠したSDTI (Serial Data Transport Interface)出力がオプション装備可能です。SDTIを介して、HDCAMデータ、オーディオデータ、メタデータなどを、VTRやノンリニア機器に転送できます。

多機能コントロールパネル

小型サイズ(4U)ながら、従来の操作性と多彩な新機能を備えたフロントパネルを使用しています。

基本操作部とジョグ/シャトルダイヤル

VTRの基本操作/編集操作に必要な基本操作部とジョグ/シャトルダイヤルのレイアウトを従来のVTRとそろえて、同等の操作性を維持しました。

タイムデータ表示

タイムデータとしてCTLカウント値、タイムコード、ユーザービットのいずれかを選択して表示します。また、編集点のタイムコードや編集時のデュレーションの表示も可能です。

メニュー表示とマルチコントロールつまみ

タイムデータ/メニュー表示部には、機器の状態や設定が表示されます。また、ひんぱんに使用する設定をファンクションメニューとして表示し、ファンクションキーとマルチコントロールつまみの操作により設定の確認や変更が可能です。
本機の動作条件や外部機器とのインターフェースに関する設定は、従来のVTRと同様にセットアップメニューで操作します。

高品位バリアブル再生とデジタルジョグサウンド機能

HDCAM、デジタルベータカム、MPEG IMXおよびアナログベータカム再生時には、専用のDTヘッドによりスムーズなノイズレス再生ができます。ベータカムSX再生時には、独自のマルチヘッド再生技術によりノイズレス再生を実現しています。また、スロー再生については、デジタルジョグサウンド機能により、従来のアナログVTRと同様の操作が可能です。

DMC (ダイナミックモーションコントロール)再生

編集区間をあらかじめ再生してそのときの速度を記憶しておき、その速度で自動再生することができます。

アップコンバート機能

本機は、標準でSDからHDへのアップコンバータを内蔵し、デジタルベータカム、MPEG IMX、ベータカムSXおよびアナログベータカム再生時も高品位のHD信号を出力することができます。

ダウンコンバート機能

本機は、標準でHDからSDへのダウンコンバータを内蔵し、HDCAM再生時もSDのSDI、アナログコンポーネント、アナログコンポジット信号を出力することができます。

テレファイル機能

メモリーラベル付きカセットとVTR本体の間で、データの書き込み/読み出しを行ないます。頭出し・再生などに関する操作や、素材のデータ管理を効率よく行なうことができます。

ストップコード

本機はNAB-T007-1990に準拠したストップコードの検出・記録・消去を行なうことができます。

リモートコントロール機能

本機は、RS-422Aインターフェース(シリアル9ピン)を介して、外部リモートコントローラーや編集機からの操作が可能です。また、リモートコントロール端子を2つ装備しているため、複数のVTRを同時に制御することもできます。
さらに、パラレルインターフェース(50ピン)も標準装備しているため、パラレル信号による外部コントロールにも対応できます。

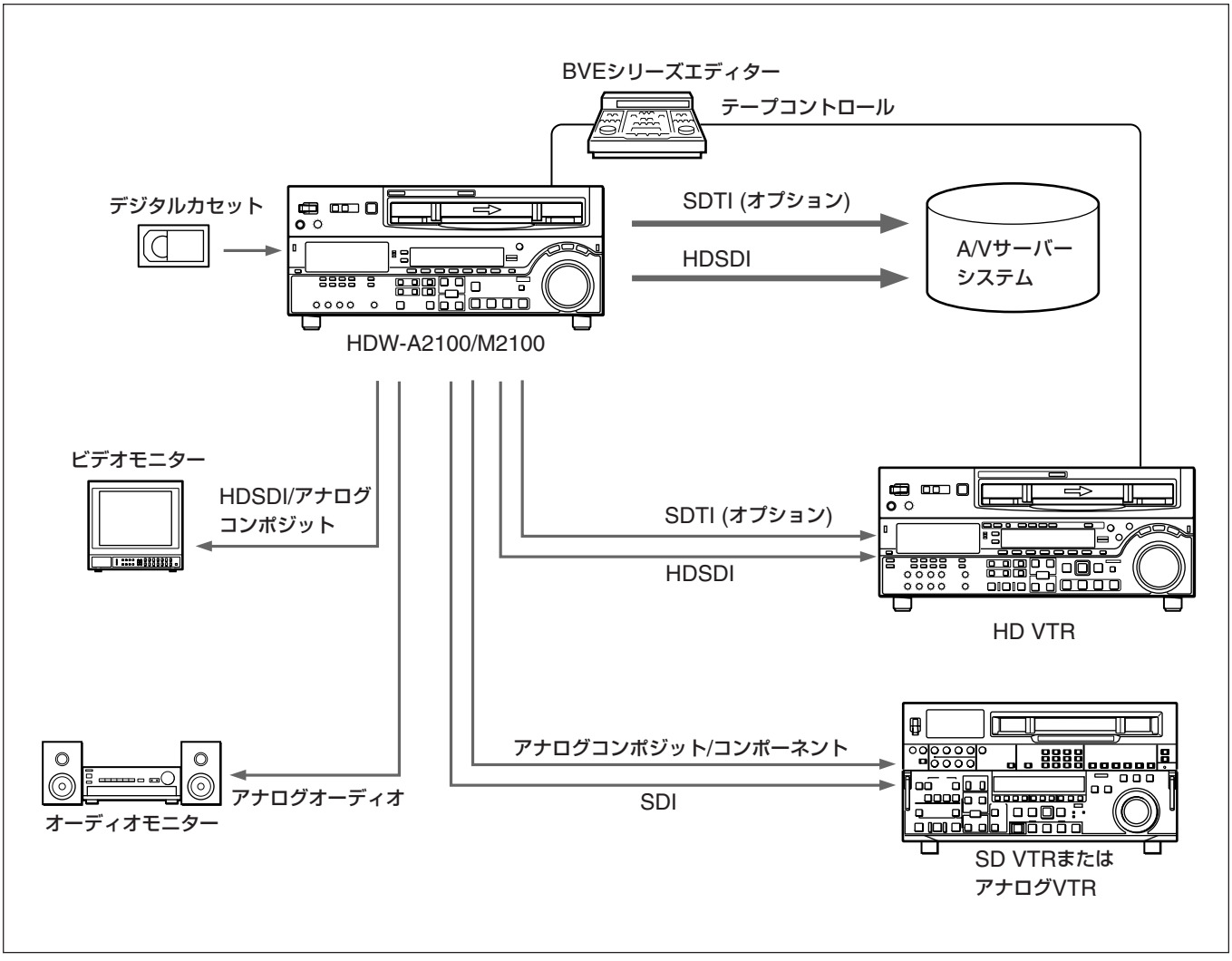
ラックマウント

別売りのラックマウントアダプターRMM-131を使用して、EIA規格の19インチ幅ラックに取り付けることができます。

◆ ラックマウントについて詳しくは、ラックマウントアダプターに付属の「取り付けかた」をご覧ください。

1-2 システム構成例

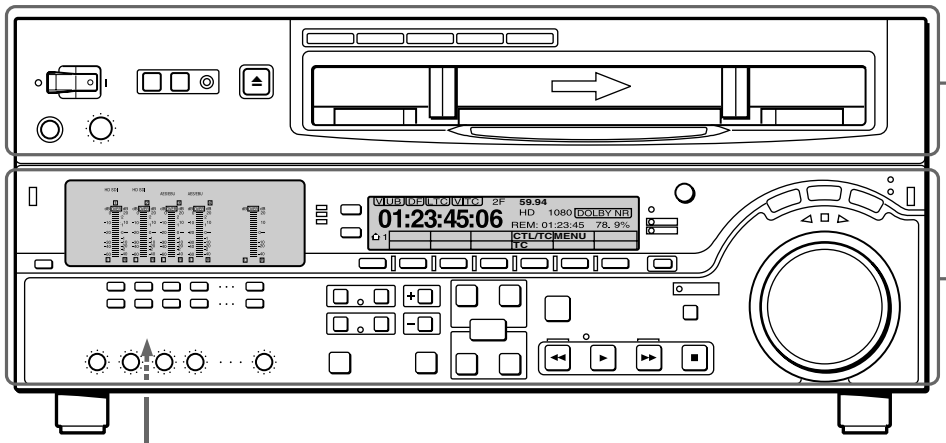
本機を使用したシステム構成例の概念図を示します。



2-1 コントロールパネル

コントロールパネルは、以下の各部から構成されています。

- 上部コントロールパネル
- 下部コントロールパネル
- スイッチパネル

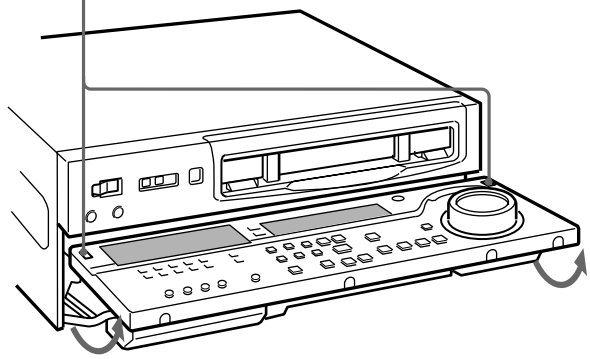


上部コントロールパネル
(2-2ページ参照)

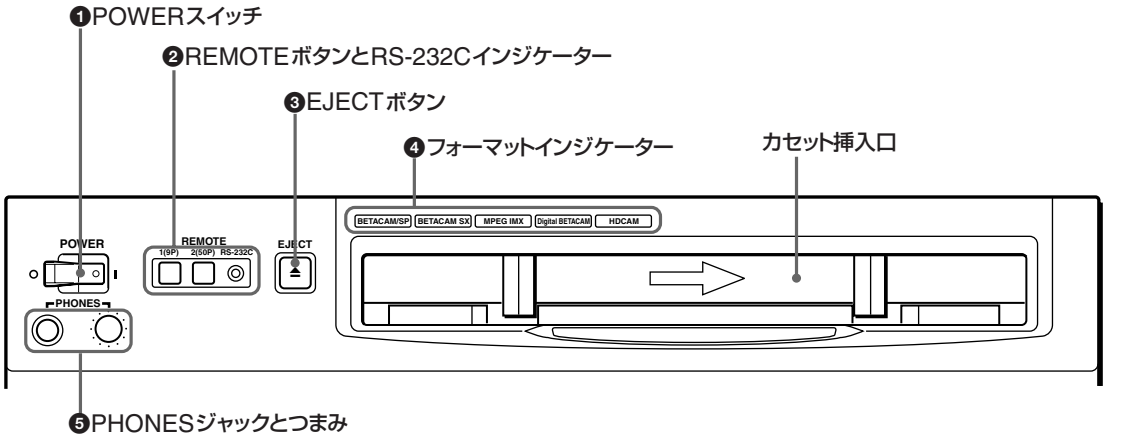
下部コントロールパネル
(2-3ページ参照)

スイッチパネル：下部コントロールパネルを開くと操作できます。(2-11ページ参照)

下部コントロールパネルロック解除ボタン
押し込むと、下部コントロールパネルを開くことができます。



2-1-1 上部コントロールパネル



❶POWER (電源)スイッチ

「I」側を押すと電源が入り、オーディオ情報表示部(2-4ページ)とタイムデータ/メニュー表示部(2-5ページ)が点灯します。

❷REMOTE (リモート)ボタンとRS-232Cインジケーター

1(9P)または2(50P)のいずれかを押して、本機をコントロールする機器を選択します。

1(9P)：REMOTE 1-IN(9P)/REMOTE 1-OUT(9P)端子に接続された機器により本機をコントロールします。押すとボタンが点灯します。

2(50P)：REMOTE 2 PARALELL I/O(50P)端子に接続された機器により本機をコントロールします。押すとボタンが点灯します。

RS-232Cインジケーター：RS-232C端子に接続された機器と本機が通信をしているとき、このインジケーターが点灯します。

❸EJECT (イジェクト)ボタン

カセットを排出するとき押します。カセット排出中は点灯したままです。

本機の下部コントロールパネルを外部操作パネルとして使う場合は、DELETEボタンとSTOPボタンを同時に押すことにより、カセットを排出させることができます。

ご注意

EJECTボタンによるカセットの排出はローカル操作でのみ実行できます。他のVTRのカセットをリモート操作で排出させることはできません。

❹フォーマットインジケーター

現在の再生フォーマットに対応するインジケーター(BETACAM/SP、BETACAM SX、MPEG IMX、Digital BETACAM、HDCAM)が点灯します。

BETACAM/SPは、フォーマットがベータカムまたはベータカムSPの場合に点灯します。

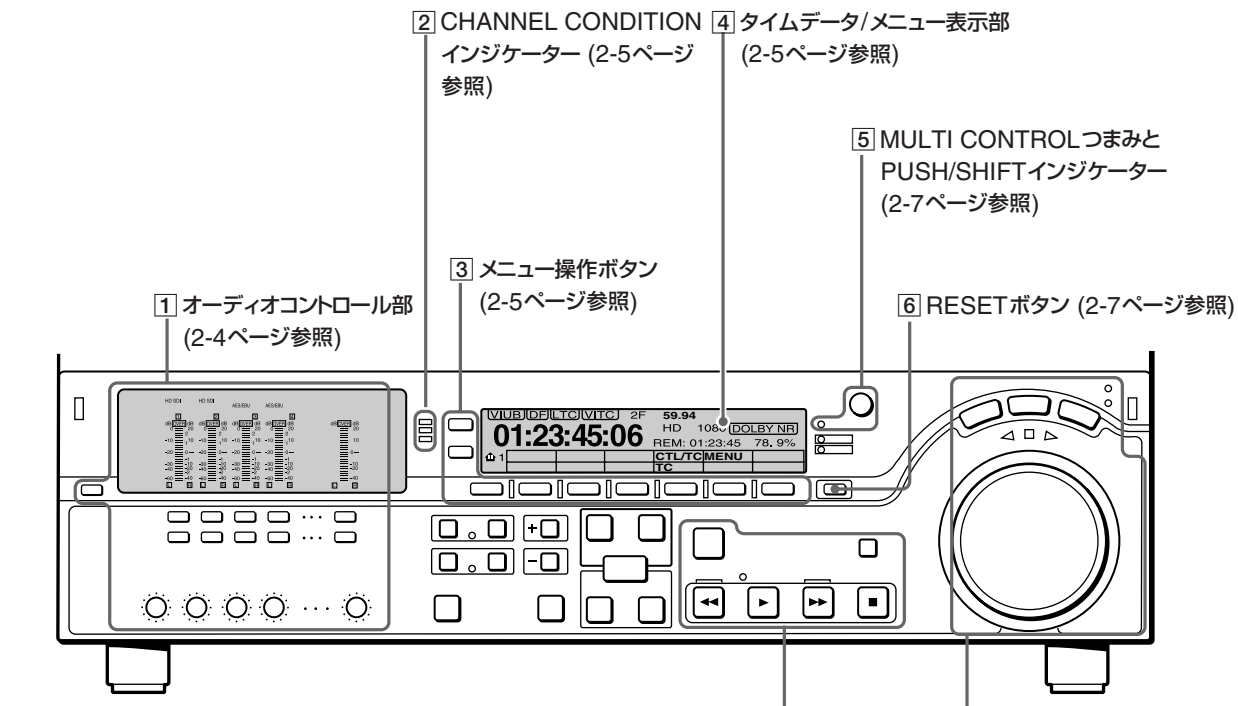
❺PHONES (ヘッドホン)ジャックとつまみ

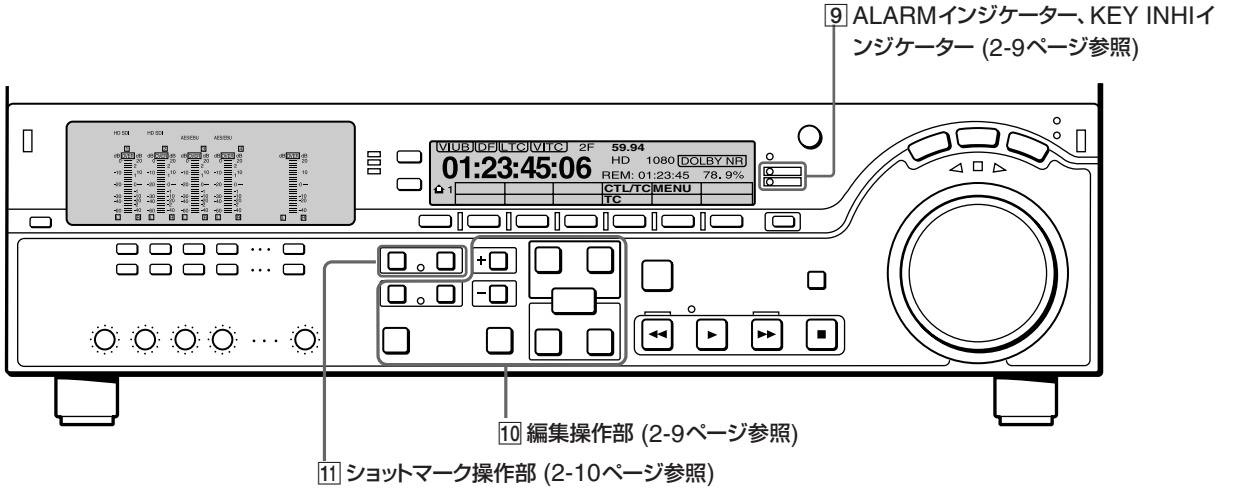
ジャックにインピーダンス8Ωのステレオヘッドホンを接続すると、再生、編集中の音声をモニターできます。音量はつまみで調整します。

内部基板スイッチの設定により、PHONESつまみでMONITOR OUTPUT L/R端子からの出力音量を同時に調整することもできます。

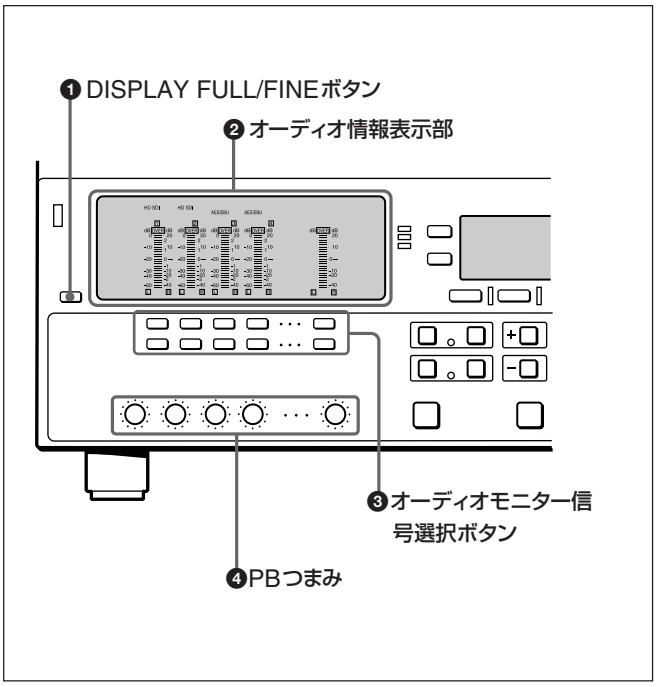
◆ 詳しくはインストレーションマニュアルをご覧ください。

2-1-2 下部コントロールパネル





1 オーディオコントロール部



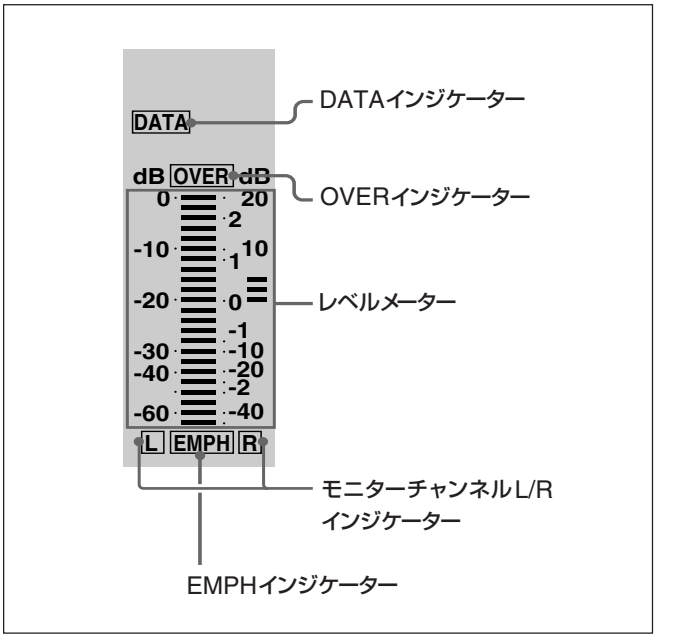
❶DISPLAY FULL/FINE (オーディオレベル表示切り換え)ボタン

押すたびに、オーディオ情報表示部にあるレベルメーターの表示モードを「FULL」と「FINE」の間で切り換えます。

FULL (フル):セットアップメニュー項目806の設定に応じて、−60dB〜0dBまたは−40dB〜+20dBの範囲を表示します。このモードでは、現在のオーディオレベルに対応する表示セグメントおよびその下のすべての表示セグメントが点灯します。

FINE (ファイン):0.25dBステップの目盛りによる拡大表示になり、基準マーカーを示すセグメントが点灯します。このモードでは、現在のオーディオレベルに対応する表示セグメントのみが点灯します。また、オーディオレベルが最大表示レベルを超えた場合は一番上の表示セグメントが、最低表示レベルより低くなった場合は一番下の表示セグメントが、それぞれ点滅します。

❷オーディオ情報表示部



DATA (データ)インジケーター:オーディオ信号がデータ信号として認識されているときに点灯します。

OVER (オーバー)インジケーター:再生中、オーディオ信号がレベルオーバーになったとき点灯します。

レベルメーター:再生モード時に、オーディオ信号のレベルを表示します。セットアップメニューにより、表示モードをPEAK.0 (0dBを最大レベルにする)とREF.0 (0dBを基準レベルにする)の間で切り換えることができます。また、DISPLAY FULL/FINEボタン❶により、基準レベル付近だけを拡大して表示することもできます。

モニターチャンネルL/Rインジケーター:該当トラックの信号がMONITOR OUTPUT L/R端子に出力されるかどうかを示します。「L」が点灯しているときは、該当トラックの信号が左のモニターチャンネルに、「R」が点灯しているときは右のモニターチャンネルに出力されます。

EMPH (エンファシス)インジケーター:再生中の各トラックのオーディオ信号がエンファシス処理されているとき、点灯します。

❸オーディオモニター信号選択ボタン(CH1〜CH4、CUE)

コネクターパネルのMONITOR OUTPUT L/R端子または上部コントロールパネルのPHONESジャックに出力するオーディオチャンネルを選択します。上段(L列)のボタンで、MONITOR OUTPUT L端子に出力するチャンネルを、下段(R列)のボタンで、MONITOR OUTPUT R端子に出力するチャンネルを選択します。

上段または下段で、同時に複数のボタンを押すことにより、複数のチャンネルの信号をミックスして出力することができます。たとえば、上段でCH1、CH2、CH3ボタンを同時に押すと、オーディオチャンネル1、2、3の信号がミックスされてMONITOR OUTPUT L端子に出力されます。
MPEG IMX再生でCH5～CH8をモニターする場合は、CUEボタンを押しCH1～CH4またはCH5～CH8を切り換えてから、希望するチャンネルを選択します。

❹PB (再生音声レベル調整)つまみ
オーディオチャンネル1～4およびCUEの出力レベルを個別に調整します。
再生中にこのつまみを押して飛び出させ、オーディオ情報表示部にあるレベルメーターのオーディオレベル表示を見ながらレベルを調整します。
つまみを押し込んだ状態ではプリセットレベルになり、レベル調整はできません。

2 CHANNEL CONDITION (チャンネルコンディション)インジケーター

3色のインジケーターにより、再生信号の状態を表示します。
緑:再生信号の状態が良好です。
黄:再生信号がいくらか劣化していますが、再生は可能です。
赤:再生信号が劣化しています。このインジケーターが点灯し続ける場合は、ヘッドのクリーニングまたは内部の点検が必要です。

3 メニュー操作ボタン

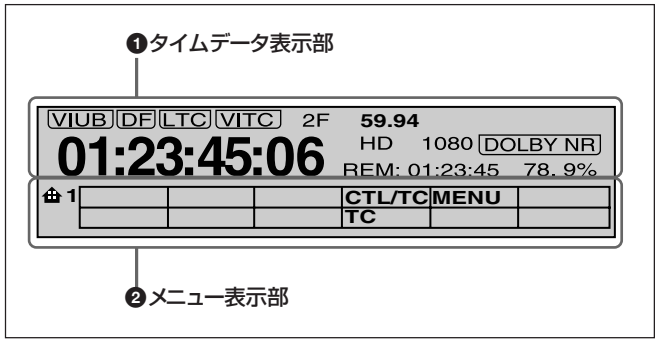
ファンクションメニュー(次項「ファンクションメニューの概要」参照)、およびセットアップメニュー(第10章参照)の操作に使用します。メニュー操作ボタンには、ページ切り換えボタン(▼、▲、HOME)とファンクションボタン(F1～F6)があります。

▼:押すたびに、メニューのページがHOME → 1→ 2 → 3→ 4 → 5 → HOME →...の順序で切り換わります。
▲:押すたびに、メニューのページがHOME → 5 → 4→ 3 → 2→ 1 → HOME →...の順序で切り換わります。
HOME:押すと、ファンクションメニューのHOMEページが表示されます。
F1～F6:メニュー表示部の上段(メニュー項目表示行)に表示されるファンクション(設定項目)の設定を行います。押すと、メニュー表示部の下段(設定内容表示行)に表示される、該当ファンクションの設定が切り換わります。
上段にファンクションが表示されているにもかかわらず、下段に設定内容が表示されていない場合、該当のファンクションボタンを押すと、メニューの下層に移行します。

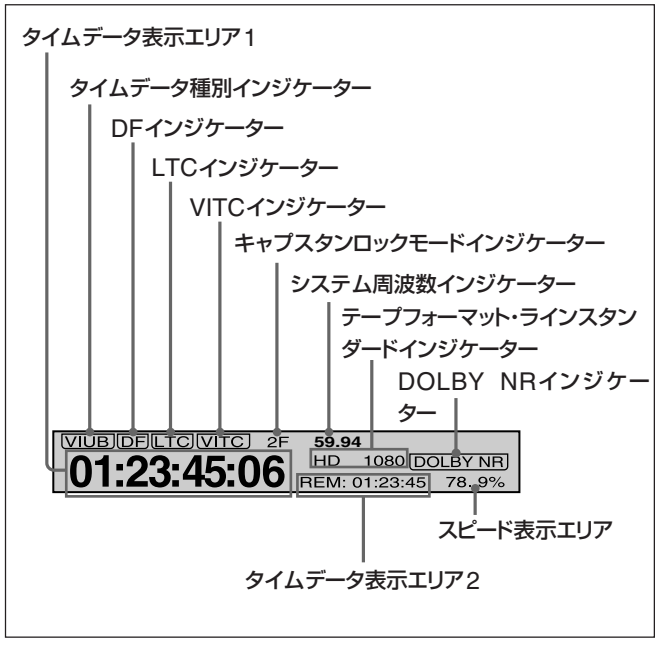
ファンクションメニューの概要
ファンクションメニューは、入力ビデオ信号の選択、タイムコードの設定など、頻繁に行う機能設定のために使用します。

◆ ファンクションメニューについて詳しくは、第9章をご覧ください。

4 タイムデータ/メニュー表示部



❶タイムデータ表示部
各種のタイムデータ、タイムデータ関連のインジケーター類、その他のインジケーターを表示します。



タイムデータ表示エリア1

通常は、ファンクションメニューHOMEページのF4 (CTL/TC)を設定することにより、CTLカウント、タイムコードまたはユーザービット情報を表示します。

タイムデータ種別インジケーター

タイムデータ表示エリア1に表示されるデータの種別を示します。

LTC：テープの長手方向に記録されるタイムコード
LUB：LTCのユーザービットデータ
VITC：垂直ブランキング期間に記録されるタイムコード
VIUB：VITCのユーザービットデータ

DFインジケーター

ドロップフレームモードのタイムコードが表示されると点灯します。

LTCインジケーター

タイムデータ表示エリア1の表示にかかわらず、LTCが現在読み取れているとき点灯します。

VITCインジケーター

タイムデータ表示エリア1の表示にかかわらず、VITCが現在読み取れているとき点灯します。

キャプスタンロックモードインジケーター

ファンクションメニュー4ページ、またはセットアップメニュー項目106で設定したキャプスタンロックモード(2F、4F)を表示します。

システム周波数インジケーター

現在のシステム周波数を示します。

テープフォーマット・ラインスタンダードインジケーター

出力ビデオ信号に関する情報を、テープフォーマットやラインスタンダードの変換状態で表示します。
表示例とその意味を以下に示します。

IMX 1080：MPEG IMXフォーマットで記録された信号を、ラインスタンダード1080の信号に変換して出力する。
DB 1035：デジタルベータカムフォーマットで記録された信号を、ラインスタンダード1035の信号に変換して出力する。
1035→1080：ラインスタンダード1035で記録されたHDCAM信号を、ラインスタンダード1080の信号に変換して出力する。
HD 1080：ラインスタンダード1080で記録された信号を、そのまま出力する。

DOLBY NRインジケーター

ドルビーNR[1]ノイズリダクション回路が機能しているとき点灯します。

スピード表示エリア

DMC再生の速度を表示します。
DMC再生時は、タイムデータ表示エリア2に「DMC SPD」が表示されます。

タイムデータ表示エリア2

データの種別と、編集点のタイムコードまたはテープの全長を表す時間などのタイムデータが表示されます。
データの種別は以下のとおりです。

TOTL：テープの全長を表す時間
REM：テープの残りの長さを表す時間

ファンクションメニュー3ページでF5(T INFO)を設定することにより、TOTL(TOTAL)、REM(REMAIN)のいずれかが表示されます。
表示データはテープ巻径検出値に基づく概算値です。秒単位の精度はありません。
テープトップまたはテープエンドに到達したときは以下のように表示されます。

BOT：テープトップまで戻っている状態
EOT：テープエンドに達している状態

IN：ビデオのIN点
OUT：ビデオのOUT点
AIN：オーディオのIN点
AOUT：オーディオのOUT点
DUR：デュレーション
TCG：内蔵タイムコードジェネレーターが発生するタイムコード

❷メニュー表示部

ファンクションメニューおよびセットアップメニューを表示します。

1) ドルビーNR:ドルビーノイズリダクションはドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。ドルビー、DOLBYおよびダブルD記号□□はドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションの商標です。

◆ ファンクションメニューについて詳しくは第9章を、セットアップメニューについて詳しくは第10章をそれぞれご覧ください。

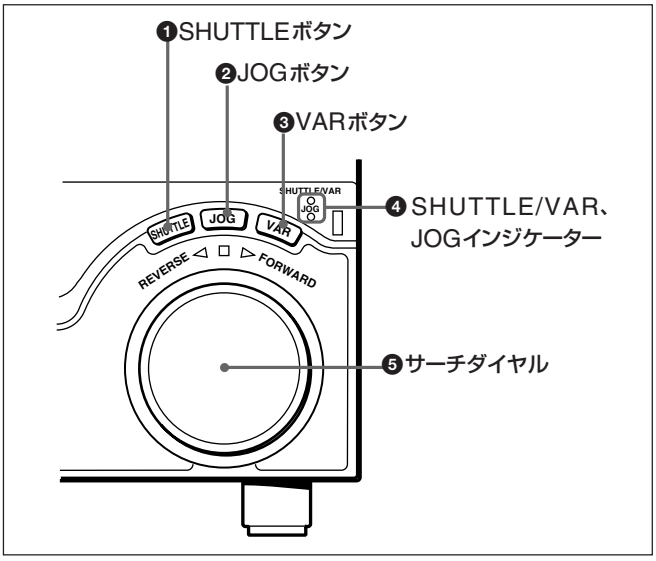
5 MULTI CONTROL (マルチコントロール)つまみとPUSH/SHIFT (プッシュ/シフト)インジケーター

ファンクションメニューの操作で、メニュー表示部に点滅表示されている設定値を変えるとき、MULTI CONTROLつまみを回します。また、セットアップメニューの操作で、メニュー項目を切り換えるときもこのつまみを回します。
つまみを押し込むとPUSH/SHIFTインジケーターが点灯します。この状態のときは、つまみを回す量が同じでも設定値の変化幅が大きくなります。

6 RESET(リセット)ボタン

タイムデータ表示エリア1に表示されているCTL、タイムコード(TC)またはユーザービット(UB)をリセットしたいとき押します。
CTLをリセットすると、設定されている編集点はすべて消去されます。

7 サーチ操作部



❶SHUTTLE (シャトル)ボタン

サーチダイヤルを使用してシャトルモードの再生を行うとき、押して点灯させます。

◆ シャトルモードの再生について、詳しくはサーチダイヤル❺の説明をご覧ください。

❷JOG (ジョグ)ボタン

サーチダイヤルを使用してジョグモードの再生を行うとき、押して点灯させます。

◆ ジョグモードの再生について、詳しくはサーチダイヤル❺の説明をご覧ください。

❸VAR (バリアブル)ボタン

サーチダイヤルを使用してバリアブルモードの再生を行うとき、押して点灯させます。

◆ バリアブルモードの再生について、詳しくはサーチダイヤル❺の説明をご覧ください。

❹SHUTTLE/VAR (シャトル/バリアブル)、JOG (ジョグ)インジケーター

いずれかのインジケーターが点灯し、現在のサーチモードまたは直前に使用したサーチモードを示します。

SHUTTLE/VARインジケーターが点灯: シャトルまたはバリアブルモード

JOGインジケーターが点灯: ジョグモード

なお、電源投入時には、SHUTTLE/VARインジケーターが点灯します。

❺サーチダイヤル

次表に示すモードの再生を行うとき回します。
右に回すと▷(FORWARD)インジケーターが点灯して、正方向に再生されます。左に回すと◁(REVERSE)インジケーターが点灯して、逆方向に再生されます。停止中は□インジケーターが点灯します。なお、電源投入時には□インジケーターが点灯します。
押すたびにシャトルモードとジョグモード、またはバリアブルモードとジョグモードが切り換わります。
テープのフォーマットにより、下記の速度範囲内でノイズレス再生ができます。

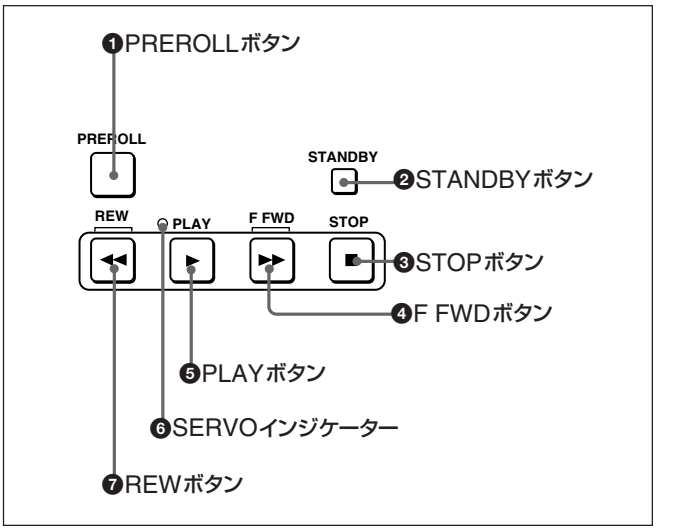
HDCAM:−1〜+2倍速
デジタルベータカム:−1〜+3倍速
MPEG IMX:−1〜+3倍速
ベータカムSX:−1〜+2倍速
ベータカム/ベータカムSP:−1〜+3倍速

サーチダイヤルによる再生のモード

再生モード	操作・機能
シャトル	SHUTTLEボタンまたはサーチダイヤルを押してSHUTTLEボタンを点灯させてから、サーチダイヤルを回します。サーチダイヤルの回転角度に応じた速度で再生が行われます。再生速度範囲は以下のとおりです。 • HDCAMテープ使用時：±50倍速（59.94i、29.97PsFモード）、±58倍速（50i、25PsFモード）、±60倍速（24PsF、23.98PsFモード） • デジタルベータカムテープ使用時：±50倍速 • MPEG IMXテープ使用時：±78倍速 • ベータカムSXテープ使用時：±78倍速 • アナログベータカムテープ使用時：±35倍速（525/59.94モード）、±42倍速（625/50モード） サーチダイヤルは静止画と±5倍速の位置でクリックします。シャトル再生の最高速度は、セットアップメニュー項目102 (10-9ページ参照)によって変更することができます。
ジョグ	JOGボタンまたはサーチダイヤルを押してJOGボタンを点灯させてから、サーチダイヤルを回します。サーチダイヤルの回転速度に応じた速度で再生が行われます。再生速度範囲は±1倍速です。 サーチダイヤルはクリックしません。
バリアブル	VARボタンを押して点灯させてから、サーチダイヤルを回します。ノイズレス再生ができる速度範囲内で再生速度を細かくコントロールできます。 • HDCAM、ベータカムSXテープ使用時：最大51段階 • デジタルベータカム、MPEG IMX、アナログベータカムテープ使用時：最大54段階 サーチダイヤルは静止画と±1倍速の位置でクリックします。
キャプスタンオーバーライド	操作について詳しくは4-4ページをご覧ください。

◆ セットアップメニュー項目101 (10-9ページ参照)をKEY に設定して、シャトル/ジョグ/バリアブルモードの切り換えをSHUTTLE/JOG/VARボタンだけで行えるようにすることもできます。

8 テープ走行制御部



❶PREROLL (プリロール)ボタン

テープをプリロール点(IN点からプリロール時間だけ手前の位置)まで走行させるとき押します。プリロール時間、およびプリロール終了時の状態(ストップモード[1]または静止画モード)は、セットアップメニュー項目001およびセ401で変更、選択することができます。

DMC再生点を頭出しするには

STUNT IN、STUNT OUT、PLAY IN、またはPLAY OUTボタンを押したままPREROLLボタンを押すと、対応するDMC再生点を頭出しすることができます。

❷STANDBY (スタンバイ)ボタン

カセットが挿入されていて、このボタンが消灯している状態で、VTRをスタンバイモードにするとき、押して点灯させます。

スタンバイモードでは、ドラムが回転し、テープがドラムに密着しているため、再生を即座に開始することができます。

スタンバイモードを解除するには、STANDBYボタンを押して消灯させます。

また、スタンバイモードのまま8分(セットアップメニュー項目501で変更可能)が経過すると、テープ保護のためスタンバイモードは自動的に解除されます。

1) ストップモード：操作対象デバイスが停止していて、STOPボタンが点灯している状態。

❸STOP (停止)ボタン
再生を停止するとき、押して点灯させます。

異常表示機能
基準信号に関し、以下の場合に点滅します。
- セットアップメニュー項目105がONに設定されているときに、外部基準ビデオ信号が入力されていない。
- セットアップメニュー項目337で指定した信号と異なる外部基準ビデオ信号が入力されている。

❹F FWD (早送り)ボタン
テープを早送りするとき、押して点灯させます。

❺PLAY (再生)ボタン
再生を開始するとき、押して点灯させます。

キャプスタンオーバーライドモードの操作をしたいとき
PLAYボタンを押したまま、サーチダイヤルを回します。

◆ キャプスタンオーバーライドモードについて詳しくは、4-4ページをご覧ください。

❻SERVO (サーボ)インジケーター
ドラムサーボおよびキャプスタンサーボがロックすると点灯します。

❼REW (巻き戻し)ボタン
テープを巻き戻すとき、押して点灯させます。

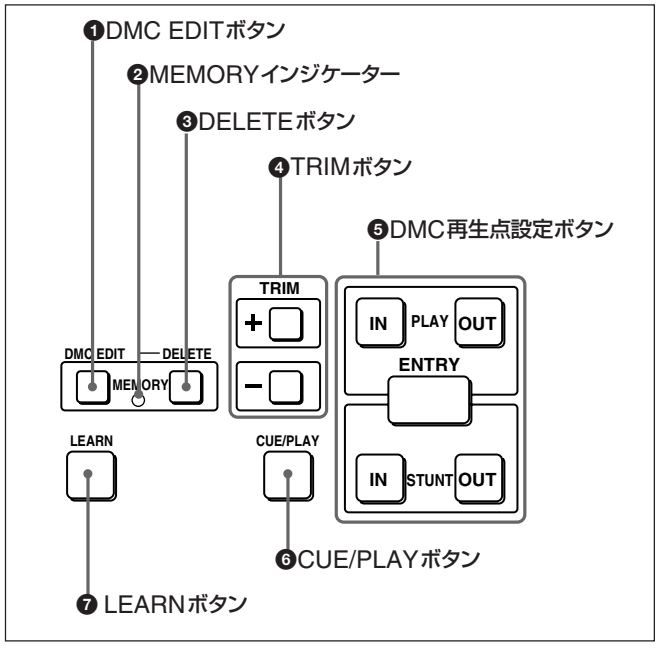
9 ALARMインジケーター、KEY INHIインジケーター

ALARM (アラーム)インジケーター
本機のハードウェアエラーが検出されると点灯し、エラー状態が解除されると消灯します。このインジケーターが点灯すると、タイムデータ/メニュー表示部にエラーメッセージが表示されます。HDSDI OUTPUT3 (SUPER)端子、SDI OUTPUT 3 (SUPER)端子またはCOMPOSITE VIDEO OUTPUT 3 (SUPER)端子使用時は、ファンクションメニュー4ページのF4 (CHARA)をONにしておくと、モニター画面にもエラーメッセージが表示されます。

◆ エラーメッセージについて詳しくは、メンテナンスマニュアル Volume 1の1-24項をご覧ください。

KEY INHI (キー操作禁止)インジケーター
スイッチパネルのKEY INHIスイッチ(2-11ページ参照)がONのとき点灯します。

10 編集操作部



❶DMC EDIT (DMC編集)ボタン
−1〜+2倍速の任意の速度での再生を記憶し、自動再生、自動編集するとき使用します。

❷MEMORY (メモリー)インジケーター
DMC EDITボタンを使って任意の速度での再生を記憶するとき、再生速度を記憶中は点滅し、記憶が完了すると点灯します。

❸DELETE (削除)ボタン

編集点を削除します。

このボタンを押したまま、削除したい編集点に応じて、点灯しているSTUNT IN、STUNT OUT、PLAY IN、PLAY OUTボタンのいずれかを押します。ボタンは消灯または点滅します。削除した編集点のボタン(STUNT IN、STUNT OUT、PLAY IN、PLAY OUT)が点滅しているときは、その編集点を再設定する必要があります。

DMCモードをキャンセルするには、DMC EDITボタンを押したまま、DELETEボタンを押します。

❹TRIM (微修正)ボタン

いったん設定した編集点を1フレーム単位で修正します。

STUNT IN、STUNT OUT、PLAY IN、PLAY OUTボタンのいずれかを押したまま、2つのTRIMボタンのいずれかを押します。＋ボタンを押すと1フレーム進み、－ボタンを押すと1フレーム戻ります。

PLAYボタンを押したまま＋ボタンまたは－ボタンを押すと、テープスピードをそれぞれ＋8%または－8%変えることができます。(キャプスタンオーバーライド機能)

❺DMC再生点設定ボタン

PLAY IN (オンエア開始点指定)ボタンとPLAY OUT (オンエア終了点指定)ボタン

オンエア開始点、終了点を設定したいとき、PLAY INボタンまたはPLAY OUTボタンを押したまま、ENTRYボタンを押します。

設定した後に、PLAY INボタンまたはPLAY OUTボタンを押すと、設定したオンエア開始点またはオンエア終了点がタイムデータ表示エリア2に表示されます。

STUNT IN (変速開始点指定)ボタンとSTUNT OUT (変速終了点指定)ボタン

変速開始点、終了点を設定したいとき、STUNT INボタンまたはSTUNT OUTボタンを押したまま、ENTRYボタンを押します。

設定した後に、STUNT INボタンまたはSTUNT OUTボタンを押すと、設定した変速開始点または終了点がタイムデータ表示エリア2に表示されます。

ENTRY (エントリー)ボタン

DMC再生点の設定などに使用します。

- **変速開始点、終了点を設定するには：**STUNT INボタンまたはSTUNT OUTボタンを押したまま、このボタンを押します。
- **オンエア開始点、終了点を設定するには：**PLAY INボタンまたはPLAY OUTボタンを押したまま、このボタンを押します。

❻CUE/PLAY(キューアップ/再生)ボタン

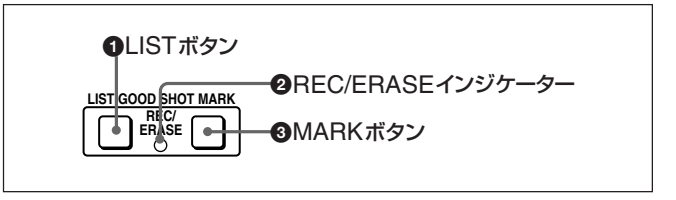
オンエア開始点または終了点の設定後にこのボタンを押すと、オンエア開始点にキューアップして、ボタンが点滅してDMC再生の待機状態になります。この状態でもう一度ボタンを押すと、DMC再生が始まります。

❼LEARN (ラーン)ボタン

変速開始点および終了点の設定後にこのボタンを押すと、テープが走行し始めます。このあとサーチダイヤルを操作すると、操作に応じた再生速度が記憶されます。

記憶完了後にこのボタンをもう一度押すと、変速開始点から終了点までが記憶した速度で自動的に再生されます。

11 ショットマーク操作部



❶LIST (リスト)ボタン

ショットマークの読み込みやリスト表示に使用します。

❷REC/ERASE (書き込み/消去)インジケーター

以下の状態を表示します。

点灯：ショットマークの書き込み、変更、消去を作業できる状態のとき

点滅：ショットマークの書き込み、変更、消去を作業しているとき

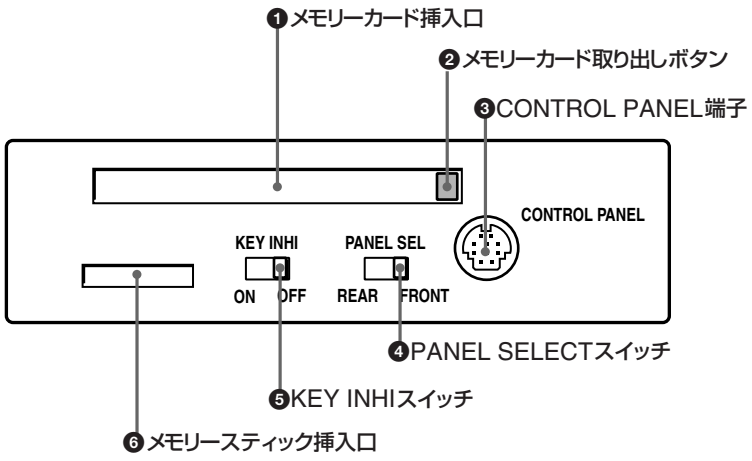
❸MARK (マーク)ボタン

このボタンを2秒以上押すと、ショットマークの書き込み、変更、消去ができる状態になります。

2-1-3 スイッチパネル

スイッチパネルは、下部コントロールパネルを開いた奥にあります。

◆ 下部コントロールパネルの開けかたについては、2-1ページの図をご覧ください



❶メモリーカード挿入口

メモリーカードを使用して内蔵ソフトウェアのアップデートを行います。また、セットアップメニューの設定内容の保存/読み込みを行うこともできます。

◆ 内蔵ソフトウェアのアップデートについては、メンテナンスマニュアルVolume 1をご覧ください。

❷メモリーカード取り出しボタン

メモリーカード挿入口に挿入したメモリーカードを取り出すとき、押します。

❸CONTROL PANEL (コントロールパネル)端子(丸型10ピン)

下部コントロールパネルのケーブルを接続します。

❹PANEL SELECT (パネル選択)スイッチ

本機には、下部コントロールパネルに加え、それと同等のコントロールパネルを接続することができます。PANEL SELECTスイッチは、2枚のコントロールパネルを接続したとき、どちらのパネルを有効にするかを設定します。

FRONT (フロント):CONTROL PANEL端子に接続したコントロールパネルを有効にします。

REAR (リア):コネクターパネルのCONTROL PANEL端子に接続したコントロールパネルを有効にします。

セットアップメニュー項目117が「PARA」に設定されているときは、本スイッチパネルのCONTROL PANEL端子に接続したコントロールパネルも同時に有効になります。

❺KEY INHI (キー 操作禁止)スイッチ

ONの位置にすると、上部コントロールパネルおよび下部コントロールパネルの操作部品の多くが操作禁止状態になります。セットアップメニュー項目118により、操作禁止にするボタンやつまみを指定することができます。

❻メモリースティック挿入口

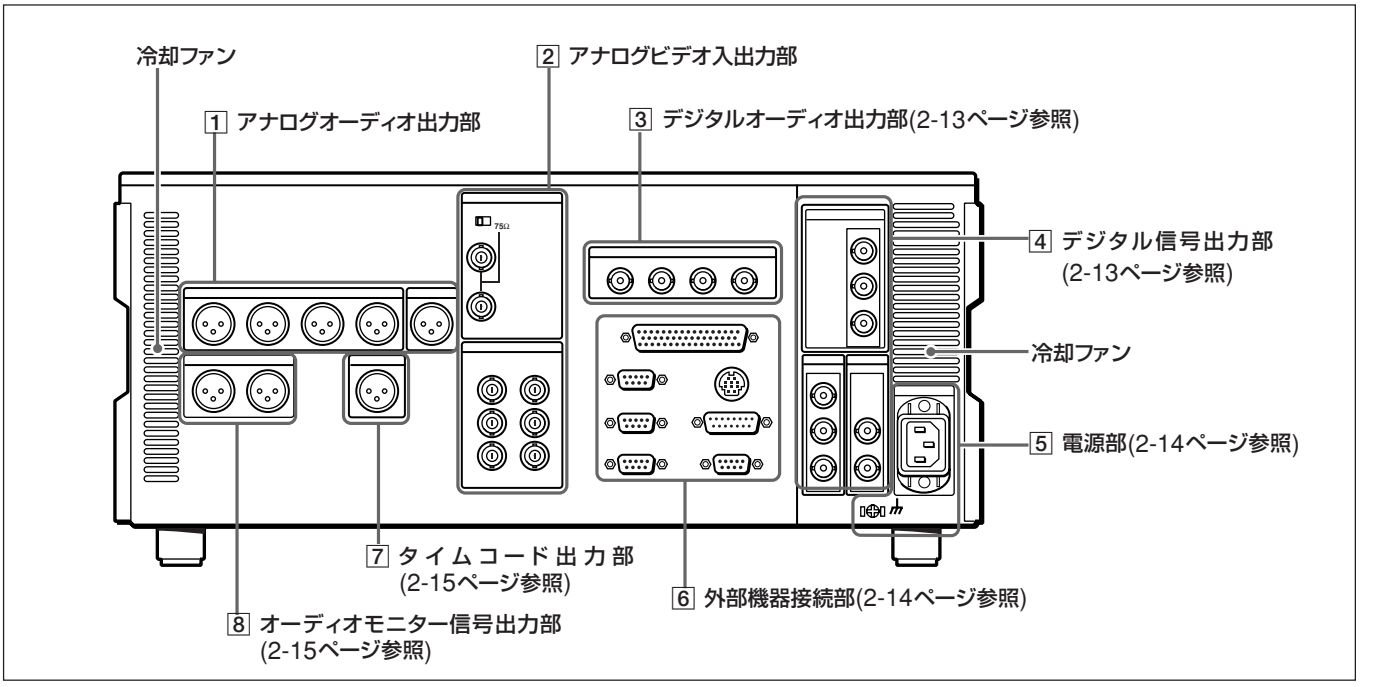
メモリースティックを使用して内蔵ソフトウェアのアップデートを行います。また、セットアップメニューを行います。また、セットアップメニューの設定内容の保存/読み込みを行うこともできます。

ご注意

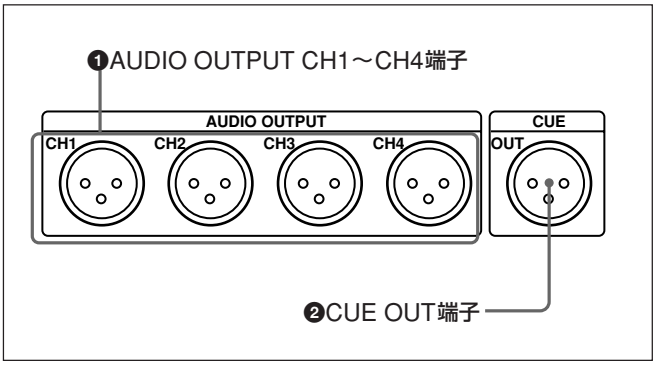
メモリースティック (メモリーカード)を取り外すときは、メモリースティック挿入後、約5秒以上経過してから取り外すようにしてください。

◆ 内蔵ソフトウェアのアップデートおよびセットアップメニューの設定内容の保存/読み込みについては、メンテナンスマニュアルVolume 1をご覧ください。

2-2 コネクターパネル



1 アナログオーディオ出力部



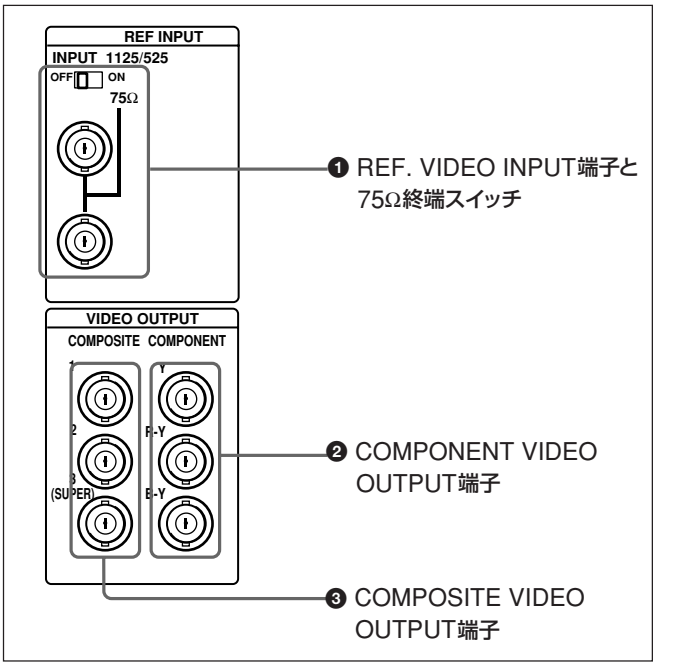
❶AUDIO OUTPUT CH1～CH4 (オーディオ出力 CH1～CH4)端子(XLR 3ピン、凸)

チャンネル1～4のアナログオーディオ信号を出力します。

❷CUE OUT (キューオーディオ出力)端子 (XLR 3ピン、凸)

アナログキューオーディオ信号を出力します。

2 アナログビデオ入出力部



❶REF. VIDEO INPUT (基準ビデオ信号入力) 端子 (BNC型) と75Ω終端スイッチ

基準ビデオ信号を入力します。正負両極性3値同期信号、クロマバースト付きのビデオ信号(VBS)または白黒ビデオ信号(VS)を入力してください。

ブリッジ接続するときは75Ω終端スイッチをOFFに、しないときはONに設定します。

❷COMPONENT VIDEO OUTPUT (コンポーネントビデオ出力)端子(BNC型)

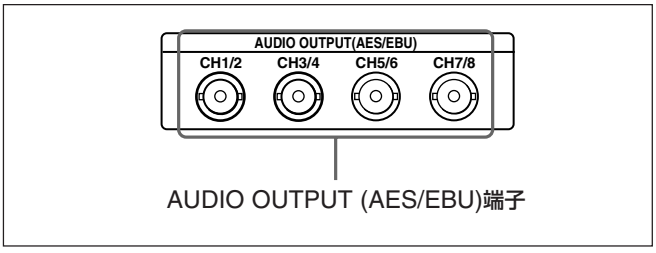
アナログコンポーネントビデオ信号(Y/R−Y/B−Y)を出力します。

❸COMPOSITE VIDEO OUTPUT (コンポジットビデオ出力)端子(BNC型)

アナログコンポジットビデオ信号を出力します。

ファンクションメニュー4ページでF4 (CHARA)が「ON」に設定されているときは、3 (SUPER)端子からタイムコード、メニュー設定、アラームメッセージなどの文字情報がスーパーインポーズされて出力されます。

3 デジタルオーディオ出力部

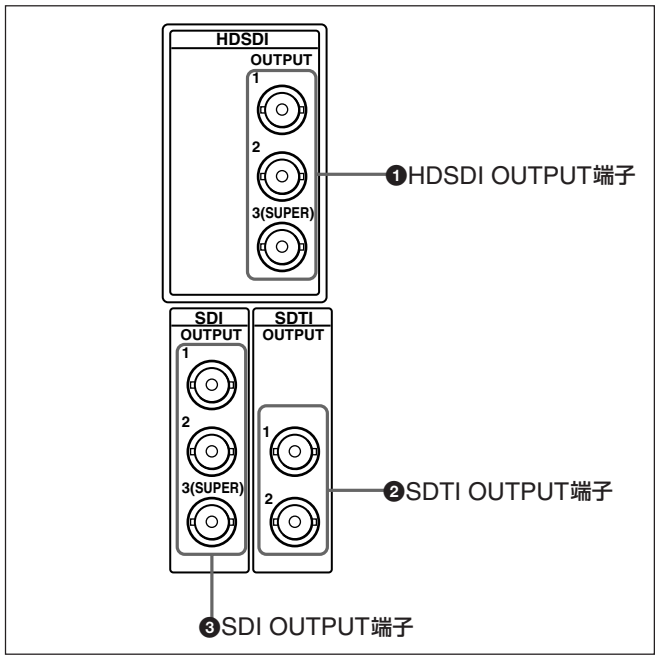


AUDIO OUTPUT (AES/EBU) (AES/EBUオーディオ出力)端子(BNC型)

最大4系統(8チャンネル:CH1/2、CH3/4、CH5/6、CH7/8)のAES/EBUフォーマットのデジタルオーディオ信号を出力します。

ただし、HDW-A2100は2系統(4チャンネル:CH1/2、CH3/4)のみとなります。

4 デジタル信号出力部



❶HDSDI OUTPUT端子 (HDシリアルデジタルインターフェース出力) (BNC型)

HDフォーマットのビデオ/オーディオ信号を出力します。

ファンクションメニュー4ページでF4 (CHARA)が「ON」に設定されているときは、3 (SUPER)端子からタイムコード、メニュー設定、アラームメッセージなどの文字情報がスーパーインポーズされて出力されます。

❷SDTI OUTPUT (シリアルデータトランスポートインターフェース出力)端子(BNC型) (オプション)

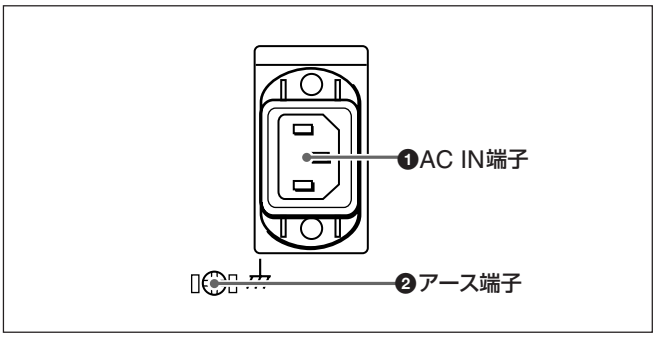
SDTIフォーマットのビデオ/オーディオ信号を出力します。

❸SDI OUTPUT (シリアルデジタルインターフェース出力)端子(BNC型)

D1フォーマットのビデオ/オーディオ信号を出力します。

ファンクションメニュー4ページでF4 (CHARA)が「ON」に設定されているときは、3(SUPER)端子からタイムコード、メニュー設定、アラームメッセージなどの文字情報がスーパーインポーズされて出力されます。

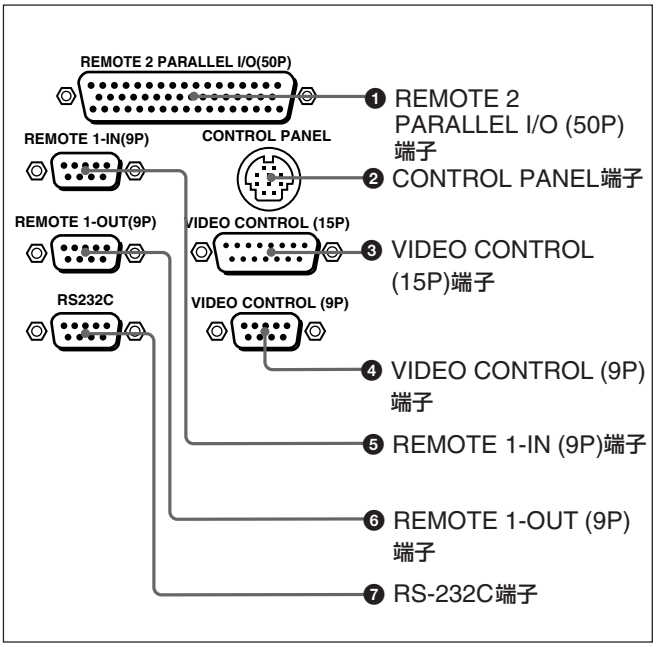
5 電源部



❶AC IN (AC電源入力)端子
付属の電源コードを使って電源コンセントに接続します。

❷アース端子
必要に応じて接地します。

6 外部機器接続部



❶REMOTE 2 (リモート2) PARALLEL I/O (50P) (パラレル入出力)端子 (D-sub 50ピン)
外部からのリモートコントロール信号を接続します。

◆ 詳しくは、インストレーションマニュアルをご覧ください。

❷CONTROL PANEL (コントロールパネル)端子 (丸型10ピン)
下部コントロールパネルに加え、それと同等のコントロールパネルを接続することができます。もう1つのコントロールパネルを接続するには、このコネクターを使用します。2枚のコントロールパネルを接続したとき、スイッチパネルのPANEL SELECTスイッチ(2-11ページ)を使用して、どちらのパネルを有効にするかを設定します。

❸VIDEO CONTROL (15P) (デジタルビデオプロセッサーコントロール)端子 (D-sub 15ピン)
内蔵のデジタルビデオプロセッサーをリモートコントロールするとき、別売りのビデオリモートコントローラーBVR-50などを接続します。
ビデオリモートコントローラーを接続するときは、必ず本機の電源を切ってください。

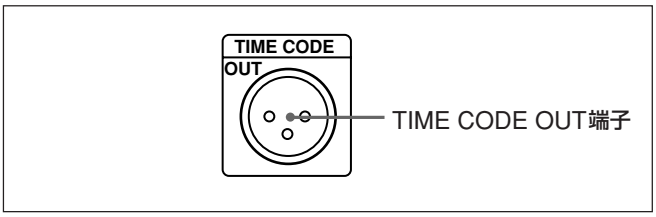
❹VIDEO CONTROL (9P) (デジタルビデオプロセッサーコントロール)端子 (D-sub 9ピン)
内蔵のデジタルビデオプロセッサーをリモートコントロールするとき、別売りのビデオリモートコントローラーHKDV-900などを接続します。ビデオリモートコントローラーを接続するときは、必ず本機の電源を切ってください。

❺REMOTE 1-IN (9P) (リモートコントロール信号入力)端子 (D-sub 9ピン)
本機ともう一台のＨＤＣAM VTRを組み合わせて、BVEシリーズ編集機BVE-700/900/910/2000/9000/9100などで編集するとき、別売りの9ピンリモートコントロールケーブルで相手機器と接続します。
セットアップメニュー項目211の設定により、この端子を単独で使用することも、REMOTE 1-OUT(9P)端子とループスルーの関係で使用することもできます。

❻REMOTE 1-OUT (9P) (リモートコントロール信号出力) 端子 (D-sub 9ピン)
REMOTE 1-IN(9P)端子に入力されたリモートコントロール信号をループスルーで出力します。
セットアップメニュー項目211の設定により、この端子を単独で使用することも、REMOTE 1-IN(9P)端子とループスルーの関係で使用することもできます。

❼RS-232C (RS-232Cシリアルインターフェース)端子(D-sub 9ピン)
ISR (Interactive Status Reporting)により、外部のコンピューターから本機の運用監視や自己診断などを行う場合に使用します。

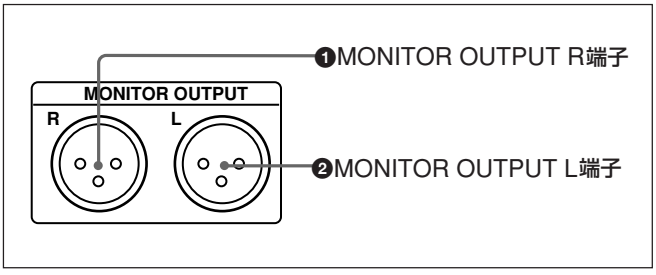
7 タイムコード出力部



TIME CODE OUT (タイムコード出力)端子 (XLR 3ピン、凸)

再生タイムコードを出力します。
セットアップメニュー項目606の設定により、再生タイムコードにロックした内蔵タイムコードジェネレーターのタイムコードを出力することもできます。

8 オーディオモニター信号出力部



❶MONITOR OUTPUT R (モニター出力右チャンネル)端子(XLR 3ピン、凸)

オーディオコントロール部のオーディオモニター信号選択ボタンで出力先モニターチャンネルを「R」に設定したトラックのオーディオ信号を出力します。複数のトラックについて「R」が設定されている場合は、それらのトラックの信号がミックスされて出力されます。

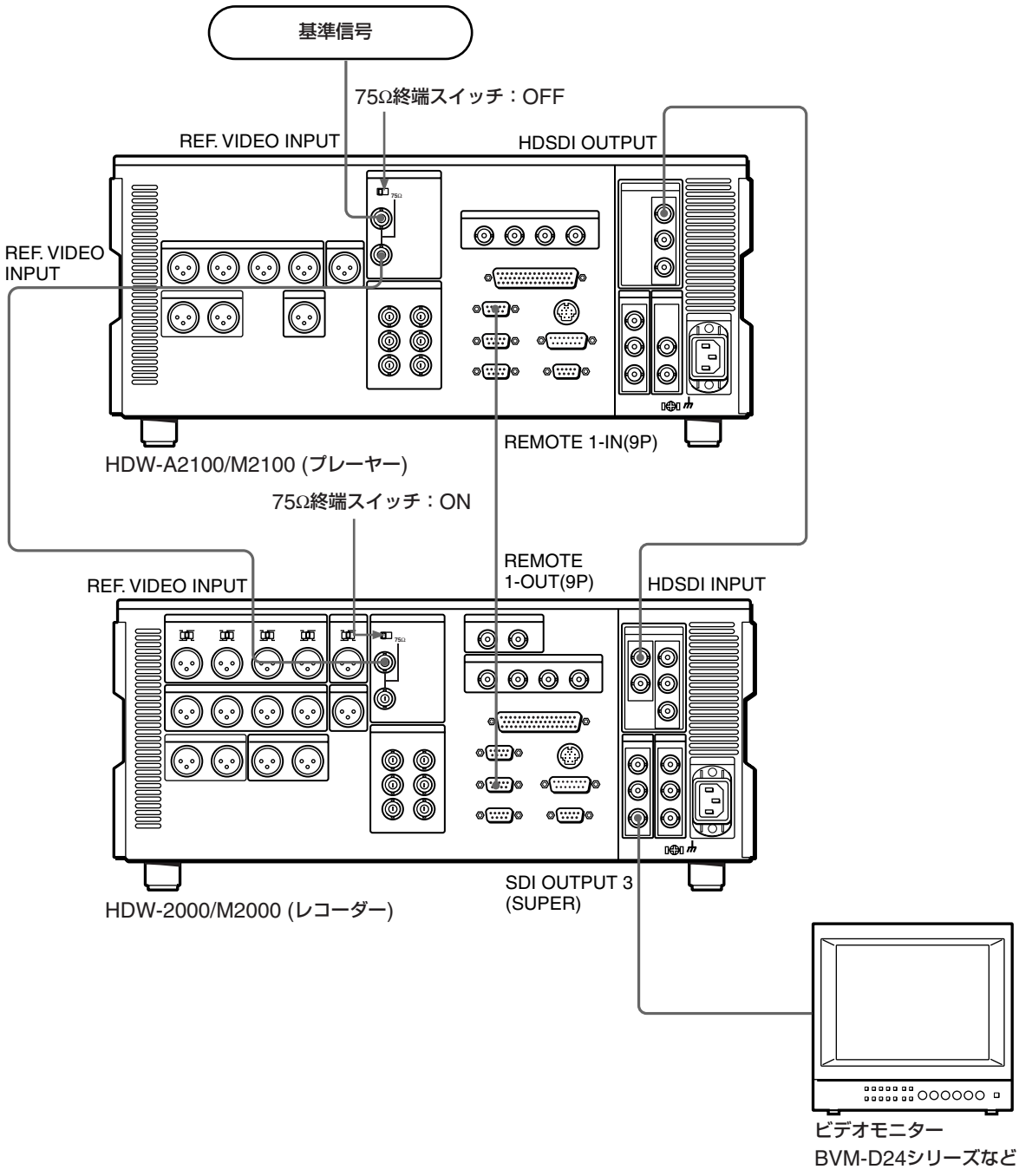
❷MONITOR OUTPUT L (モニター出力左チャンネル)端子(XLR 3ピン、凸)

オーディオコントロール部のオーディオモニター信号選択ボタンで出力先モニターチャンネルを「L」に設定したトラックのオーディオ信号を出力します。複数のトラックについて「L」が設定されている場合は、それらのトラックの信号がミックスされて出力されます。

3-1 外部機器との接続

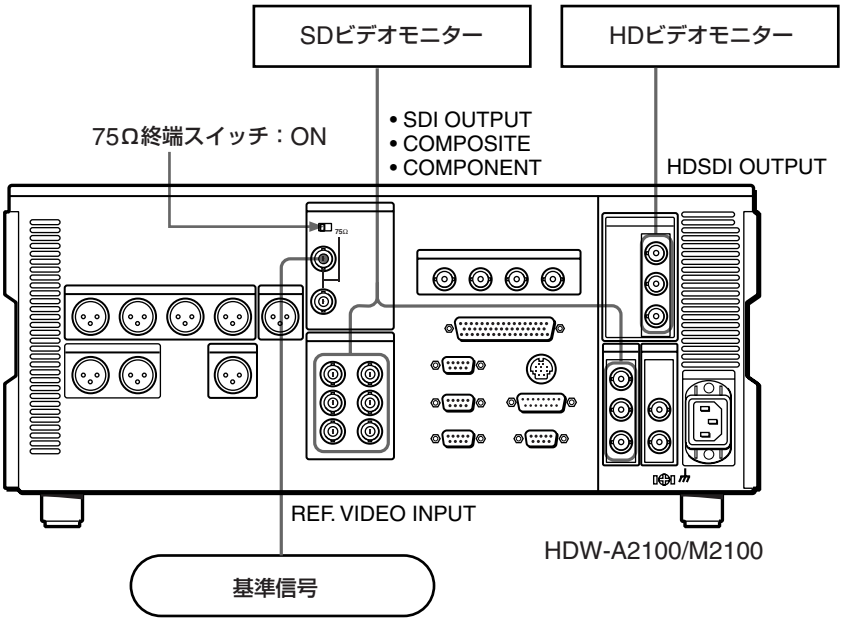
3-1-1 デジタル機器との接続

下図に、本機(HDW-A2100/M2100)をプレーヤーとして、HDW-2000/M2000をレコーダーとして使用する場合の接続例を示します。



3-1-2 基準信号の接続

基準ビデオ信号は下図のように接続します。



3-2 セットアップ

本機では、操作前の主要なセットアップを、メニュー操作により行えるようになっています。
本機で使用するセットアップメニューには、基本メニューと拡張メニューがあり、それぞれ以下のような項目があります。

基本メニュー

- デジタル時間計(アワーズメーター)に関する項目
- 操作に関する項目
- メニューバンクに関する項目

拡張メニュー

- コントロールパネルに関する項目
- リモートコントロールインターフェースに関する項目
- 編集に関する項目
- プリロールに関する項目
- テープ保護に関する項目
- タイムコードジェネレーターに関する項目
- ビデオコントロールに関する項目
- オーディオコントロールに関する項目
- デジタルプロセスに関する項目

◆ これらのメニューの操作方法および各メニューの項目の詳細については、「第10章 セットアップメニュー」をご覧ください。
ただし、基本メニューのデジタル時間計に関する項目と設定操作については、「11-5-1 デジタル時間計」(11-5ページ)をご覧ください。

本機では、メニューの設定をメニューバンクに保存しておくことができます。保存したメニュー設定は、必要時に呼び出して使用することができます。

◆ 詳しくは、「メニューバンクの操作(メニュー項目B01～B13)」(10-5ページ)をご覧ください。

3-3 スーパーインポーズされる文字情報

ファンクションメニューの CHARAを ONにすると、HDSDI OUTPUT 3 (SUPER)端子、SDI OUTPUT 3 (SUPER)端子またはCOMPOSITE VIDEO OUTPUT 3 (SUPER)端子から出力されるビデオ信号にタイムコード、メニュー設定、アラームメッセージなどの文字情報をスーパーインポーズ(重ねて表示)することができます。

文字の調節

スーパーインポーズされる文字の位置、大きさ、種類は、セットアップメニュー項目の 002、003、005、009、011 で設定します。

◆ 詳しくは、「10-3 基本メニューの項目」(10-6ページ)をご覧ください。

表示内容

ご注意

上記の表示内容は工場出荷時の状態での例です。
セットアップメニュー項目の005を変更することにより、2行目にも異なる種類のタイムデータを表示させることもできます。

◆詳しくは、「10-3 基本メニューの項目」(10-6ページ)をご覧ください。

❶ タイムデータの種類

表示	意味
CTL	CTLカウンターのデータ
TCR	LTCリーダーのタイムコード
UBR	LTCリーダーのユーザービット
TCR.	VITCリーダーのタイムコード
UBR.	VITCリーダーのユーザービット
IN	IN点
OUT	OUT点
AI	オーディオ IN点
AO	オーディオ OUT点
DUR	4個の編集点(IN、OUT、オーディオ IN、オーディオ OUT)のうち任意の2点間のデュレーションを表示するとき

ご注意

タイムデータやユーザービットを正しく読みとれなかったときは、“T*R”、“U*R”、“T*R.”、“U*R.”のように、このブロックに“*”マークが表示されます。

❷ タイムコードリーダーのドロップフレームマーク (59.94i、29.97PsFモードのみ)

“.”：ドロップフレームモードのとき

“:”：ノンドロップフレームモードのとき

❸ VITCデータのフィールドマーク

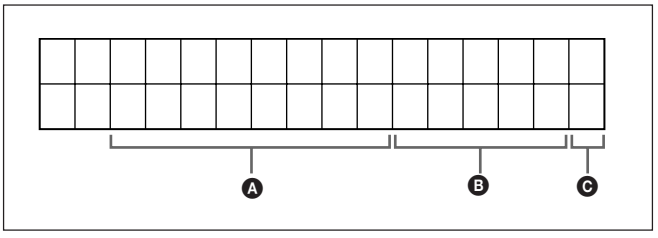
“ ” **ブランク(空白)**：フィールド1、3 (59.94i、29.97PsFモード)またはフィールド1、3、5、7 (50i、25PsFモード)を表示するとき

“*”：フィールド2、4 (59.94i、29.97PsFモード)またはフィールド2、4、6、8 (50i、25PsFモード)を表示するとき

❹ 本機の動作モード

表示内容は、下図のようにA、B、Cの3ブロックに分かれています。

- Aブロック：動作モード
- Bブロック：サーボロック状態またはテープ速度
- Cブロック：自動編集の編集区間を表す■マーク



表示		動作モード
Aブロック	Bブロック	
TAPE UNTHREAD		カセットが装着されていない
STANDBY OFF		スタンバイオフモード
T. RELEASE		テープテンションリリースモード
STOP		ストップモード
F.FWD		早送りモード
REW		巻き戻しモード
PREROLL		プリロールモード
PLAY		再生モード(サーボアンロック)
PLAY	LOCK	再生モード(サーボロック)
PLAY	1倍速からの速度偏差(%)	キャプスタンオーバーライドモード (4-4ページ参照)
JOG	STILL	ジョグモードの静止画
JOG	FWD	正方向のジョグ
JOG	REV	逆方向のジョグ
SHUTTLE	(速度)	シャトルモード
VAR	(速度)	バリアブルモード
DMC	(速度)[a)]	DMC再生モード
D-PREV	(速度)[a)]	DMC編集のプレビューモード
D-EDIT	(速度)[a)]	DMC編集モード
DMC-SPD	(速度)	DMCの初期速度設定時
PLAY	1倍速からの速度偏差(%)	テープスピードオーバーライドモード (セットアップメニュー項目111でTSOを選択した場合)

a) 初期速度または記憶された速度

3-4 カセットの取り扱い

3-4-1 使用可能なカセット

下表に示すHDCAM用カセットを、再生に使用してください。

HDCAM用カセット

Sカセット	BCT-6HD/12HD/22HD/32HD/40HD
Lカセット	BCT-34HDL/64HDL/94HDL/124HDL

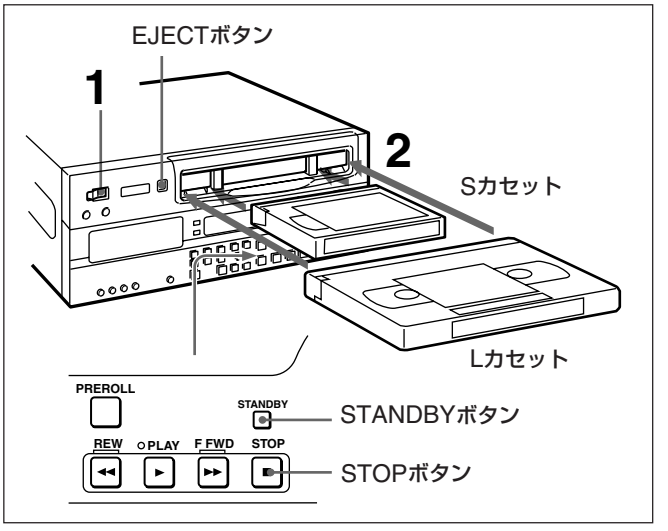
また、以下のカセットも再生できます。

- デジタルベータカムカセット（HDW-M2100のみ）
- MPEG IMXカセット（HDW-M2100のみ）
- ベータカムSXカセット（HDW-M2100のみ）
- ベータカムSPカセット（メタルテープ）
- ベータカムカセット（オキサイドテープ）

3-4-2 カセットを出し入れするには

カセットの出し入れは、電源が入った状態で行ってください。

カセットを入れるには



1 POWERスイッチをONにする。

2 次の点を確認してから、カセットを図の向きにして挿入する。

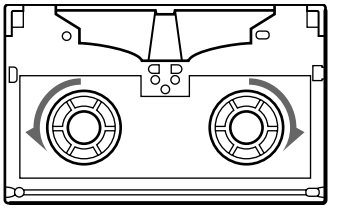
- タイムデータ/メニュー表示部に“ERR-10”と表示されていない。
- テープにたるみがない。

カセットが引き込まれてSTANDBYボタンとSTOPボタンが点灯します。

◆ タイムデータ/メニュー表示部に“ERROR-10”と表示されている場合は、本機内部に結露が発生しています。

テープのたるみを取るには

指で一方のリールを押し込みながら、リールが回らなくなるまで矢印の方向へ軽く回します。



カセットを取り出すには

EJECTボタンを押します。

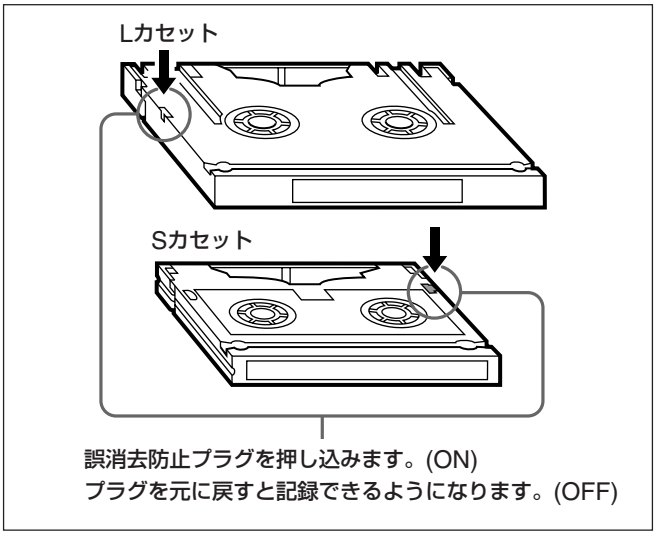
ご注意

カセットの排出はローカル操作でのみ実行できます。他のVTRのカセットをリモート操作で排出させることはできません。

◆ 本機内部でのテープのたるみのため、EJECTボタンを押してもカセットが排出されなくなった場合のカセットの取り出しかたについては、インストレーションマニュアルをご覧ください。

3-4-3 ストップコードおよびショットマークの記録を禁止するには

ストップコードおよびショットマークを誤って記録するのを防ぐには、誤消去防止プラグを押し込みます。



3-5 メモリースティックの取り付け

別売りの**メモリースティック**を使用すると、ファイル情報を保存し、他のVTRでも同じファイル情報を共有することができます。

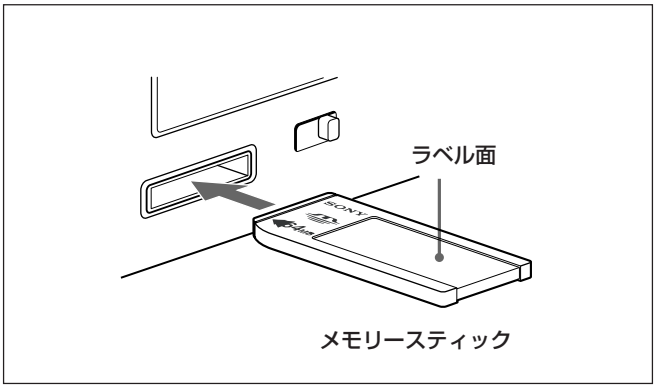
ご注意

メモリースティックは、本VTRでフォーマットしたものを使用し、他の機種や機器と共用しないでください。

◆ 詳しくは、メンテナンスマニュアルをご覧ください。

メモリースティックを取り付けるには

ラベル面を上にして、端子を奥に向けて**メモリースティック**装着部に差し込みます。カチッと音がするまで差し込んでください。



ご注意

アクセス中は**メモリースティック**の抜き差しはしないでください。

メモリースティックを外すには

装着されている**メモリースティック**を押します。先端が少し出てきますので、引き抜きます。

3-5-1 メモリースティックについて

メモリースティックとは

メモリースティックは、小さくて軽く、しかもフロッピーディスクより容量が大きい新世代のIC記録メディアです。
メモリースティック対応機器間でデータをやりとりするのにお使いいただけるだけでなく、着脱可能な外部記録メディアの1つとしてデータの保存にもお使いいただけます。

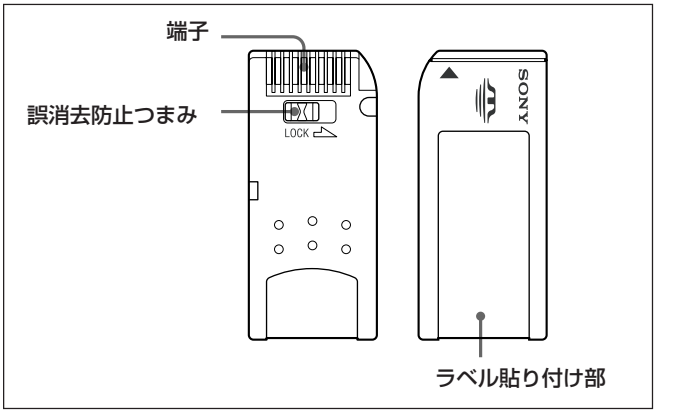
メモリースティックの種類

メモリースティックには、著作権保護技術（マジックゲート）を搭載したマジックゲート**メモリースティック**と、搭載していない一般の**メモリースティック**の2種類があります。
本機では一般の**メモリースティック**をご使用ください。（8、16、32、64、128MBが対応品です）。

マジックゲートとは

マジックゲートは、暗号化技術を使って著作権を保護する技術です。

メモリースティックについて



- 誤消去防止つまみを「LOCK」にすると記録、消去などができなくなります。
- 大切なデータはバックアップを取っておくことをお奨めします。
- 以下の場合、データが破壊されることがあります。
  - ― 読み込み中、書き込み中に**メモリースティック**を抜いたり、本機の電源を切った場合
  - ―静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合

ご注意

- 端子部に触れたり、金属を接触させたりしないでください。
- ラベルの貼り付け部には、専用ラベル以外は貼らないでください。
- ラベルを貼るときは所定のラベル貼り付け部に貼ってください。はみださないようにご注意ください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落したりしないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 水にぬらさないでください。
- 以下のような場所でのご使用や保管は避けてください。
  —高温になった車の中や炎天下などの気温の高い場所
  —直射日光のあたる場所
  —湿気の多い場所や腐食性のある場所
- 持ち運びや保管の際は付属の収納ケースに入れてください。

アクセス中は

データの読み込み、または書き込みを行っています。このとき、本機に振動や強い衝撃を与えないでください。また、本機の電源を切ったり、**メモリースティック**を取り外したりしないでください。データが壊れることがあります。

◆ 詳しくは、メンテナンスマニュアルをご覧ください。

- Memory Stick（**メモリースティック**）および MEMORY STICK は、ソニー株式会社の商標です。
- MagicGate Memory Stick（マジックゲート**メモリースティック**）および MG は、ソニー株式会社の商標です。

4-1 再生

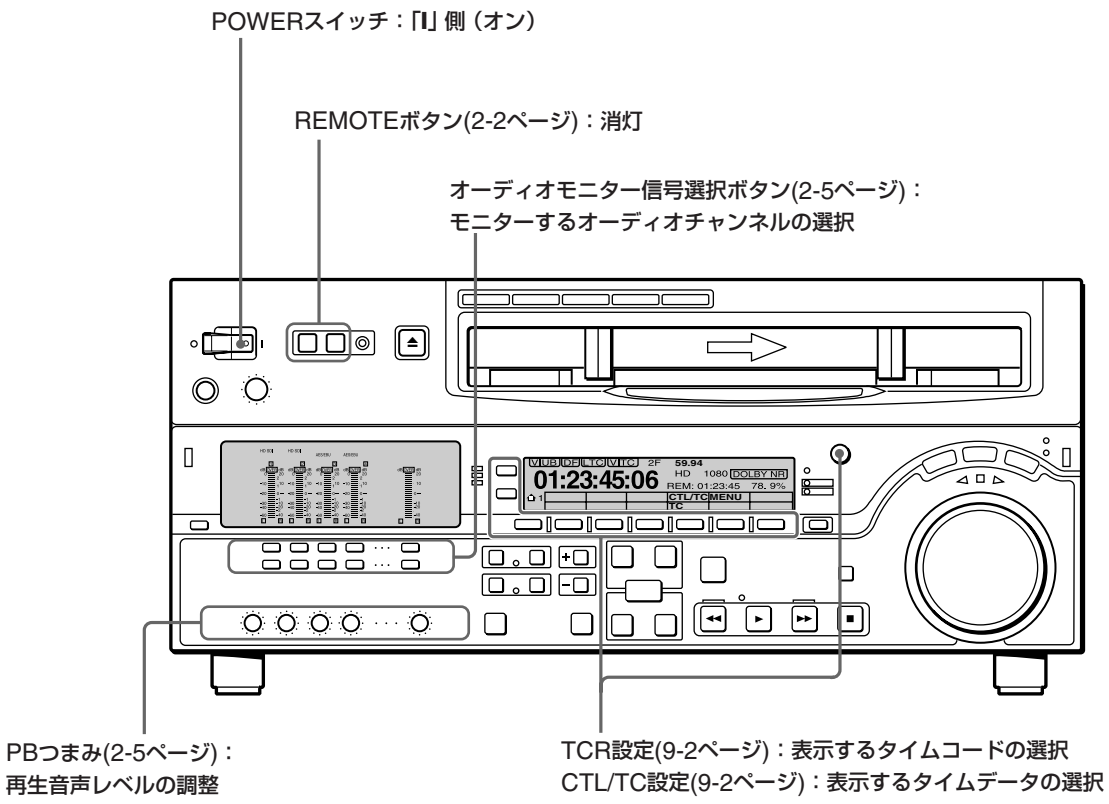
ここでは、本機での映像と音声の再生のしかたについて説明します。

4-1-1 再生の準備

スイッチとメニューの設定

再生を始める前に、必要に応じてスイッチやメニューの設定を切り換えておきます。

◆ 各設定について詳しくは、(　)内の参照ページをご覧ください。



タイムデータの選択について

表示するタイムデータ

ファンクションメニューHOMEページのCTL/TC設定を使用し、CTL (コントロール)、タイムコード、ユーザービットのいずれかを選択することができます。タイムコードを選択した場合は、ファンクションメニュー1ページのF6(TCR)設定(LTC/AUTO/VITC)に応じて以下のデータが表示されます。

TCR設定	表示されるデータ
LTC	テープに記録されたLTC
AUTO	LTCまたはVITC(自動切り換え)
VITC	テープに記録されたVITC

出力タイムコード

セットアップメニュー項目606に応じて、内蔵のタイムコードジェネレーターからのタイムコード(REGEN)または再生タイムコード(TAPE)がTIME CODE OUT端子から出力されます。

4-1-2 再生操作

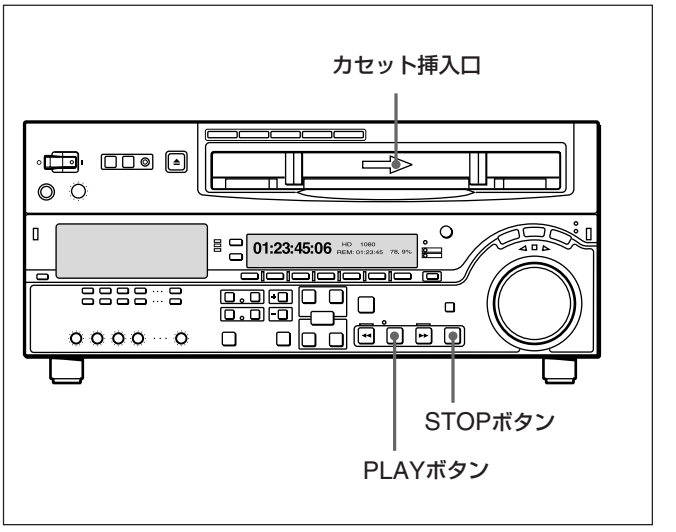
ここでは本機で行える以下の再生の方法を説明します。

- 通常再生
  1倍速再生
- ジョグモードでの再生
  サーチダイヤルの回転速度によって調整する変速再生
- シャトルモードでの再生
  サーチダイヤルの回転角度によって調整する変速再生
- バリアブルモードでの再生
  サーチダイヤルの回転角度によって微調整する変速再生
- キャプスタンオーバーライド機能を使った再生
  他のVTRと再生位相を合わせるために、サーチダイヤルの回転角度によって再生速度を一時的に調整する。
- DMC再生
  あらかじめ記憶させた変速再生速度での再生

通常の再生をするには

あらかじめカセットを挿入してください。

◆ カセット挿入について詳しくは、「3-4-2 カセットを出し入れするには」(3-6ページ)をご覧ください。



再生を始めるには

PLAYボタンを押します。
再生が始まり、サーボがロックしてSERVOインジケーターが点灯します。

再生を止めるには

STOPボタンを押します。

テープが終わりまで再生されると

自動的にテープの初めまで巻き戻されて止まります。

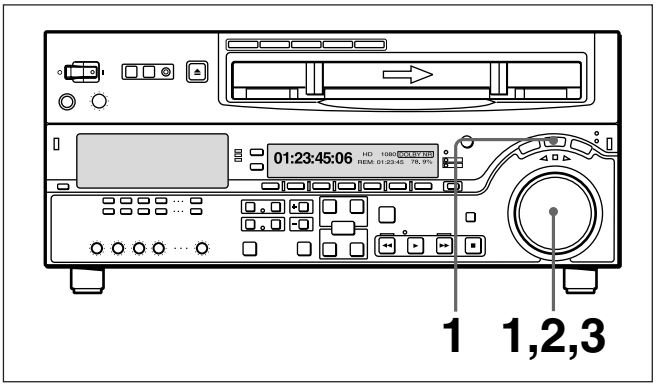
◆ セットアップメニュー項目125の設定により、自動的に巻き戻さないように設定することができます。

ジョグモードで再生するには

ジョグモードの再生では、サーチダイヤルの回転速度により再生速度を変化させることができます。再生速度の可変範囲は±1倍速です。

◆ セットアップメニュー項目116の設定により、最大±3倍速にすることもできます。

ジョグモードで再生を行うには、以下のように操作します。



1 JOGボタンまたはサーチダイヤルを押してJOGボタンを点灯させる。

サーチダイヤルを押してジョグ/シャトルモードを切り換える場合は、押すたびにジョグモードとシャトルモードが交互に選択されます。

2 サーチダイヤルを、希望の再生速度になる早さで希望の方向に回す。

ジョグモード再生が始まります。

3 ジョグモード再生を止めるには、サーチダイヤルを止める。

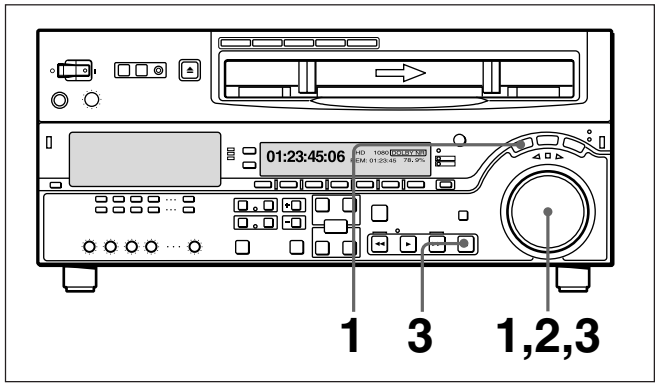
◆ セットアップメニュー項目101の設定により、サーチダイヤルによるジョグ/シャトルモードの切り換えを禁止することができます。

シャトルモードで再生するには

シャトルモードの再生では、サーチダイヤルの回転角度により再生速度を変化させることができます。再生速度の可変範囲は以下のとおりです。

- HDCAMテープ使用時：±50倍速（59.94i、29.97PsFモード）、±58倍速（50i、25PsFモード）、±60倍速（24PsF、23.98PsFモード）
- デジタルベータカムテープ使用時：±50倍速
- MPEG IMXテープ使用時：±78倍速
- ベータカムSXテープ使用時：±78倍速
- アナログベータカムテープ使用時：±35倍速（525/59.94モード）、±42倍速（625/50モード）

サーチダイヤルは静止画と±5倍速の位置でクリックします。
シャトルモードで再生を行うには、以下のように操作します。



1 SHUTTLEボタンまたはサーチダイヤルを押してSHUTTLEボタンを点灯させる。

サーチダイヤルを押してジョグ/シャトルモードを切り換える場合は、押すたびにジョグモードとシャトルモードが交互に選択されます。

2 サーチダイヤルを、希望の再生速度になる角度だけ希望の方向に回す。

シャトルモード再生が始まります。

3 シャトルモード再生を止めるには、サーチダイヤルを中央の位置にもどすか、STOPボタンを押す。

◆ セットアップメニュー項目101の設定により、サーチダイヤルによるジョグ/シャトルモードの切り換えを禁止することができます。

標準速再生に戻すには

PLAYボタンを押します。

標準速再生とシャトルモード再生を交互に行うには

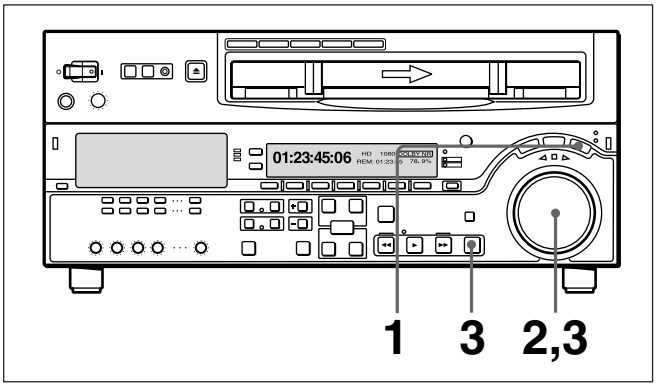
サーチダイヤルをシャトルモードで再生したい速度に応じた位置に設定し、PLAYボタンとSHUTTLEボタンを交互に押します。
また、シャトルモード再生を断続的に行いたいときは、STOPボタンとSHUTTLEボタンを交互に押します。

バリアブルモードで再生するには

バリアブルモードの再生では、それぞれ以下の範囲内で再生速度を細かくコントロールすることができます。

- HDCAM：－1～＋2倍速
- デジタルベータカム：－1～＋3倍速
- MPEG IMX：－1～＋3倍速
- ベータカムSX：－1～＋2倍速
- ベータカム/ベータカムSP：－1～＋3倍速

サーチダイヤルは静止画と±1倍速の3つの位置でクリックします。バリアブルモードで再生するには以下のように操作します。



1 VARボタンを押して点灯させる。

2 サーチダイヤルを、希望の再生速度になる角度だけ回す。

バリアブルモード再生が始まります。

3 バリアブルモード再生を止めるには、サーチダイヤルを中央の位置に戻すか、STOPボタンを押す。

標準速再生に戻すには

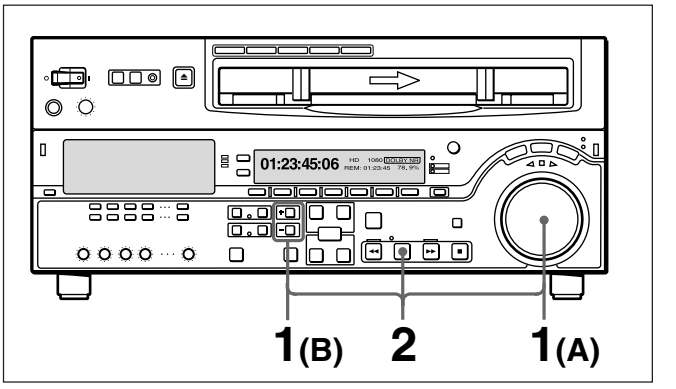
PLAYボタンを押します。

標準速再生とバリアブルモードの再生を交互に行うには

サーチダイヤルをバリアブルモードで再生したい速度に応じた位置に設定し、PLAYボタンとVARボタンを交互に押します。
また、バリアブルモード再生を断続的に行いたいときは、STOPボタンとVARボタンを交互に押します。

キャプスタンオーバーライド機能を使って再生するには

キャプスタンオーバーライド機能を使って再生速度を一時的に調整することができます。同じプログラムを再生中の他のVTRと再生位相を合わせる場合に便利な機能です。



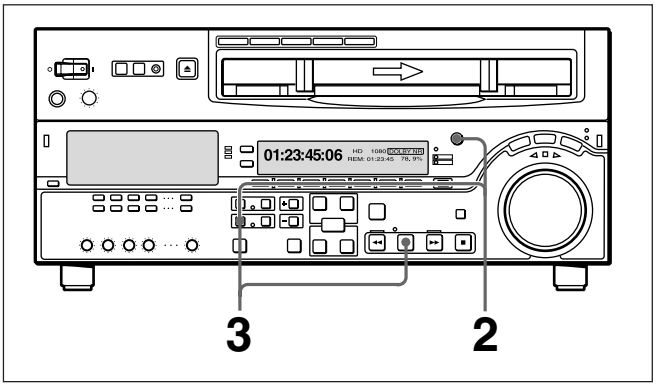
1 (A) PLAYボタンを押したまま、希望の方向へサーチダイヤルを回して再生速度を調整する。
再生速度調整範囲は、1%きざみで±15%です。
(B) PLAYボタンを押したまま、TRIMボタンを押して再生速度を調整する。
再生速度は8%だけ加速または減速されます。

SERVOインジケーターは消灯します。

2 調整が終わったとき、PLAYボタンから指をはなす。

標準再生速度に戻りSERVOインジケーターが再び点灯します。

連続的なキャプスタンオーバーライド再生をするには



1 セットアップメニュー項目111のTSO PLAYをTSOに設定する。

2 DMC EDITボタンを押したまま、MULTI CONTROLつまみを回して再生速度を選択する。

下部コントロールパネルのタイムデータ表示エリア2、およびビデオモニターの文字情報表示部に、設定速度が表示されます。

3 DMC EDITボタンを押したまま、PLAYボタンを押す。

4 テープスピードオーバーライドモードを終了するには、PLAYボタンを押すか、別の操作を行う。

◆ セットアップメニューの操作については、「10-2 セットアップメニューの操作」(10-2ページ)をご覧ください。

◆ ビデオモニターに表示する文字情報については、ファンクションメニュー4ページのF4 (CHARA) (9-5ページ)、およびセットアップメニュー項目005 (10-6ページ)をご覧ください。

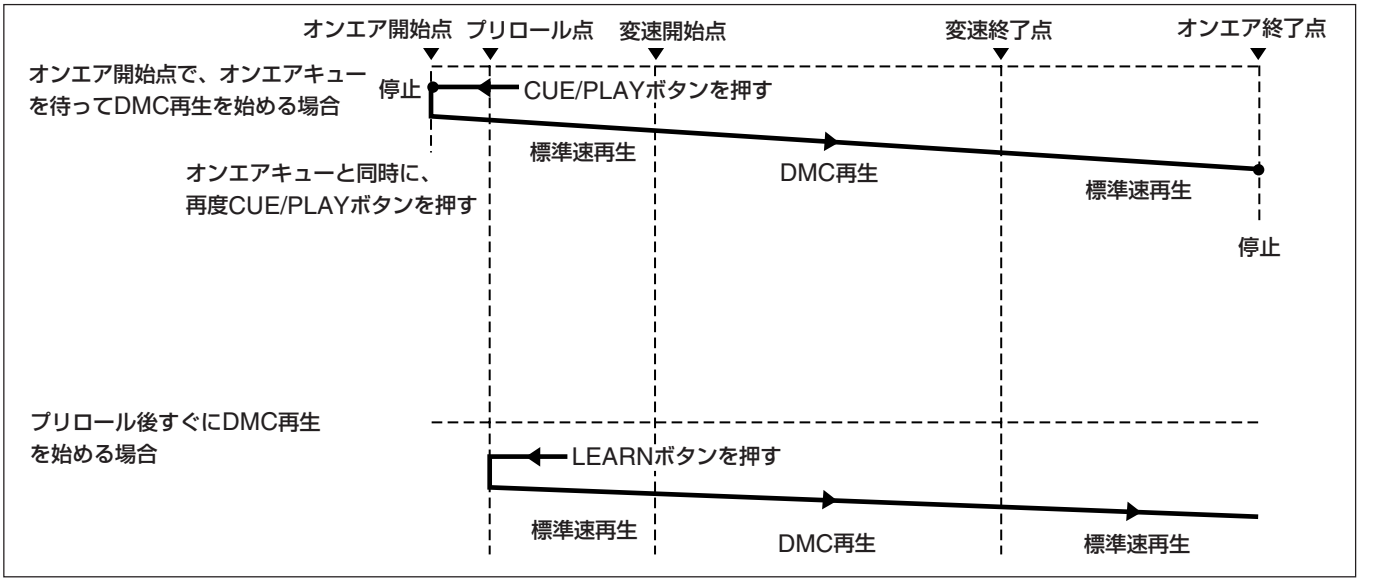
4-1-3 DMC（ダイナミックモーションコントロール）再生

概要

DMC再生とは、任意の区間をバリアブルモードで変速再生して、その速度の変化を記憶しておき、あとでその速度で再生することです。

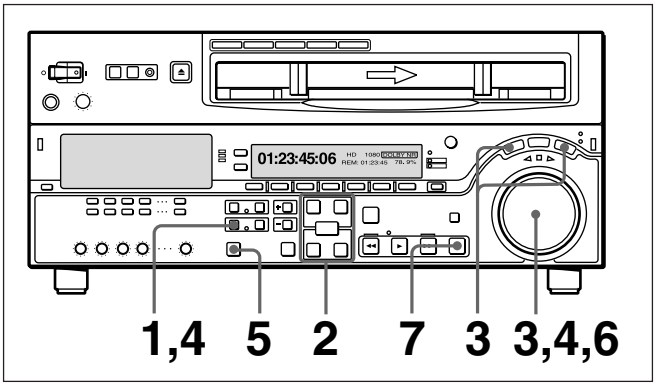
スポーツ番組などの実況中継で、ハイライトシーンの開始点・終了点を記録中に設定しておき、DMC再生によって即座に再生・送出を行うことができます。

DMC再生中は、下の図に示すようにテープが走行します。



再生速度を記憶させるには

DMC再生の再生速度を記憶させるには、以下のように操作します。



1 DMC EDITボタンを押して点灯させる。

2 記録済みのテープを再生しながら、ENTRYボタンと次のいずれかのボタンを同時に押して、開始点、終了点を記憶させる。

- **オンエア開始点**：PLAY INボタン
- **変速開始点**：STUNT INボタン
- **変速終了点**：STUNT OUTボタン
- **オンエア終了点**：PLAY OUTボタン

押したボタンが点灯します。

3 サーチダイヤルを押すか、SHUTTLEボタンまたはVARボタンを押して、シャトル/バリアブルモードにする。

SHUTTLE/VARインジケーターが点灯します。

ご注意

セットアップメニュー項目111 (TSO PLAY)がDISになっていることを確認してください。

4 DMC EDITボタンを押したままサーチダイヤルを回し、再生開始点の初期速度を設定する。

設定した速度がタイムカウンター部に表示されます。この間テープは走行しません。初期速度の設定が終わったら、DMC EDITボタンから指を離します。

5 LEARNボタンを押す。

テープがプリロールされ、オンエア開始点から変速開始点まで標準速度で再生されます。
変速開始点に達すると、MEMORYインジケーターが点滅を始め、手順**4**で設定した初期速度で再生が始まります。

6 サーチダイヤルを回して希望の再生速度にする。

MEMORYインジケーターが点滅している間の再生速度の変化が記憶されます。変速終了点に達すると、MEMORYインジケーターが点滅から点灯に変わり、再生速度の記憶が終わります。

7 STOPボタンを押してテープを止める。

変速終了点の前でMEMORYインジケーターが点灯した場合は

その時点でメモリー容量を越えたことを示します。したがって、それ以上再生速度を記憶することはできません。
最大記憶量は120秒です。

記憶した速度を修正するには

LEARNボタンを押します。
記憶した速度で変速開始点/終了点間が自動的に再生されます。必要なら、このとき、サーチダイヤルを操作して再生速度を修正します。

初期速度を標準再生速度にするには

上記の手順**4**でPLAYボタンを押します。

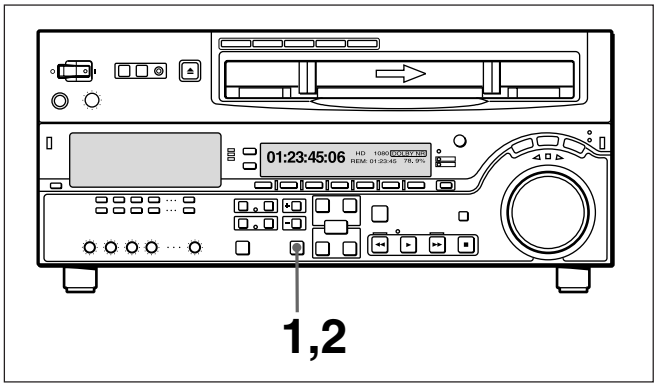
DMC再生を実行するには

DMC再生には、以下の2通りの方法があります。

- オンエア開始点でオンエアキューの合図を待って再生を始める方法
- プリロール後、すぐに再生を始める方法

ご注意

- DMC再生をする場合は、誤操作を避けるため、本機を単独で使用することをおすすめします。
- 2台のVTRが編集用に接続されている場合、DMC再生ができるのはレコーダー側のVTRだけで、RECORDERボタンとPLAYERボタンがともに消灯している場合に限ります。



オンエア開始点でオンエアキュー開始の合図を待って再生を始めるには

以下のように操作します。

1 CUE/PLAYボタンを押す。

CUE/PLAYボタンが点灯し、テープはオンエア開始点にキューアップされます。キューアップ後、CUE/PLAYボタンが点滅します。

2 オンエアキューの合図が出た瞬間に、もう1度CUE/PLAYボタンを押す。

CUE/PLAYボタンが点灯し、標準速度で再生が始まります。変速開始点から変速終了点までは記憶した速度でDMC再生が実行され、そのあとは標準再生して、オンエア終了点で停止します。

プリロール後、すぐに再生を始めるには

LEARNボタンを押します。
LEARNボタンが点灯し、プリロールした後、変速開始点以降は記憶した速度でDMC再生が実行され、変速終了点以降は標準再生速度でテープが走行します。

DMC再生の途中でテープを止めるには

STOPボタンを押します。

DMC再生モードを解除するには

DMC EDITボタンとDELETEボタンを同時に押します。

5-1 ショットマーク機能の概要

本機では、ショットマークの操作が可能です。
ショットマークとは、テープ上の希望の位置を素早く頭出しできるように印を付けること、またはその印のことです。

ショットマークの種類

本機で扱うショットマークには、ポストマークがあります。
ここでは、ポストマークをショットマークの一種として説明しています。
ポストマークは、再生、停止、サーチ中に、ボタン操作によって本機のみで書き込むことができ、また本機での変更や消去が可能です。

ショットマークについての本機の機能を、以下に簡単に説明します。

ショットマークの読み込み

テープに記録されたショットマークを本機で読み出して記憶します(最大200)。
いったん記憶したデータは、本機の電源を切っても保存されます。

ショットマークの書き込みと消去

ポストマークについては、テープ上の任意の位置で追加や消去を行い、既存のマークを書き換えることができます。

ショットマークリストの操作

本機で読み出したショットマークをモニターにリスト表示し、目的のショットマークを選択したり、削除したりすることができます。
リスト上でショットマークにメモマーク(#)を付けることもできます。
また、テープの再生中などに、仮のショットマークをリストに加えることもできますが、これらはテープには記録されないため、仮想ショットマークと呼んでいます。

ショットマークへのキューアップ

ショットマークリストで目的のショットマークを選択し、素早くその位置にキューアップすることができます。また、ボタン操作によって、現在のテープ位置の前後のショットマークにキューアップすることもできます(インデックス機能)。

ショットデータの表示

テープにショットデータ(撮影機器や時刻などの撮影時の記録)が記録されているときは、それを読み込んでモニターに詳細を表示することができます。ショットマークリストとショットデータを同時に表示させることも可能です。

ショットマークのカセット別ソーティング

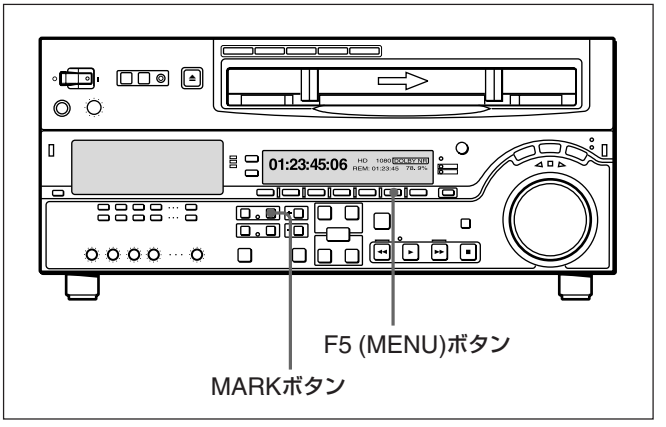
テープにショットデータが記録されているときは、各ショットマークがどのカセットから読み込まれたかを本機が認識します。
このため、読み込んだショットマークのソートを行うと、カセット単位で整理された状態でタイムコード順に表示されます。

5-2 ショットマーク操作メニュー

ここでは、ショットマーク操作用のメニューでの設定について説明します。

ショットマーク操作メニューを表示するには

メニュー表示部にファンクションメニューHOMEページを表示して、MARKボタンを押したままF5 (MENU)ボタンを押します。



モニターには、下図のメニューが表示されます。

```
SHOT MARKER
 G01:SEARCH TYPE -   all
 G02:LISTING TYPE
 G03:RS.MARK MODE
 G04:MARK IN REC   shot1
```

ショットマーク操作メニューの内容

ショットマーク操作メニューは、G01とG02の2項目で構成されています。各項目の内容は下表のとおりです。

項目番号	項目名	設定の内容
G01	SEARCH TYPE	インデックス機能の対象とするショットマークの種類を選択する。 all : 下記のすべてのショットマーク rec start mark : レックスタートマーク shot mark 1 : ショットマーク1 shot mark 2 : ショットマーク2 post mark : ポストマーク
G02	LISTING TYPE	各種類のショットマークをリストに読み込む(ON)か読み込まない(OFF)かを選択する。 rec start mark : レックスタートマークを読み込むかどうか。 shot mark 1 : ショットマーク1を読み込むかどうか。 shot mark 2 : ショットマーク2を読み込むかどうか。 post mark : ポストマークを読み込むかどうか。 stop code : ストップコードを読み込むかどうか。

メニューの設定を変更するには

メニュー項目の選択と設定内容の変更操作は、基本的にセットアップメニューと同じです。ただし、項目G02を変更する操作については、「サブ項目を含むメニュー項目の設定を変えるには」(10-3ページ)をご覧ください。

◆ セットアップメニューの操作については、「10-2 セットアップメニューの操作」(10-2ページ)をご覧ください。

◆ ストップコードについて詳しくは、「第6章 ストップコード」(6-1ページ)をご覧ください。

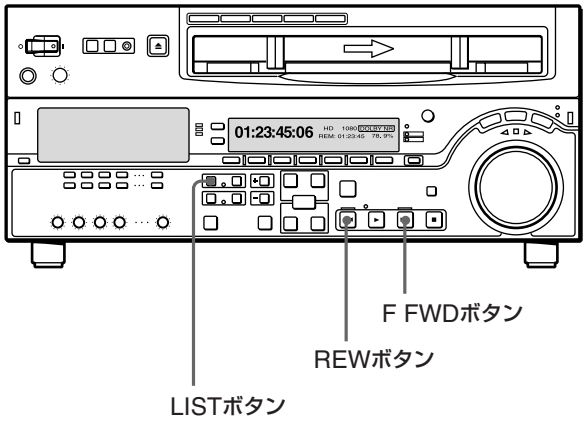
5-3 ショットマークの操作

ここでは、本機でショットマークの読み込みや書き込みを行うための操作について説明します。
なお、以下の操作はローカル操作で行います。(リモートコントロールはできません。)

5-3-1 ショットマークの読み込み

ショットマークを読み込むには

カセットを挿入した状態で、LISTボタンを押したまま、F FWDボタンまたはREWボタンを押します。



ショットマークの読み込み中は、F FWDボタンまたはREWボタンが点滅します。
テープエンドまで検索すると、自動的にテープを巻き戻します。

◆ 読み込んだショットマークをリスト表示する方法については、5-4ページをご覧ください。

ご注意

読み込めるショットマーク数は200までです。
200を読み込んだ時点で、コントロールパネルの表示部に「SHOT LIST FULL」の表示が現れ、読み込みが停止します。
テープ走行ボタンを押すと、表示が消えます。

読み込みを中止するには

STOPボタンを押します。

複数のカセットからショットマークを読み込むには

カセットを交換してから、再度読み込みの操作を行います。
新しいカセットに記録されたデータが、ショットマーク数が200になるまで追加されます。たとえばすでに190のショットマークを読み込んでいた場合は、次のカセットからは10のショットマークだけが読み込まれることになります。
ショットマークリスト(5-4ページ参照)上では、異なるカセットのデータは、セパレーター(- - -)で区切られて表示されます。

5-3-2 ポストマークの書き込み

本機が再生、停止、サーチのいずれかの状態のときは、以下の操作でポストマークのみ書き込むことができます。

1 MARKボタンを2秒以上押す。

REC/ERASEインジケーターが点灯します。

2 マーカーを書き込みたい位置で、ENTRYボタンを押したままMARKボタンを押す。
MARKボタンを押したときに、ポストマークが書き込まれます。

書き込み実行中は、モニターに「RECORD SHOT MARK」のメッセージが現れ、REC/ERASEインジケーターが点滅します。

ショットマークを消去するには

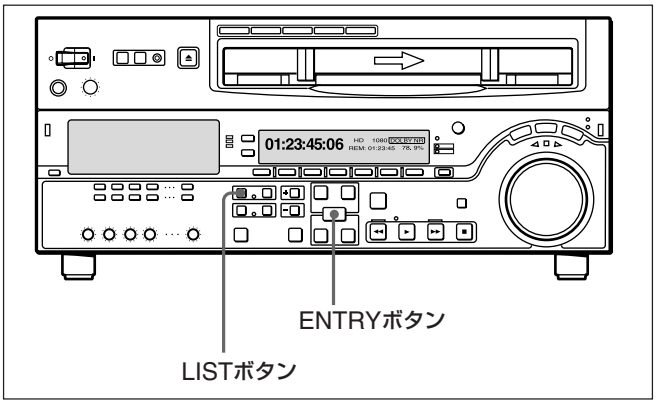
ショットマークリストで対象を選択してから消去の操作を行います。

◆ 操作については、5-5ページをご覧ください。

5-3-3 ショットマークリストの操作

ショットマークリストを表示するには

ENTRYボタンを押したまま、LISTボタンを押します。



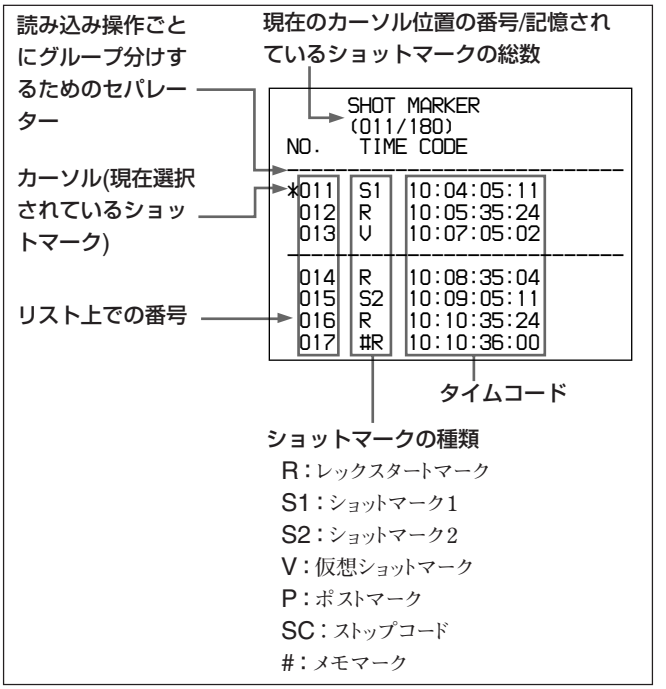
ショットマーク操作メニューの項目G02で「ON」に設定されている種類のショットマークが、すべてリスト表示されます。
もう1度同じように操作すると、表示が消えます。

ファンクションメニューの表示が次のように変わります。

SHT MRK	MEMO	SELECT	DELETE		SETING	EXIT

ショットマークリストの表示例

ショットマークリストの構成は以下のとおりです。

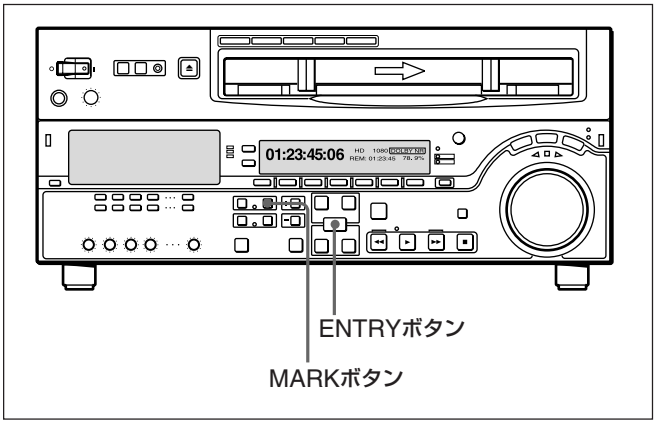


ショットマークを選択するには

MULTI CONTROLつまみを回して、選択するマーカーの番号の左にカーソル(*)を合わせます。

仮想ショットマークを入力するには

ストップモード時、再生時またはサーチ時に、ENTRYボタンを押したままMARKボタンを押します。



仮想ショットマークは、モニターでは「V-MARK xxx」(xxxは番号)と表示されます。これはテープ上に記録されたものではありません。仮想ショットマークの入力後にカセットを交換したり電源を切ったりすると、次の読み込みグループの先頭のショットマークとしてリストに表示されます。

メモマーク(#)を付けるには

メモ用にメモマークを付けたいショットマークを選択してから、F1(MEMO)ボタンを押します。
メモマークを消す場合も同様に操作します。

読み込むショットマークの種類を選択するには

ショットマークの種類(レックスタートマーク/ショットマーク1/ショットマーク2/ポストマーク/ストップコード)ごとに、読み込むかどうかを指定することができます。
ショットマーク操作メニューの項目G02で、希望する種類を「ON」に設定します。

◆ メニューについて詳しくは、5-2ページをご覧ください。

または、以下の手順で操作することもできます。

1 ショットマークリストを表示した状態で、F5 (SETING)ボタンを押す。

ショットマークの種類が選択できる状態になります。
ファンクションメニューの表示が次のように変わります。

SHT MRK	PREV	NEXT	OFF	ON		EXIT

2 F1(PREV)またはF2(NEXT)ボタンを押して、ショットマークの種類を選択する。

3 F4(ON)またはF3(OFF)ボタンを押して、ON(表示する)またはOFF(表示しない)に設定する。

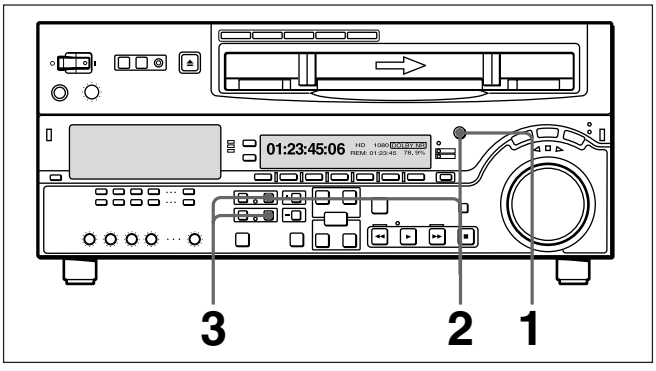
4 ショットマークリストに戻るには、F6(EXIT)ボタンを押す。

ショットマークをリストから削除するには

ショットマークまたはショットマークリストを削除するときは、MARKボタンの代わりにF2 (SELECT)ボタン、DELETEボタンの代わりにF3 (DELETE)ボタンを使うこともできます。

個別に削除するには

以下のように操作します。



1 ショットマークリストを表示し、MULTI CONTROLつまみを回して、消去したいショットマークを選択する。

2 MARKボタンを押す。

ボタンを押している間は、選択したショットマークの番号の後ろに「X」(削除選択マーク)が表示されます。
複数のショットマークを削除する場合は、MARKボタンを押したままMULTI CONTROLつまみを回して、対象をすべて選択します。

3 MARKボタンを押したまま、DELETEボタンを押す。

「X」が表示されているショットマークが削除されます。

リスト全体を削除するには

DELETEボタンを押したままLISTボタンを押します。
リスト中のショットマークがすべて削除されます。なお、テープ上のショットマークは削除されません。

ショットマークをテープから消去するには

消去を実行するには、以下のように操作します。

ご注意

テープ上のショットマークをいったん消去すると、再び読み出すことはできなくなります。

1 ショットマークリストを表示していない状態で、MARKボタンを2秒以上押す。

REC/ERASEインジケーターが点灯し、ショットマークが書き換えまたは消去できる状態になります。

2 ショットマークリストを表示する。

3 MULTI CONTROLつまみを回して、消去したいショットマークをリスト上で選択する。

4 DELETEボタンとMARKボタンを同時に押す。

消去の実行中は、「ERASE SHOT MARK」のメッセージが現れ、REC/ERASEインジケーターが点滅します。

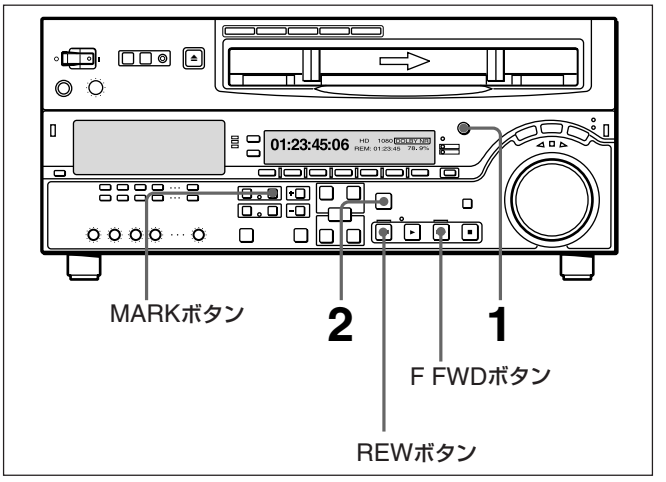
5 消去の操作が終わったら、ショットマークリストを閉じる。

6 MARKボタンを2秒以上押してREC/ERASEインジケーターを消灯させる。

5-3-4 ショットマークへのキューアップ

選択したショットマークにキューアップするには

以下の手順で操作します。



1 MULTI CONTROLつまみを回して、ショットマークリストで希望のショットマークを選択する。

2 PREROLLボタンを押す。

現在のテープ位置の前後のショットマークにキューアップするには (インデックス機能)

1 ショットマーク操作メニュー(5-2ページ)の項目G01で、レックスタートマーク、ショットマーク1、ショットマーク2、ポストマークのいずれか、またはすべてを選択する。

2 MARKボタンを押したまま、F FWDボタンまたはREWボタンを押す。

テープの走行中は、F FWDボタンまたはREWボタンが点滅します。

ショットマークが検出されると、その種別が下部コントロールパネルのタイムデータ表示エリア2(2-6ページ)と、ビデオモニターのビデオ文字情報表示部に表示されます。

◆ ビデオ文字情報については、ファンクションメニュー4ページのF4 (CHARA) (9-5ページ)およびセットアップメニュー項目005(10-6ページ)をご覧ください。

ご注意

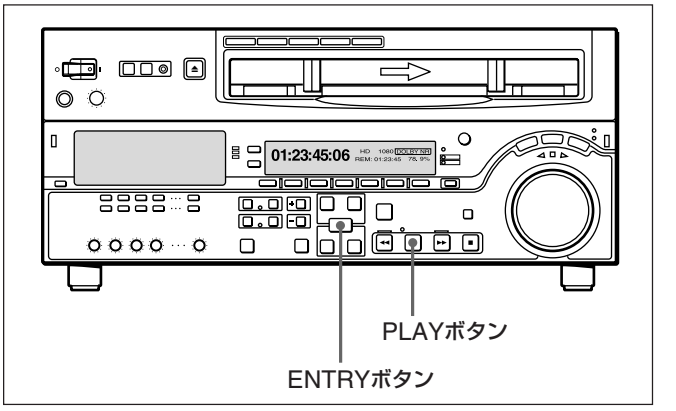
この方法では、仮想ショットマークの位置にキューアップすることはできません。

5-3-5 ショットデータの読み込み

テープにショットデータ(撮影機器や時刻などの撮影時の記録)が記録されているときは、それを読み込んでモニターに表示することができます。

ショットデータを表示するには

ENTRYボタンを押したまま、PLAYボタンを押します。



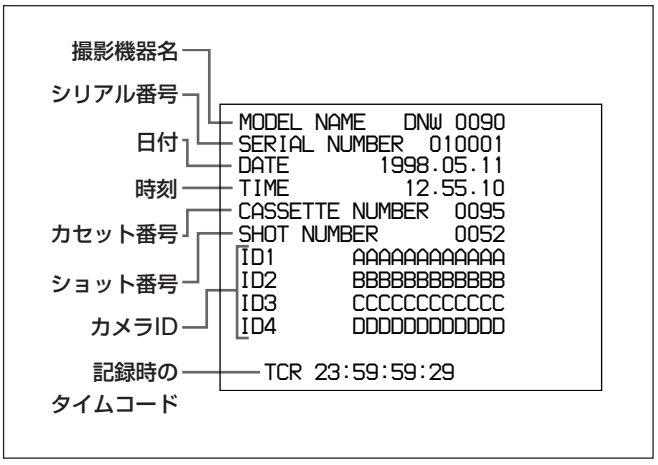
テープが再生され、ショットデータが表示されます。

ショットデータ表示を消すには

もう1度、ENTRYボタンを押したままPLAYボタンを押します。

ショットデータの表示例

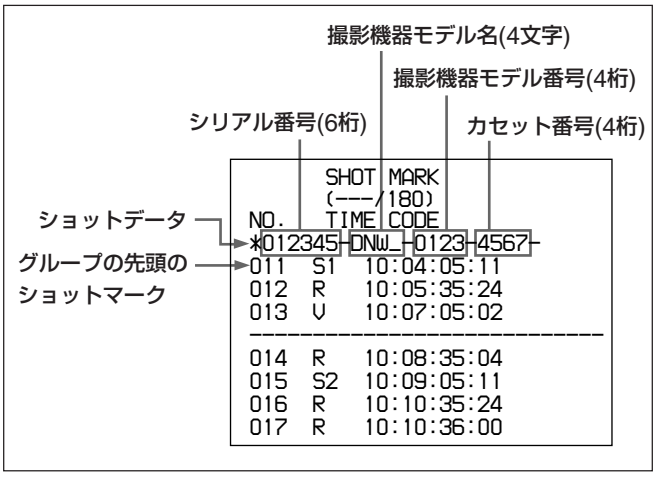
ショットデータの構成は以下のとおりです。



ショットデータの内容は、撮影条件の変化(撮影機器や日時の変更など)に応じて変化していきます。また、撮影機器の変更により、テープにショットデータが記録されていない部分があれば空白表示となります。

ショットマークリスト上にショットデータを表示するには

ショットマークリストを表示した状態で、MULTI CONTROLつまみを回して、セパレーター(---)の位置にカーソルを移動します。
セパレーターのすぐ下にあるショットマークの書き込み時にショットデータが記録されていれば、下図のように表示されます。



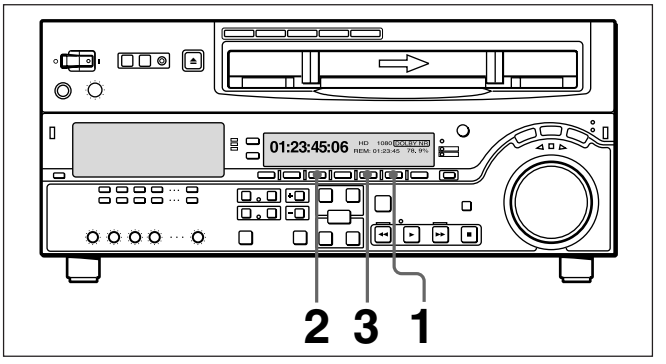
◆ ショットデータの情報に基づいて、リスト内のショットマークをソートすることができます。詳しくは、次項をご覧ください。

5-3-6 ショットマークのソーティング

テープに記録されているショットデータに基づき、ショットマークをカセットごとに分類してタイムコード順に表示させることができます。

ショットマークをソートするには

以下のように操作します。



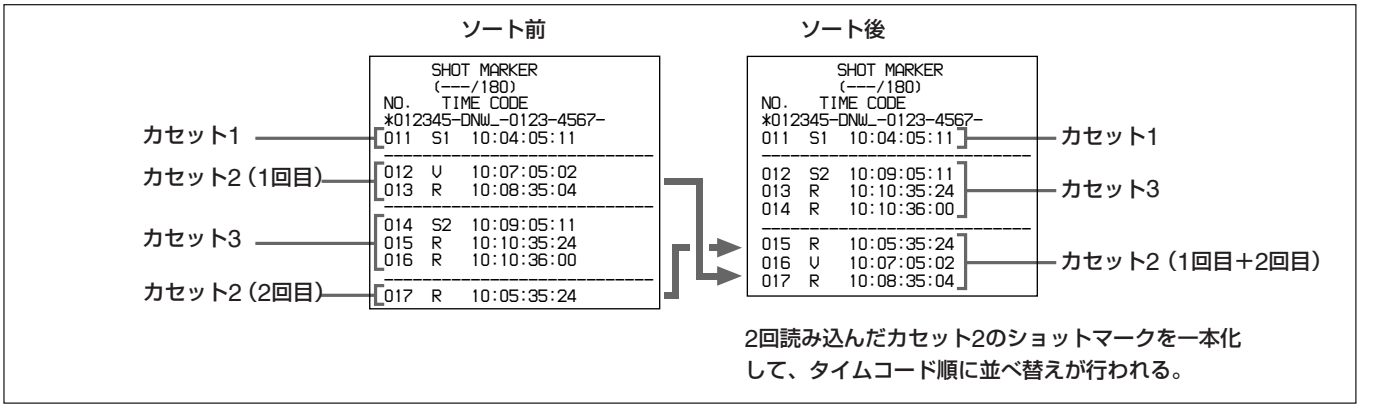
1 ショットマークリストを表示した状態で、F5 (SETING)ボタンを押す。

2 F2 (NEXT)ボタンを押して、「SORTING LIST」を選択する。

3 F4 (ON)ボタンを押して設定をONにする。

ソートが始まります。終了すると、設定はOFFに戻ります。

たとえば、同じカセットから2回ショットマークを読み込んでいる場合は、以下のように一本化されて表示されます。



6-1 ストップコード

本機はNAB-T007-1990に準拠したストップコードの検出・記録・消去を行うことができます。

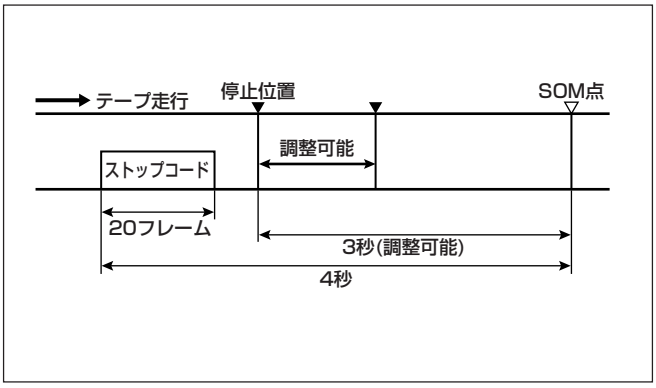
ご注意

システム周波数が59.94iまたは29.97PsFの場合のみ、本機でNAB-T007-1990に準拠したストップコードの検出・記録・消去を行うことができます。

ストップコードはSOM点（プログラムの開始点）の4秒前から20フレーム連続して記録され、VTRは再生時にストップコードを検出すると、指定された位置でテープ走行を停止します。
また、停止位置は以下の2つの設定を変更することによって、調整することができます。

- ストップコードを検出してからの停止位置：
  0～30フレーム（フレーム単位）
- ストップコードの記録開始位置：
  1～5秒（秒単位、SOM点までの停止位置でみたとき）

ストップコードの記録フォーマットは下図のようになります。



6-2 ストップコードの操作

ここでは、本機でストップコードの検出や記録を行うための操作について説明します。

6-2-1 ストップコードの検出

ストップコードを検出するには

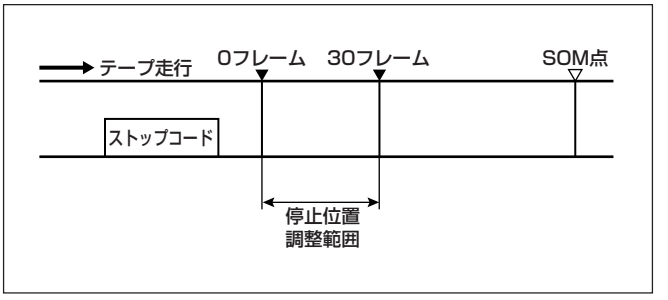
セットアップメニュー項目138のサブ項目DETECT STOPをONに設定します。
下部コントロールパネルタイムデータ表示部のスピード表示エリアに「D-STOP」と表示され、ストップコードの検出が可能になります。
再生中、20フレーム以内に3回以上ストップコードが検出されると、「D-STOP」表示が点滅しテープ走行が停止します。

◆ ストップコードのサブ項目については、「10-4 拡張メニューの項目」(10-9ページ) をご覧ください。

ストップコード検出時の停止位置を調整するには

セットアップメニュー項目138のサブ項目STOP ADJUSTで、テープ走行を停止する位置を、通常の停止位置からSOM点 (プログラムの開始点) に近づく方向に0～30フレームの範囲で、フレーム単位で調整します (下図参照)。

◆ ストップコードのサブ項目については、「10-4 拡張メニューの項目」(10-9ページ) をご覧ください。



6-2-2 ストップコードの記録

ストップコードを記録するには

1 セットアップメニュー項目138のサブ項目CODE RECをONにする。

◆ ストップコードのサブ項目については、「10-4 拡張メニューの項目」(10-9ページ) をご覧ください。

CODE RECをONにすると、CODE ERASEは自動的にOFFになります。
セットアップメニュー項目138のサブ項目メニューから抜けると、CODE RECは自動的にOFFになります。

2 ジョグまたはシャトルモードでサーチダイヤルを回し、SOM点 (プログラムの開始点) を頭出しする。

3 ENTRYボタンを押したままMARKボタンを押す。

ストップコードが記録されます。
ストップコードの記録が終了すると、手順**1**でONに設定したCODE RECは自動的にOFFになります。
ストップコードの記録中は、ファンクションメニュー1ページのF1 (TCG)、F2 (PR/RGN) の設定にかかわらず、ストップコードの記録に必要なタイムコードに関するメニューが選択されます。

動作を途中で止めるには
STOPボタンを押します。

ご注意
ストップコードの記録は、セットアップメニュー項目138のサブ項目メニューを開いているときのみ実行可能です。

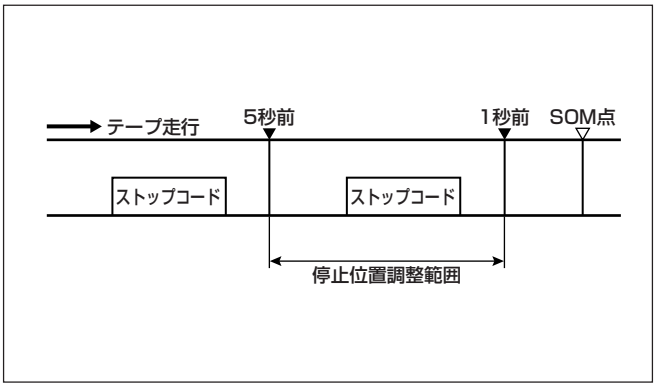
ストップコードの記録を確認するには

セットアップメニュー項目138のサブ項目を開いた状態で、ENTRYボタンを押したままCUE/PLAYボタンを押します。
VTRはSOM点 (プログラムの開始点) の9秒前にプリロールし、再生を開始します。ストップコードが正常に記録された場合は、DETECT STOPの設定にかかわらず、STOP ADJUSTの設定値に従って停止します。

ストップコード記録時の開始位置を変更して停止位置を調整するには

セットアップメニュー項目138のサブ項目REC ADJUSTで、ストップコード記録時の開始位置を変更し、SOM点（プログラムの開始点）までの停止位置を1～5秒の範囲で、秒単位で調整します（下図参照）。

◆ ストップコードのサブ項目については、「10-4 拡張メニューの項目」（10-9ページ）をご覧ください。



6-2-3 ストップコードの消去

ストップコードを消去するには

1 セットアップメニュー項目138のサブ項目DETECT STOPとCODE ERASEをONにする。

◆ ストップコードのサブ項目については、「10-4 拡張メニューの項目」（10-9ページ）をご覧ください。

CODE ERASEをONにすると、CODE RECは自動的にOFFになります。
セットアップメニュー項目138のサブ項目メニューから抜けると、CODE ERASEは自動的にOFFになります。

2 消去したいストップコードを含む範囲を再生する。

ストップコードを検出し、テープ走行が停止します。

3 ENTRYボタンを押したままDELETEボタンを押す。

ストップコード記録点の5秒前にプリロールしてから消去動作を始め、ストップコードが消去されます。
ストップコードの消去が終了すると、手順**1**でONに設定したCODE ERASEは自動的にOFFになります。
ストップコードの消去中は、ファンクションメニュー1ページのF1（TCG）、F2（PR/RGN）の設定にかかわらず、ストップコードの消去に必要なタイムコードに関するメニューが選択されます。

動作を途中で止めるには
STOPボタンを押します。

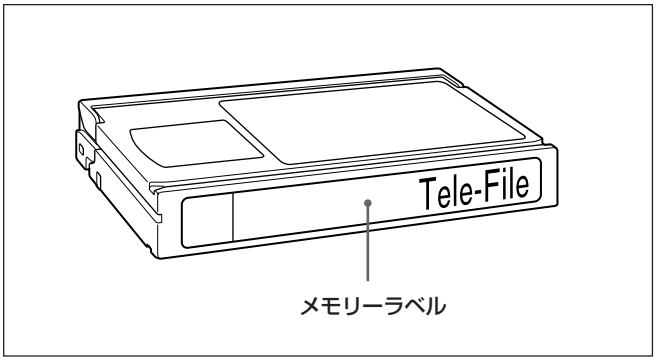
ご注意
ストップコードの消去は、セットアップメニュー項目138のサブ項目メニューを開いているときのみ実行可能です。

ストップコードの消去を確認するには

セットアップメニュー項目138のサブ項目を開いた状態で、ENTRYボタンを押したままCUE/PLAYボタンを押します。
VTRはストップコード記録点の5秒前にプリロールし、再生を開始します。ストップコードが記録されていた点で停止する場合は、改めて消去操作を行います。

7-1 テレファイル機能の概要

Tele-File（以下、テレファイル）は、非接触のデータキャリアシステムです。
メモリーラベル付きカセットとVTR本体の間で、データの書き込み/読み出しを行ないます。頭出し・再生などに関する操作や、素材のデータ管理を効率よく行なうことができます。



新開発のIC

テレファイルには新開発のICを採用しており、以下の特長があります。

- 薄型設計：0.5mmの薄型設計で、メモリーラベルとしてカセットに貼付可能
- 記憶容量：1 KB（ユーザーエリア、書き換え可能）
- 転送速度：100kbps
- セキュリティー機能：複数のパスワード、パーミッションの設定により読み書きの制限が可能

クリップ単位でのデータ管理

テレファイルでは、「クリップ」と呼ばれる単位でデータが管理されます。1つのクリップは以下のデータで構成されており、それぞれの設定内容を表示したり、変更したりすることができます。

- キュー点
- ライトプロテクト
- マーク
- 記録開始点
- IN点
- OUT点
- テイク番号
- カット番号
- シーン番号
- コメント

ハンディリーダー/ライターによるデータライブラリーの管理

別売りのハンディリーダー/ライター（メモリースティック対応）を使用することにより、データライブラリーの管理が容易にできます。

7-2 テレファイルメニューを開く

ファンクションメニューから開く

メニュー表示部にファンクションメニュー5ページを表示して、F1（TELE-F）ボタンを押します。

テレファイルメニューが開きます。

◆ ファンクションメニューについて、詳しくは「第9章ファンクションメニュー」（9-1ページ）をご覧ください。

自動的に開く

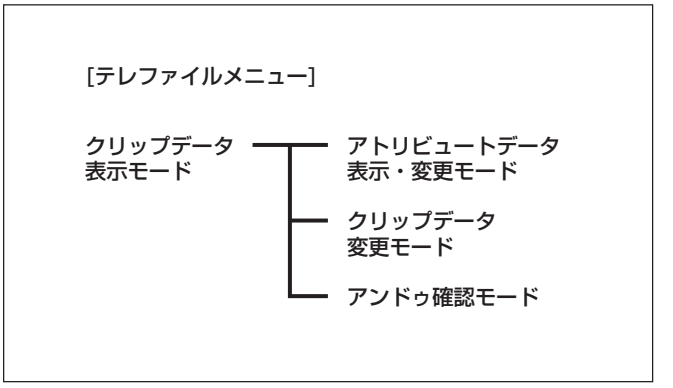
セットアップメニュー項目134が「ON」に設定されており、ファンクションメニューがHOME、HOME2、1ページ～6ページのいずれかの場合、カセット挿入後にテレファイルが検出されると、テレファイルメニューが自動的に開きます。

◆ セットアップメニュー項目134について、詳しくは「10-4 拡張メニューの項目」（10-11ページ）をご覧ください。

テレファイルメニューの構造

テレファイルメニューは以下に示すように、階層構造になっています。

メニューを開いた直後は、クリップデータ表示モードになります。



7-3 テレファイルメニュー

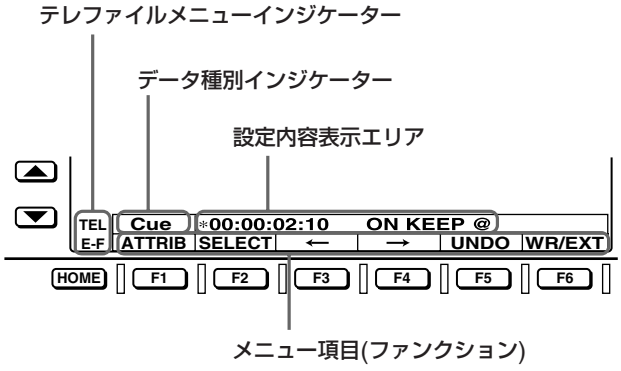
7-3-1　クリップデータの表示

表示の見かた

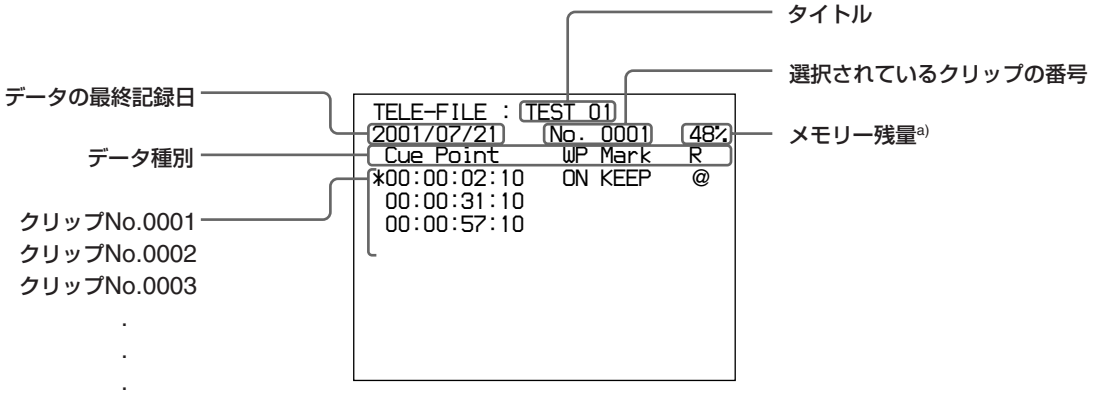
以下にメニュー表示部とモニター表示でのテレファイルメニューの表示例を示します。

◆ モニターでのメニューの表示のしかたは、「メニューをモニターに表示するには」（10-2ページ）をご覧ください。

メニュー表示部



モニター表示



◆ テレファイルは、アトリビュートデータを常に格納しているため、メモリー残量が「100%」と表示されることはありません。

メニュー表示部

テレファイルメニューインジケーター

メニュー表示部がテレファイルメニューになっていることを示します。

データ種別インジケーター

クリップデータ表示モードで選択されているデータの種別が表示されます。以下の種類があります。

Cue：キュー点
Protct：ライトプロテクト
Mark：マーク
R-Strt：記録開始点
IN：IN点
OUT：OUT点
Take：テイク番号
Cut：カット番号
Scene：シーン番号
Comnt：コメント

設定内容表示エリア

選択されているデータ種別の設定内容が、カーソル(“*” または “>”)とともに表示されます。

カーソルの記号の意味は以下のとおりです。

*:「クリップデータ表示モード」、「アトリビュートデータ表示・変更モード」で、データが選択されていることを示す。

>:「クリップデータ変更モード」、「アトリビュートデータ表示・変更モード」で、データの変更・入力を促す。

メニュー項目（ファンクション）

メニュー項目（ファンクション）が表示されます。

これらはクリップデータ表示モードの各データについて共通です。

各項目に対する機能の割り当ては以下のとおりです。

クリップデータ表示モードのメニュー項目

項目名	機能
F1（ATTRIB）	アトリビュートデータ表示・変更モードに移行する。 ◆ アトリビュートデータ表示・変更モードについて、詳しくは「7-3-5 アトリビュートデータの表示・変更」（7-11ページ）をご覧ください。
F2（SELECT）	クリップ内で選択されている（カーソル “*” が付いている）データの変更モードに移行する。カーソルは “>” に変わる。 **ご注意** 以下の場合、「SELECT」は表示されず、クリップデータ変更モードに移行することはできません。 • セットアップメニュー項目133が「REMOTE」に設定されているとき • メモリーラベル自体が書き込み禁止になっているとき ◆ クリップデータ変更モードについて、詳しくは「7-3-3 クリップデータの変更」（7-7ページ）をご覧ください。
F3（←）	クリップ内でデータを選択する。 1回押すたびにカーソル “*” が移動し、1つ前のデータが選択される。表示されていないデータに移動するときは、表示を左にスクロールする。
F4（→）	クリップ内でデータを選択する。 1回押すたびにカーソル “*” が移動し、次のデータが選択される。表示されていないデータに移動するときは、表示を右にスクロールする。
F5（UNDO）	テレファイルのデータが読み込まれてから現在までに設定内容が変更されたときに表示され、ボタンが有効になる。アンドゥ確認モードに移行する。 ◆ アンドゥ確認モードについて、詳しくは「7-3-4 アンドゥ/レジューム機能」（7-10ページ）をご覧ください。
F6（WR/EXT）	データを書き込み、テレファイルメニューから抜ける（ファンクションメニュー5ページに戻る）。

ご注意

ライトプロテクトを設定してあるクリップデータを変更しようとすると、“PROTECTED CLIP!” が表示され、変更できません。「ライトプロテクト、マーク、記録開始点を設定するには」(7-9ページ)を参考にして、ライトプロテクトの設定を解除してください 。

モニター表示

タイトル
アトリビュートデータ表示・変更モードで設定されたタイトル（最大14文字）が表示されます。

選択されているクリップの番号
選択されている（カーソル“*”が付いている）クリップの番号が4桁で表示されます。

メモリー残量
メモリー（ユーザーエリア）の残量が表示されます。
メモリーの空きが充分でない場合にデータを追加する操作をしようとすると、タイムデータ表示エリア2に<<MEMORY FULL!!>>と表示されます。（3秒間点灯表示します。）

データの最終記録日
データが最後に記録された日付（西暦年/月/日）が表示されます。

データ種別
データの種別が表示されます。メニュー表示部と同じデータが表示されますが、表記が一部異なります。以下の種類があります。

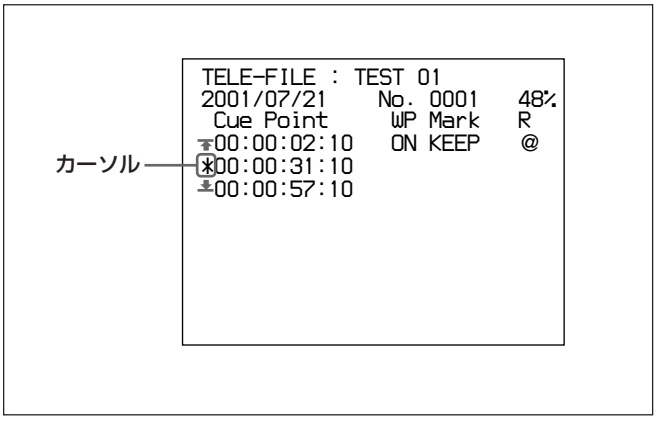
Cue Point：キュー点
WP:ライトプロテクト
Mark：マーク
R：記録開始点
IN Point：IN点
OUT Point：OUT点
Tk：テイク番号
Cut：カット番号
Scn：シーン番号
Comment：コメント

クリップデータ No.0001、…
1行で1つのクリップデータが表示されます。
クリップの番号は1番上の行をNo.0001として、連続して割り振られます。

クリップを選択するには

クリップデータ表示モードでMULTI CONTROLつまみを回します。

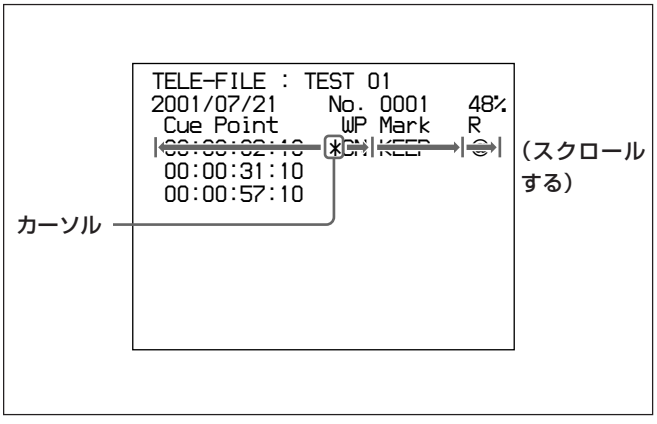
メニュー表示部では選択されたクリップのデータが表示され、選択されます。
モニター表示ではカーソル“*”が上下に移動し、クリップが選択されます。
表示されていないデータはスクロールして表示され、選択されます。



クリップ内のデータを選択するには

クリップデータ表示モードでF3（←）またはF4（→）ボタンを押します。

カーソル“*”が移動し、データが選択されます。表示されていないデータはスクロールして表示され、選択されます。



カーソルのダイレクト移動

以下のボタンを押すと、カーソルの位置にかかわらず、カーソルが同一クリップ内の指定の位置に直接移動し、データを表示させることができます。

IN（ビデオIN点指定）ボタン：IN点のデータ
OUT（ビデオOUT点指定）ボタン：OUT点のデータ
MARKボタン：キューポイントのデータ

デュレーションを表示するには

IN（ビデオIN点指定）ボタンとOUT（ビデオOUT点指定）ボタンを同時に押すと、カーソルが同一クリップ内のIN点のデータに移動し、ボタンを押している間だけデュレーションが表示されます。いずれか一方のデータがないときは、「0：00：00：00」が表示されます。

7-3-2 クリップデータを使用したプリロール/キューアップ

クリップデータ表示モードでは、クリップデータを使用して、プリロールやキューアップをすることができます。

キュー点、IN点、OUT点へプリロールするには

1 クリップを選択する。

2 キュー点、IN点、OUT点のいずれかを選択する。

3 PREROLLボタンを押す。

テレファイルメニューから抜け、選択したデータの位置にプリロールします。
プリロール時間はセットアップメニュー項目001の設定値にしたがいます。

ご注意

データが設定されていないときは、プリロール動作は行いません。

キュー点、IN点、OUT点へキューアップするには

1 クリップを選択する。

2 IN（ビデオIN点指定）ボタン、OUT（ビデオOUT点指定）ボタン、MARKボタンのいずれかを押したままPREROLLボタンを押す。

テレファイルメニューから抜け、手順**2**で操作したボタンに対応するデータの位置（MARKボタンの場合はキュー点）にキューアップします。

ご注意

データが設定されていないときは、キューアップ動作は行いません。

7-3-3 クリップデータの変更

クリップデータを変更するには、クリップデータ表示モードでF2（SELECT）ボタンを押し、クリップデータ変更モードに入ります。（カーソルは“>”に変わります。）

クリップデータ変更モードの各項目に対する機能の割り当ては以下のとおりです。

クリップデータ変更モードのメニュー項目

項目名	機能
F1（RETURN）	クリップデータ表示モードに戻る。
F2（MODIFY）	選択されているデータの設定値を変更、または新規に設定する。 ファンクションボタンはデータの種別によって変化する。 ◆ それぞれのデータの設定のしかたについて、以下の説明を参照してください。 • キュー点、IN点、OUT点：「タイムデータを設定するには」（7-8ページ） • ライトプロテクト、マーク、記録開始点：「ライトプロテクト、マーク、記録開始点を設定するには」（7-9ページ） • テイク番号、カット番号、シーン番号：「テイク番号、カット番号、シーン番号を設定するには」（7-9ページ） • コメント：「コメントを設定するには」（7-10ページ）
F3（DELETE）	キュー点、IN点、OUT点、テイク番号、カット番号、シーン番号、コメントが選択されているとき有効で、選択されたデータの設定値を削除する。 確認のメッセージが表示され、以下のボタン操作にしたがって動作する。 • F1（CANCEL）：設定値の削除を中断してクリップデータ表示モードに戻る。 • F2（OK）：設定値の削除を実行してクリップデータ表示モードに戻る。
F4（DEL LN）	選択されたクリップを削除する。 確認のメッセージが表示され、以下のボタン操作にしたがって動作する。 • F1（CANCEL）：クリップの削除を中断してクリップデータ表示モードに戻る。 • F2（OK）：クリップの削除を実行してクリップデータ表示モードに戻る。
F5（INS LN）	カーソルの位置にクリップを挿入する。 確認のメッセージが表示され、以下のボタン操作にしたがって動作する。 • F1（CANCEL）：クリップの挿入を中断してクリップデータ表示モードに戻る。 • F2（OK）：クリップの挿入を実行してクリップデータ表示モードに戻る。
HOME＋F4 （DELETE ALL）	すべてのクリップを削除する。 確認のメッセージが表示され、以下のボタン操作にしたがって動作する。 • F1（CANCEL）：すべてのクリップデータの削除を中断してクリップデータ表示モードに戻る。 • F2（OK）：すべてのクリップデータの削除を実行してクリップデータ表示モードに戻る。

ご注意

ライトプロテクトを設定してあるクリップデータを変更しようとすると、“PROTECTED CLIP!”が表示され、変更できません。「ライトプロテクト、マーク、記録開始点を設定するには」(7-9ページ)を参考にして、ライトプロテクトの設定を解除してください 。

クリップを追加・削除するには

クリップを追加するには

1 MULTI CONTROLつまみを回して、クリップを追加したい位置にカーソル“*”を合わせる。

2 F2（SELECT）ボタンを押す。

クリップデータ変更モードになります。

3 F5（INS LN）ボタンを押す。

確認のメッセージ「INSERT CLIP OK?」が表示されます。

4 F2（OK）ボタンを押す。

手順**1**でカーソルを合わせた位置にクリップが追加されます。

クリップを削除するには

1 削除したいクリップを選択する。

2 F2（SELECT）ボタンを押す。

クリップデータ変更モードになります。

3 F4（DEL LN）ボタンを押す。

確認のメッセージ「DELETE THIS CLIP OK?」が表示されます。

4 F2（OK）ボタンを押す。

手順**1**で選択したクリップが削除されます。

タイムデータを設定するには

キュー点、IN点、OUT点のデータを設定・変更するには、以下の手順で操作します。

1 クリップを選択する。

2 キュー点、IN点、OUT点のいずれかを選択する。

3 F2（SELECT）ボタンを押す。

クリップデータ変更モードになります。

4 F2（MODIFY）ボタンを押す。

最上位の2桁が点滅し、データの設定・変更が可能になります。

5 F3（←）またはF4（→）ボタンを押して、設定・変更したい桁を点滅させる。

6 MULTI CONTROLつまみを回してデータを設定する。

変更前の設定値とのオフセットを表示するには
F2（OFFSET）ボタンを押している間、オフセットを表示します。

7 手順**5**と**6**を繰り返し、設定・変更が必要な桁のデータをすべて設定する。

8 F5（SET）ボタンを押す。

データの設定・変更が確定され、クリップデータ表示モードに戻ります。

データの設定・変更を中断してクリップデータ表示モードに戻るには
F1（CANCEL）ボタンを押します。

設定・変更したデータを別のタイムデータとして設定するには

F6（SET TO）ボタンを押し、タイムデータ（キュー点、IN点、OUT点）を選択してから、F5（SET）またはF6（SET NL）ボタンを押します。どちらのボタンを操作するかによって、以下のようにデータが設定される位置が異なります。

- **F5（SET）**：選択したタイムデータの位置にデータが設定される。
- **F6（SET NL）**：最下行に新しいクリップが追加され、追加されたクリップ内の、選択したタイムデータの位置にデータが設定される。

ライトプロテクト、マーク、記録開始点を設定するには

ライトプロテクト、マーク、記録開始点を設定するには、以下の手順で操作します。

1 クリップを選択する。

2 ライトプロテクト、マーク、記録開始点のいずれかを選択する。

3 F2（SELECT）ボタンを押す。

クリップデータ変更モードになります。

4 F2（MODIFY）ボタンを押す。

データ入力エリアが点滅し、データの設定が可能になります。

5 F3（＋）またはF4（－）ボタンを押すか、MULTI CONTROLつまみを回して、データを選択する。

6 F2（SET）ボタンを押す。

データの設定が確定され、クリップデータ表示モードに戻ります。

テイク番号、カット番号、シーン番号を設定するには

テイク番号、カット番号、シーン番号を設定するには、以下の手順で操作します。

1 クリップを選択する。

2 テイク番号、カット番号、シーン番号のいずれかを選択する。

3 F2（SELECT）ボタンを押す。

クリップデータ変更モードになります。

4 F2（MODIFY）ボタンを押す。

最上位の桁が点滅し、データの設定が可能になります。

5 F3（←）またはF4（→）ボタンを押して、設定・変更したい桁を点滅させる。

6 MULTI CONTROLつまみを回してデータを設定する。

7 手順**5**と**6**を繰り返し、設定・変更が必要な桁のデータをすべて設定する。

8 F2（SET）ボタンを押す。

データの設定が確定され、クリップデータ表示モードに戻ります。

コメントを設定するには

コメントを設定するには、以下の手順で操作します。

1 クリップを選択する。

2 コメントを選択する。

3 F2（SELECT）ボタンを押す。

クリップデータ変更モードになります。

4 F2（MODIFY）ボタンを押す。

データ入力エリアが点滅し、文字の入力が可能になります。

5 MULTI CONTROLつまみを回して文字を入力する。

6 F4（→）ボタンを押して、隣の桁に移動する。

7 手順**5**と**6**を繰り返し、コメントを入力する。

文字を削除するには

F3（←）またはF4（→）ボタンを使用して削除したい文字を点滅させ、F5（DELETE）ボタンを押します。

文字を挿入するには

F3（←）またはF4（→）ボタンを使用して挿入したい位置の1つ後ろの文字を点滅させ、F6（INSERT）ボタンを押します。

8 F2（OK）ボタンを押す。

コメントの設定が確定され、クリップデータ表示モードに戻ります。

7-3-4　アンドゥ/レジューム機能

アンドゥ機能

アンドゥ機能はデータの変更をすべてキャンセルし、データを最初に読み込まれたときの状態に戻します。

クリップデータ表示モードでF5（UNDO）ボタンを押すと確認のメッセージが表示され、F2（OK）ボタンを押すとアンドゥ機能を実行し、データの変更はすべてキャンセルされます。

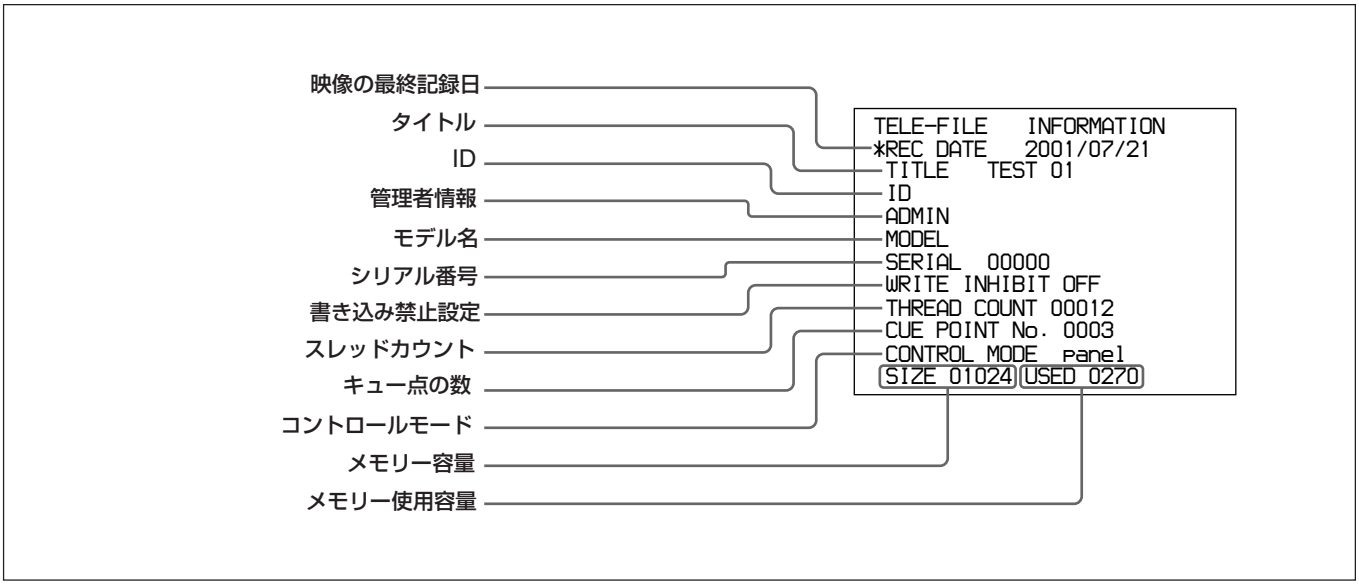
レジューム機能

アンドゥ機能実行後データの変更操作を行わなければ、F5（UNDO）ボタンは直前のアンドゥ操作を取り消すレジューム機能として働きます。

クリップデータ表示モードでF5（UNDO）ボタンを押すと確認のメッセージが表示され、F2（OK）ボタンを押すとレジューム機能を実行し、直前のアンドゥ操作はキャンセルされます。

7-3-5　アトリビュートデータの表示・変更

アトリビュートデータやその他の情報を表示します。以下にモニター表示でのアトリビュートデータの表示例を示します。



映像の最終記録日

映像がテープに記録された最新の日付（西暦年/月/日）が表示されます。

タイトル

タイトル（テレファイルに付けられた名称など、最大24文字）が表示されます。

タイトルは変更可能です。

ID

ID（テレファイルに付けられた固有の番号など、最大20桁）が表示されます。

IDは変更可能です。

管理者情報

カセットまたはテープ素材の管理者情報（最大16文字）が表示されます。

管理者情報は変更可能です。

モデル名

最後にテープに記録したVTRのモデル名が表示されます。

シリアル番号

最後にテープに記録したVTRのシリアル番号が表示されます。

書き込み禁止設定

テレファイル全体の書き込み禁止設定の状態が表示されます。

書き込み禁止設定は変更可能です。

スレッドカウント

テレファイルに記録されているスレッドカウント値が表示されます。

キュー点の数

テレファイルに記録されているキュー点の数が表示されます。

各キュー点の設定値はクリップデータ表示モードで確認できます。

コントロールモード

メニュー項目133の設定内容が表示されます。

◆ メニュー項目133について、詳しくは10-11ページをご覧ください。

メモリー容量

テレファイルのメモリー容量（単位：Byte）が表示されます。

メモリー使用容量

メモリーの使用容量（単位：Byte）が表示されます。

アトリビュートデータを変更するには

タイトル、ID、管理者情報、書き込み禁止設定は設定内容を変更することができます。
ただし、コントロールモードが“remote”のときはデータを変更することができません。また、書き込み禁止設定が“ON”のときも変更できません。以下の手順にしたがって、書き込み禁止設定を“OFF”にしてから変更します。

1 MULTI CONTROLつまみを回して項目を選択する。

変更可能なデータ（タイトル、ID、管理者情報、書き込み禁止設定）を選択すると、F2（SELECT）ボタンが有効になります。

2 F2（SELECT）ボタンを押す。

データの設定・変更が可能になります。

3 MULTI CONTROLつまみを回してデータを設定・変更する。

4 F2（SET）ボタンを押す。

設定の変更が確定されます。

ご注意

以下の場合、「SELECT」は表示されず、クリップデータ変更モードに移行することはできません。

- セットアップメニュー項目133が「REMOTE」に設定されているとき
- メモリーラベル自体が書き込み禁止になっているとき

テレファイルのメモリーをフォーマットするには

テレファイルのメモリーをフォーマットする（変更可能なデータをすべて消去する）ことができます。ただし、以下の場合フォーマットすることはできません。

- 書き込み禁止設定が“ON”のとき
- コントロールモードが“remote”のとき

フォーマットするには、以下の手順で操作します。

1 F4（FORMAT）ボタンを押す。

確認のメッセージが表示されます。

2 F2（OK）ボタンを押す。

変更可能なデータはすべて消去されます。

ご注意

以下の場合、「FORMAT」は表示されず、クリップデータ変更モードに移行することはできません。

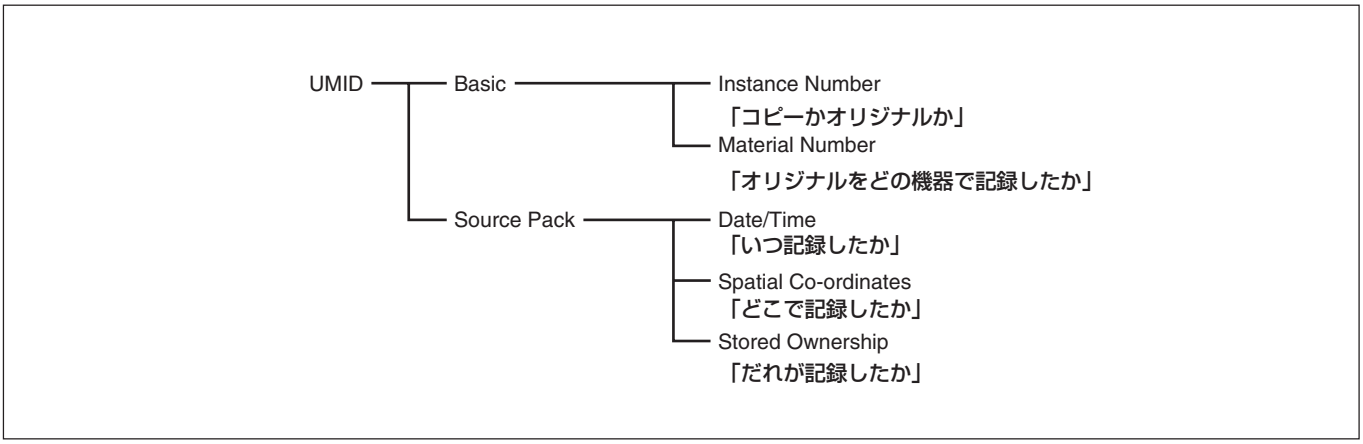
- セットアップメニュー項目133が「REMOTE」に設定されているとき
- メモリーラベル自体が書き込み禁止になっているとき

8-1 UMID機能の概要

UMID（Unique Material Identifier）とは、SMPTE 330Mに規定されている映像・音声素材のメタデータです。本機では、UMIDを記録/再生することができます。

UMIDは「Basic」と呼ばれる情報と、「Source Pack」と呼ばれる情報があります。Basic には、素材を記録した機器を特定する情報、およびその記録がオリジナルかコピーかを示す情報などが含まれます。Souce Packには、「いつ」、「どこで」、「だれが」記録したかという情報が含まれます。

BasicのみのUMIDを「Basic UMID」、BasicにSource Packを加えたUMIDを「Extended UMID」と呼びます。次の図は、UMIDに含まれる情報を表す概念図です。



8-2 UMIDの出力と表示

ここでは、UMIDの出力と表示について説明します。

ご注意

HD SDIの出力有効ライン数が720Pの場合、UMIDの出力と表示は行われません。

8-2-1 UMIDの出力に関する設定

UMIDを出力するか否か、出力する場合はBasic UMID、Extended UMIDのどちらを出力するかを設定することができます。この設定は、セットアップメニュー項目651「UMID OUTPUT」を使用して行います。
（UMID情報は、HD SDI出力に付加されます。）

◆ セットアップメニュー項目651については、10-17ページをご覧ください。

8-2-2 UMIDの表示

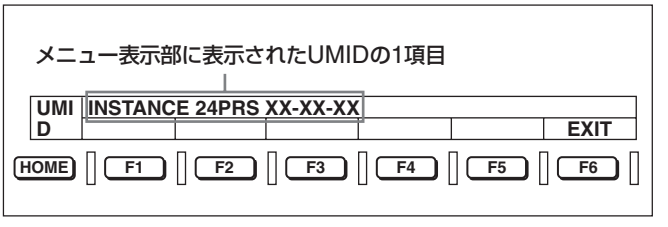
記録/再生中のUMIDのデータは、コントロールパネルのメニュー表示部およびビデオモニターに表示させ、観察することができます。

UMIDを表示させるには

ファンクションメニューの5ページで、F2 (UMID)ボタンを押します。

◆ ファンクションメニューの操作方法については、「9-1-2　ファンクションメニューの操作」（9-2ページ参照）をご覧ください。

コントロールパネルのメニュー表示部およびビデオモニターにUMIDが表示されます。



◆ ビデオモニター画面でのUMID表示については、次項「モニター画面でのUMID表示」をご覧ください。

メニュー表示部でのUMIDの表示項目を切り換えるには

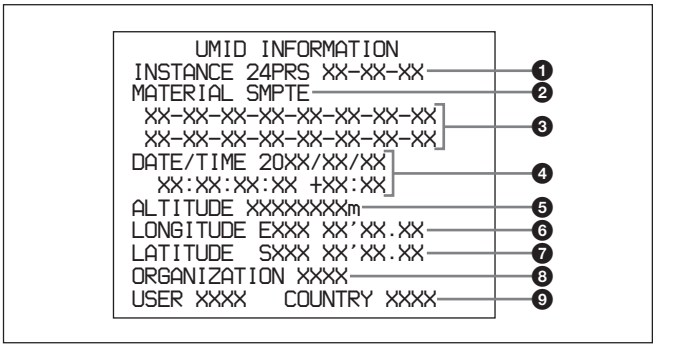
MULTI CONTROLつまみを回します。

UMID表示を終了するには

F6 (EXIT)ボタンを押します。

モニター画面でのUMID表示

コネクターパネルのCOMPOSITE VIDEO OUTPUT 3 (SUPER)端子またはSDI OUTPUT 3 (SUPER)端子に接続されたビデオモニターには、UMIDの項目が一括して表示されます。以下に、各行の表示について説明します。



❶ Instance Number生成方法とInstance Number

生成方法の表示は以下のとおりです。

CP+16：16bit PRS+Copy No. 方式
24PRS：24bit PRS方式
others：上記以外

メニュー項目656「MATERIAL NO.」をNEWに指定した場合は、SMPTE方式で生成されます。

❷ Material Number生成方法

SMPTE：SMPTE方式
IEEE 1394 ZONE：IEEE 1394 ZONE方式
IEEE 1394 RND：IEEE 1394 RND方式
others：上記以外

❸ Material Number

Material Numberが16進数で2行にわたって表示されます。

以下、❹～❾はSource Packに含まれるデータです。

❹ Date/Time

Date/Timeのデータが2行にわたって表示されます。
上の行には、Source Packに含まれるMJD（Modified Julian Date）がUTCに変換されて表示されます。
下の行には、ユニットカウント（「時：分：秒：フレーム」）形式のデータがUTCに変換されて表示されます。

ご注意

ユニットカウントをUTCに変換表示する機能は、ユニットレートが2（24フレーム）、3（24/1.001フレーム）、4（25フレーム）、6（30フレーム）、または7（30/1.001フレーム）の場合のみ働きます。それ以外のユニットレートでは、ユニットレート番号とユニットレートを16進数で表示します。

❺ 高度

XXXXXXXXm：地球中心からの距離を示す高度データはこの形式で表示されます。

S+XXXXXXXm Y+D：地表面からの距離を示す高度データはこの形式で表示されます。各文字/文字列が示す内容は次のとおりです。

- “S”（1文字目）：計測器（Sensor）の位置データであることを示す。記録装置（Recorder）の位置データの場合は“R”、目標物（Target）の位置データの場合は“T”が表示される。
- “＋”（2文字目）：地表面より高いことを示す。地表面より低い場合は“－”が表示される。
- “XXXXXXXm”：高度データ（単位はメートル）。
- “Y”：位置データを計算したときの衛星数（16進数）。
- “D”：DOP（dilution of precision）値。
- “＋”（YとDの間）：補助測地装置を使用している場合に表示される。補助測地装置を使用していない場合はスペース（空白）になる。

❻ 経度

西経を表す“W”または東経を表す“E”に続けて、経度を度、分、秒で示します（秒は少数点以下2桁まで表示）。

例）E134 59’23.00：東経134度59分23.00秒

❼ 緯度

北緯を表す“N”または南緯を表す“S”に続けて、緯度を度、分、秒で表示します（秒は少数点以下2桁まで表示）。

例）:N34 59’23.32：北緯34度59分23.32秒

9-1 概要

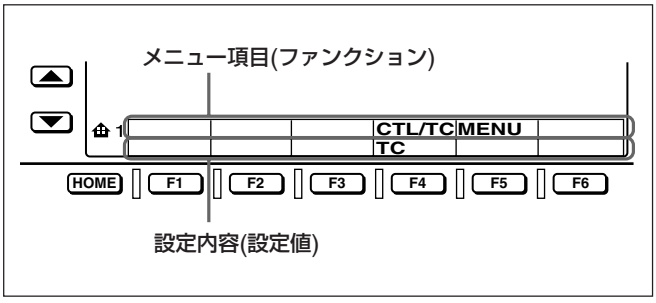
ファンクションメニューは、入力ビデオ信号の選択、タイムコードの設定など、ひんぱんに行う機能設定のために使用します。

9-1-1 ファンクションメニューの構成

ファンクションメニューは、工場出荷時の状態ではHOMEページと1～6ページの7ページで構成されています。また、ユーザー定義ファンクションキーを定義して、さらにHOME2ページを表示させることができます。各ページは、メニュー表示部の左端に表示される次のようなアイコンによって識別されます。

1：HOMEページ
1：1ページ
2：2ページ
3：3ページ
4：4ページ
5：5ページ
6：6ページ
2：HOME2ページ

各ページのメニュー表示部は上下2段からなり、上段にそのページのメニュー項目(ファンクション)が、下段に設定内容が表示されます。以下にHOMEページの表示例を示します。



上図で、F1ボタンに対応するメニュー項目として「VID.IN」(入力ビデオ信号の選択)、その設定内容として「Y-R,B」(アナログコンポーネント信号)が選択されています。本書ではこれを、「ファンクションメニューHOMEページでF1 (VID.IN)がY-R,Bに設定されている」と表現します。

HOME2ページ（ユーザー定義ファンクションキー）について

希望するファンクションキーを6個まで定義して（6種類のファンクションメニューをF1～F6ボタンに割り当てて)、HOME2ページに登録することができます。
ファンクションキーは以下から選んで定義することができます。

- ファンクションメニューHOMEページ、1～4ページのファンクション
- セットアップメニュー項目211(REMOTE1 PORT)の設定を表示し、メニュー項目の設定がpanelのときに操作を行うためのファンクションキー

ご注意

工場出荷時の状態では、HOME2ページにはファンクションキーが定義されていません。
HOME2ページにファンクションキーがまったく定義されていないときは、HOME2ページは表示されません。

◆ HOME2ページにユーザー定義ファンクションキーを定義する方法については、メンテナンスマニュアルVolume 1をご覧ください。

6ページについて

希望するセットアップメニューの項目を6個まで定義して(6種類のセットアップメニューをF1～F6ボタンに割り当てて)、6ページに登録することができます。

ご注意

工場出荷時の状態では、6ページにはセットアップメニューが定義されていません。

◆ 6ページにセットアップメニューを定義する方法については、メンテナンスマニュアルVolume 1をご覧ください。

9-1-2 ファンクションメニューの操作

メニュー項目の設定を切り換えるには

対応するボタン(F1～F6)を押して、メニュー表示部の下段に希望の設定内容を表示させます。ボタンを押すたびに、設定内容が切り換わります。

設定内容(値)の表示が点滅しているときは

MULTI CONTROLつまみを回して設定内容(値)を変更することができます。

ファンクションメニューのページを切り換えるには

ページ切り換えボタン(▼、▲)を押します。

- ▼ボタンを押すたびに、ページがHOME→1→2→3→4→5→6→HOME...の順に切り換わります。
- ▲ボタンを押すたびに、ページがHOME→6→5→4→3→2→1→HOME...の順に切り換わります。

1～6ページを表示しているときにHOMEボタンを押すと、HOMEページに切り換わります。
HOMEページまたはHOME2ページを表示しているときにHOMEボタンを押すと、それぞれHOME2またはHOMEページに切り換わります。

設定内容が表示されていないメニュー項目について

HOMEページ(「9-1-1 ファンクションメニューの構成」の図参照)のF5 (MENU)とF6 (TCGSET)は、メニュー表示部の下段に設定内容が表示されません。F5またはF6ボタンを押すと、メニューページ全体が変わり、これらのメニュー項目の設定操作ができるようになります。

9-2 ファンクションメニューの項目一覧

ファンクションメニューには、以下の設定項目があります。

HOMEページ

項目名	設定
F4 (CTL/TC)	タイムデータ表示エリア1 (2-5ページ参照)に表示するタイムデータを指定する。 TC：内蔵のタイムコードリーダーで読み取った再生タイムコード。タイムデータ種別インジケーター(2-6ページ参照)の「LTC」または「VITC」が点灯する。a) UB：再生タイムコードのユーザービットデータ。タイムコードがLTCかVITCかにより、タイムデータ種別インジケーターの「LUB」または「VIUB」が点灯する。a) CTL：再生中のテープに記録されているCTL (コントロール)信号をカウントして算出したテープの走行時間(時：分：秒：フレーム)
F5 (MENU)	セットアップメニュー(第10章参照)を操作するモードに入る。 現在のセットアップメニューの状態は、メニューバンク1～4の内容または、工場出荷時の設定と同じである場合は、以下のように表示されます。 (1)：メニューバンク1と同じ。 (2)：メニューバンク2と同じ。 (3)：メニューバンク3と同じ。 (4)：メニューバンク4と同じ。 (dflt)：工場出荷時の設定と同じ。

a) LTCかVITCかの選択は、ファンクションメニュー1ページのF6 (TCR)の設定によります。

1ページ

項目名	設定
F4 (DF)	59.94i、29.97PsFモードで使用しているとき、タイムコードジェネレーターおよびCTLカウンターの歩進モードを選択する。 DF：ドロップフレームモード NDF：ノンドロップフレームモード
F6 (TCR)	タイムデータ表示部に表示するタイムコードを選択する。 LTC：LTCを表示する。 AUTO：テープ走行速度が1/2倍速以下のときはVITCを、1/2倍速を超えるとLTCを表示する。 VITC：VITCを表示する。

2ページ

項目名	設定
F1 (V.PROC)	内蔵デジタルビデオプロセッサーのコントロール方法や設定に関する選択をする。 LOCAL：ファンクションメニューを使用して内蔵デジタルビデオプロセッサーの設定を変更するとき選択する。 REMOTE：別売りのリモートコントローラーBVR-50を使用して内蔵デジタルビデオプロセッサーをリモートコントロールするとき選択する。 MENU：HOMEページのF5 (MENU)を使用して内蔵デジタルビデオプロセッサーの設定を変更するとき選択する。 **ご注意** HKDV-503/900で本機をコントロールするときは、MENUに設定してください。
F2 (VIDEO)	HD/SDのビデオ信号出力レベルを設定する(－∞～＋3dB)。 PRESET：マニュアル設定値に関係なく、ビデオ信号の出力レベルを基準値に設定する。 **マニュアル設定値**：設定値の表示が点滅しているとき、MULTI CONTROLつまみを回してビデオ信号の出力レベルを調整する。

(続く)

2ページ (続き)

項目名	設定
F3 (CHROMA)	HD/SDのクロマ信号出力レベルを設定する(−∞〜＋3dB)。 PRESET：マニュアル設定値に関係なく、クロマ信号の出力レベルを基準値に設定する。 **マニュアル設定値**：設定値の表示が点滅しているとき、MULTI CONTROLつまみを回してクロマ信号の出力レベルを調整する。 設定値は16進数で表示されます。
F4 (HUE) (59.94i、29.97PsFモード) / (C PHAS) (50i、25PsF、23.98PsF、24PsFモード)	HD/SD出力の色相(バーストとの相対位相)を設定する。 PRESET：マニュアル設定値に関係なく、色相を基準値に設定する。 **マニュアル設定値**：設定値の表示が点滅しているとき、MULTI CONTROLつまみを回して色相を±30°の範囲で調整する。
F5 (SETUP) (59.94i、29.97PsFモード) / (BLACK) (50i、25PsF、23.98PsF、24PsFモード)	HD/SD出力のセットアップレベル(59.94i、29.97PsFモード)/ブラックレベル(50i、25PsF、23.98PsF、24PsFモード)を設定する。 PRESET：マニュアル設定値に関係なく、レベルを基準値に設定する。 **マニュアル設定値**：設定値の表示が点滅しているとき、MULTI CONTROLつまみを回してセットアップレベル(59.94i、29.97PsFモード)を±30 IREの範囲で、ブラックレベル(50i、25PsF、23.98PsF、24PsFモード)を±210mVの範囲で調整する。 設定値は16進数で表示されます。
F6 (YC DLY)	アナログベータカムカセット再生時のY/Cディレイを設定する。 PRESET：マニュアル設定値に関係なく、Y/Cディレイを基準値に設定する。 **マニュアル設定値**：設定値の表示が点滅しているとき、MULTI CONTROLつまみを回してY/Cディレイを±100 nsの範囲で調整する。

3ページ

項目名	設定
F1 (SYNC)	HD出力信号のシンク位相を設定する。 **設定方法** 設定値の表示が点滅しているとき、MULTI CONTROLつまみを回して出力信号のシンク位相を本機の入力基準信号に対して±15 μsの範囲で調整する。 本機の出力位相を基準信号の位相と正確に合わせたいときや、本機と他のVTRをスイッチャーなどに接続して特殊効果編集を行うときなどに調整します。
F2 (SC)	HD出力信号のシンク位相を微細に設定する。 **設定方法** 設定値の表示が点滅しているとき、MULTI CONTROLつまみを回して出力信号の位相を本機の入力基準信号に対して±200nsの範囲で調整する。
F4 (EMPHSS)	ベータカム/ベータカムSPフォーマットの再生オーディオ信号に、オーディオエンファシスを付加するかどうかを設定する。 ON：オーディオエンファシスを付加する。 OFF：オーディオエンファシスを付加しない。
F5 (T INFO)	タイムデータ表示エリア2に表示するタイムデータ表示の種類を選択する。 TOTAL：総時間を表示する。 REMAIN：残り時間を表示する。

4ページ

項目名	設定
F1 (CAPSTN)	再生におけるキャプスタンロックのフィールド数を選択する。 59.94i、29.97PsFシステム 2F：キャプスタンサーボを2フィールド単位でロックする。 コンポジット信号をソースとして記録したベータカムテープの再生では、画像の水平方向のずれ(Hシフト)が発生します。(メニュー項目712の設定がONの場合) 4F：キャプスタンサーボを4フィールド単位でロックする。 コンポジット信号をソースとして記録したベータカムテープを再生しても、画像の水平方向のずれ(Hシフト)は発生しません。コンポジット信号の編集や編集点での映像の位相の連続性が要求される場合やA/Bロール編集を行うとき、この位置に設定します。 50i、25PsFシステム 2F：キャプスタンサーボを2フィールド単位でロックする。 コンポジット信号をソースとして記録したベータカムテープの再生では、画像の水平方向のずれ(Hシフト)が発生します。(メニュー項目712の設定がONの場合) 4F：キャプスタンサーボを4フィールド単位でロックする。 コンポジット信号をソースとして記録したベータカムテープの再生では、画像の水平方向のずれ(Hシフト)が発生します。(メニュー項目712の設定がONの場合) 8F：キャプスタンサーボを8フィールド単位でロックする。 コンポジット信号をソースとして記録したベータカムテープを再生しても、画像の水平方向のずれ(Hシフト)は発生しません。コンポジット信号や編集点でのビデオ位相の連続性が要求される場合やA/Bロール編集を行うとき、この位置に設定します。 **ご注意** 24PsF、23.98PsFモード時は2Fに固定され、変更できません。
F3 (DOLBY)	オキサイドテープ使用時、ドルビーNR（ノイズリダクション）Cタイプの雑音低減システムを働かせるかどうかを設定する。 NR ON：アナログベータカムのオキサイドテープを再生するとき、ドルビーNRシステムを働かせる。 NR OFF：アナログベータカムのオキサイドテープを再生するとき、ドルビーNRシステムを働かせない。
F4 (CHARA)	HDSDI OUTPUT 3(SUPER)端子、SDI OUTPUT 3(SUPER)端子およびCOMPOSITE VIDEO OUTPUT 3(SUPER)端子から出力される映像信号に、タイムコード、メニュー設定、エラーメッセージなどの文字情報をスーパーインポーズ(重ねて表示)するかどうかを設定する。 ON：スーパーインポーズする。 OFF：スーパーインポーズしない。
F5 (REC INH)	テープへの記録(グッドショットマーカー)を禁止するかどうかを設定する。 ON：テープへの記録を禁止する。 OFF：テープへの記録を禁止しない。

5ページ

項目名	設定
F1 (TELE-F)	テレファイルメニューに移行する。 ◆ テレファイルメニューについて詳しくは、「7-3　テレファイルメニュー」(7-3ページ)をご覧ください。
F2 (UMID)	再生中にUMIDを表示する。 ◆ UMIDについて詳しくは、第8章をご覧ください。

10-1 セットアップメニューの構成

本機では、以下のセットアップメニューを使用します。

- 基本メニュー
- 拡張メニュー
  拡張メニューを表示するには、内部基板SS-89での設定が必要です。

◆ 詳しくはインストレーションマニュアルをご覧ください。

本書では、基本メニュー、拡張メニューのいずれの項目も、単にセットアップメニュー項目またはメニュー項目とも呼んでいます。

基本メニューの構成

基本メニューには、以下の項目グループがあります。

項目グループ	機能	参照先
項目H01～H14	本機の動作時間の累計など、デジタル時間計による集計情報の表示	11-5ページ
項目001～019	プリロール時間、文字情報の内容や表示、システム周波数の切り換えなどに関する設定	10-6ページ
項目B01～B20	メニューの設定を保存するメニューバンクに関する設定	10-8ページ

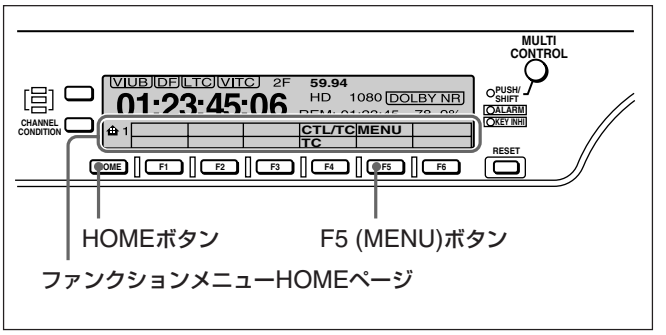
拡張メニューの構成

拡張メニューには、以下の項目グループがあります。

項目グループ	機能	参照先
項目100～199	コントロールパネルに関する設定	10-9ページ
項目200～299	リモートコントロールインターフェースに関する設定	10-12ページ
項目300～399	編集に関する設定	10-13ページ
項目400～499	プリロールに関する設定	10-14ページ
項目500～599	テープ保護に関する設定	10-15ページ
項目600～650	タイムコードジェネレーターに関する設定	10-15ページ
項目651～699	UMIDに関する設定	10-17ページ
項目700～799	ビデオコントロールに関する設定	10-18ページ
項目800～899	オーディオコントロールに関する設定	10-22ページ
項目900～999	デジタルプロセスに関する設定	10-24ページ

10-2 セットアップメニューの操作

セットアップメニューを表示するには

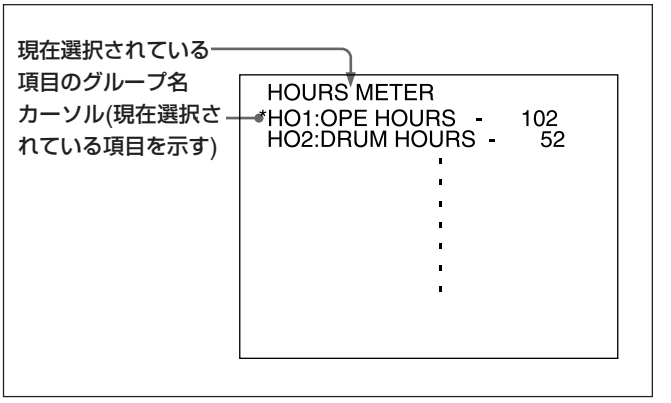


メニュー表示部にファンクションメニューHOMEページを表示して、F5 (MENU)ボタンを押します。
現在選択されているセットアップメニュー項目が、メニュー表示部に表示され、メニュー項目番号が点滅します。

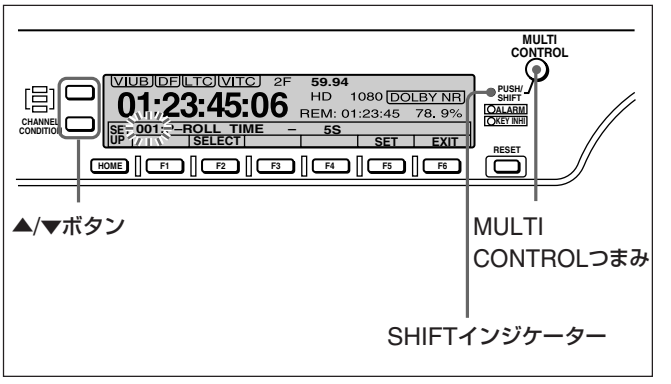
◆ メニュー表示部の基本操作については、2-5ページをご覧ください。

メニューをモニターに表示するには

モニターを本機のCOMPOSITE VIDEO OUTPUT 3(SUPER) 端子、SDI OUTPUT 3(SUPER)端子またはHDSDI OUTPUT 3 (SUPER)端子のいずれかに接続し、ファンクションメニュー4ページでF4 (CHARA)をONに設定します。
モニターのセットアップメニュー表示では、現在選択されているセットアップメニュー項目がカーソルで示されます。



希望のメニュー項目を表示するには



メニュー表示部にセットアップメニューを表示させ、メニュー項目番号が点滅している状態で、MULTI CONTROLつまみを回します。
▲ボタンまたは▼ボタンを押すたび、各メニュー項目グループの先頭項目にジャンプすることができます。

希望のサブ項目を表示するには

選択したメニュー項目にサブ項目がある場合に、希望のサブ項目を選択するには以下のように操作します。

1 希望のメニュー項目が選択された状態で、F2 (SELECT)ボタンを押す。

現在選択されているサブ項目名が点滅します。

2 MULTI CONTROLつまみを回して希望のサブ項目を選択する。

設定内容を変えるには

選択したメニュー項目に、サブ項目があるかないかによって操作方法が異なります。

サブ項目のないメニュー項目の設定を変えるには

「希望のメニュー項目を表示するには」(10-2ページ)の手順に従ってメニュー項目を選択し、メニュー項目番号が点滅している状態で、以下の操作を実行します。

1 F2 (SELECT)ボタンを押す。

メニュー項目の設定内容の表示が点滅します。

2 F3 (−)またはF4 (+)ボタンを押すか、MULTI CONTROLつまみを回して、希望の設定に変える。

続けて別のメニュー項目を選択して設定を変えるには

F1 (RETURN)ボタンを押してメニュー項目番号を点滅させ、メニュー項目の選択と設定変更の手順を繰り返します。

3 設定変更が終了したら、F5 (SET)を押す。

変更した設定が確定されます。

設定変更を中断してセットアップメニューを終了するには

F6 (EXIT)を押します。

サブ項目を含むメニュー項目の設定を変えるには

選択したメニュー項目にサブ項目がある場合、このページの「希望のサブ項目を表示するには」の手順に従ってサブ項目を選択し、サブ項目番号が点滅している状態で、以下の操作を実行します。

1 F2 (SELECT)ボタンを押します。

サブ項目の設定内容の表示が点滅します。

2 F3 (−)またはF4 (+)ボタンを押すか、MULTI CONTROLつまみを回して希望の設定に変える。

引き続き同じメニュー項目の別のサブ項目で設定を変えるときは

F1 (RETURN)を押してサブ項目名を点滅させ、サブ項目の選択と設定変更の手順を繰り返します。

引き続き他のメニュー項目の設定を変えるときは

F1 (RETURN)を続けて2回押してメニュー項目番号を点滅させ、メニュー項目の選択と設定変更の手順を実行します。

3 設定変更が終了したら、F5 (SET)を押す。

変更した設定が確定されます。

設定変更を中断してセットアップメニューを終了するには

F6 (EXIT)を押します。

工場出荷時の設定に戻るには(メニュー項目B20)

メニューの現在の設定内容を工場出荷時の状態に戻すには、以下の操作を実行します。

1 「サブ項目のないメニュー項目の設定を変えるには」(10-3ページ)の手順**1**～**3**を実行して、メニュー項目B20「RESET SETUP」をONに設定する。

メニューの設定内容が工場出荷時の状態に戻ります。

2 再度F5 (SET)ボタンを押す。

設定内容が保存されます。

システム周波数を切り換えるには(メニュー項目013)

システム周波数 (59.94i、50i、29.97PsF、25PsF、24PsF、23.98PsF)を切り換えるときは、以下の操作を実行します。

ご注意

- システムの設置担当者に相談してから、下記の操作を行ってください。
- 本機を50i、25PsFモードにすると、アナログテープは簡易再生のみ実行できます。
- 本機を24PsF、23.98PsFモードにすると、SDI (D1)、COMPONENT、COMPOSITEの信号は出力されません。

1 「サブ項目のないメニュー項目の設定を変えるには」(10-3ページ)の手順**1**～**3**を実行して、メニュー項目013「SYSTEM FREQUENCY SELECT」をONに設定する。

メニュー表示が変わり、システム周波数の切り換え(59.94i、50i、29.97PsF、25PsF、24PsF、23.98PsF)が可能になります。

2 システム周波数の選択を切り換えてから、F5 (SET)ボタンを押す。

3 本機の電源を切る。

次に本機の電源を入れると、本機は選択したモードで動作します。

ライン変換機能を切り換えるには (メニュー項目018)

59.94i、29.97PsFモードのみ有効です。その他のモードにはありません。
ライン変換 (OFF TAPE/1035/1080/720P)の設定を切り換えるときは、以下の操作を実行します。

ご注意

- システムの設置担当者に相談してから、下記の操作を行ってください。
- ライン変換 (次項「ライン変換モードについて」参照)の設定は、1035時はメニュー項目916「ACTIVE LINE 1035 CONVERT MODE」が、1080時はメニュー項目917「ACTIVE LINE 1080 CONVERT MODE」の設定が、それぞれ有効になります。

1 「サブ項目のないメニュー項目の設定を変えるには」(10-3ページ)の手順**1**～**3**を実行して、メニュー項目018「ACTIVE LINE SELECT」をONに陣2閧ｷる。

メニュー表示が変わり、ライン変換の設定切り換え(OFF TAPE/1035/1080/720P)が可能になります。

2 OFF TAPE/1035/1080/720Pの選択を切り換えてから、F5 (SET)ボタンを押す。

3 本機の電源を切る。

次に本機の電源を入れると、本機は選択したモードで動作します。

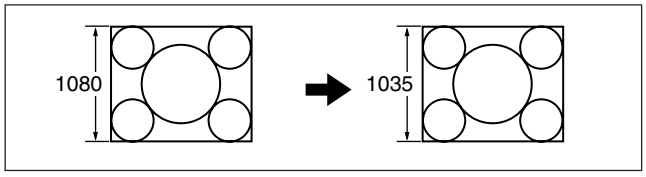
ライン変換モードについて

以下のように操作します。

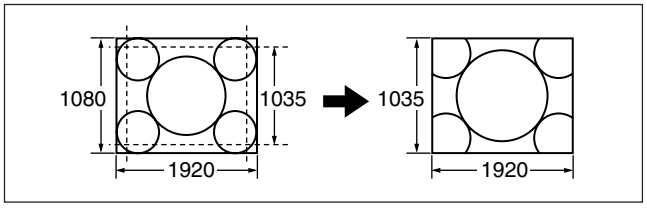
メニュー項目018「ACTIVE LINE SELECT」で1035を選択した場合

メニュー項目916「ACTIVE LINE 1035 CONVERT MODE」で変換モードを選択します。

1080⇨1035 (CONV)：有効走査線数を1080から1035へ、アスペクト比を維持したまま変換する。



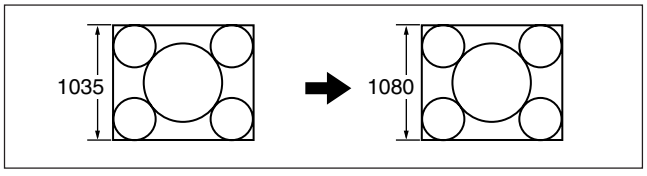
1080⇨1035 (CROP)：有効走査線数を1080から1035へ変換します。上下左右をカットしてから左右を引き伸ばす。



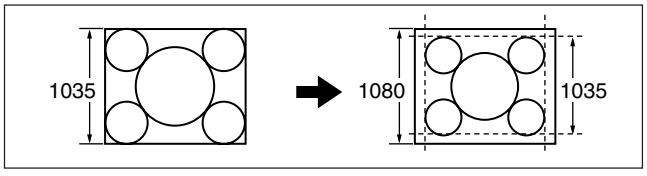
メニュー項目018「ACTIVE LINE SELECT」で1080を選択した場合

メニュー項目917「ACTIVE LINE 1080 CONVERT MODE」で変換モードを選択する。

1035⇨1080 (CONV)：有効走査線数を1035から1080へ、アスペクト比を維持したまま変換する。



1035⇨1080 (PANEL)：有効走査線数を1035から1080へ変換します。1035ラインを1080ラインにはめ込んでから左右を縮める。



メニューバンクの操作(メニュー項目B01～B13)

本機では、メニューバンクにメニューの設定を保存しておくことができます。保存した設定を必要に応じて呼び出し、使用することができます。

現在の設定内容を保存するには

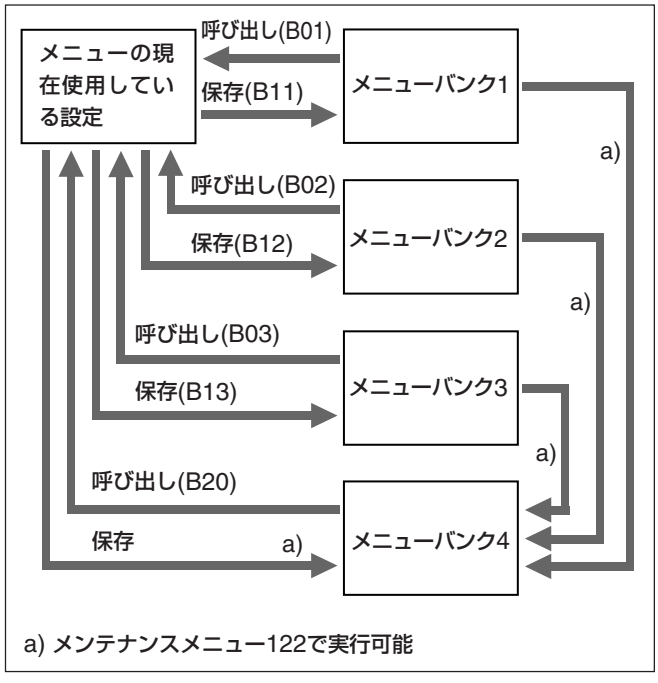
メニューバンク1～3のうちどれを使用するかに応じて、メニュー項目B11「SAVE BANK 1」～B13「SAVE BANK 3」のいずれかをONにし、F5 (SET)ボタンを押します。

保存した設定を呼び出すには

メニューバンク1～3のいずれかを呼び出す場合は、メニュー項目B01「RECALL BANK 1」～B03「RECALL BANK 3」のいずれかをONにし、F5 (SET)ボタンを押します。

メニューバンク4を呼び出す場合は、メニュー項目B20「RESET SETUP」で「bank-4」を選びます。

◆ メニューバンク4について詳しくは、メンテナンスマニュアルをご覧ください。



セットアップメニューは、現在使用している設定、メニューバンクとも、59.94i、29.97PsF、23.98PsFモードと50i、25PsF、24PsFモードで別々の記憶領域に保持されます。

10-3 基本メニューの項目

基本メニューには以下の項目があります。
「設定」の欄で□で囲んである値が、工場出荷時の設定です。

項目番号	項目名	設定
001	PREROLL TIME	0S～[5S]～30S：0秒から30秒までの範囲内で、プリロール時間を設定する。 本機を使って編集を行う場合は、プリロール時間は5秒以上に設定することをおすすめします。
002 a)	CHARACTER H-POSITION	COMPOSITE VIDEO OUTPUT 3(SUPER)端子、SDI OUTPUT 3(SUPER)端子またはHDSDI OUTPUT 3(SUPER)端子から出力される文字情報の水平位置を設定する。 00～[1E]～3C (59.94i、29.97PsF、23.98PsFモード) /00～[1B]～36 (50i、25PsF、24PsFモード)：16進数の00にすると画面左端から表示され、数字が増えると文字の位置が右へ移動する。
003 a),b)	CHARACTER V-POSITION	COMPOSITE VIDEO OUTPUT 3(SUPER)端子、SDI OUTPUT 3(SUPER)端子またはHDSDI OUTPUT 3(SUPER)端子から出力される文字情報の1行目の垂直位置を設定する。 00～[57]～6C (59.94i、29.97PsF、23.98PsFモード) /00～[70]～88 (50i、25PsF、24PsFモード)：16進数の00にすると画面上端から表示され、数字が増えると文字の位置が下へ移動する。
005	DISPLAY INFORMATION SELECT	ファンクションメニュー4ページでF4 (CHARA)をONにしている場合、COMPOSITE VIDEO OUTPUT 3(SUPER)端子、SDI OUTPUT 3(SUPER)端子またはHDSDI OUTPUT 3(SUPER)端子から出力される文字情報の種類を設定する。 [T&STA]：タイムデータ表示情報と動作状態 T&UB：タイムデータ表示情報とユーザービット T&CTL：タイムデータ表示情報とCTL T&T：タイムデータ表示情報とタイムコード(LTCまたはVITC) TIME：タイムコード(LTCまたはVITC)のみ この項目の設定とコントロールパネルの設定により選択された文字情報が重複する場合は、自動的に重複を避ける。たとえば、コントロールパネルでCTLが選択されていて、このメニュー項目の設定がT&CTLの場合はCTLとLTCが出力される。
006	LOCAL FUNCTION ENABLE	他の機器からリモートコントロールする場合、本機のコントロールパネル上で操作できるボタンを設定する。 DIS：すべてのスイッチ、ボタンが働かない。 [S&E&F]：STOP、EJECT、F1～F6ボタンのみ働く。 ENA：すべてのスイッチ、ボタンが働く。 MAP：LOCAL KEY MAPの設定に従う。 ◆ LOCAL KEY MAPの設定方法については、メニュー項目023「LOCAL KEY MAP」の説明（10-8ページ）をご覧ください。

a) 002と003の設定をするときは、モニター画面を見ながら希望の状態に合わせてください。

b) **ご注意**

タイムコードの表示には、多少時間の遅れがあります。そのため、オフライン編集用テープを作成する場合に、画面の上半分に挿入した情報が1フレーム遅れていることがあります。

項目番号	項目名	設定
007	TAPE TIMER DISPLAY	CTLカウントを12時間表示にするか24時間表示にするかを設定する。 [＋－12H]: 12時間表示 24H：24時間表示
009 a)	CHARACTER TYPE	COMPOSITE VIDEO OUTPUT 3(SUPER)端子、SDI OUTPUT 3(SUPER)端子またはHDSDI OUTPUT 3(SUPER)端子から出力されるタイムコードなどの文字情報の文字タイプを設定する。 [WHITE]: 白文字で、背景は黒 BLACK：黒文字で、背景は白 W/OUT：白文字で、黒のふちどり B/OUT：黒文字で、白のふちどり
011 a)	CHARACTER V-SIZE	COMPOSITE VIDEO OUTPUT 3(SUPER)端子、SDI OUTPUT 3(SUPER)端子またはHDSDI OUTPUT 3(SUPER)端子から出力されるタイムコードなどの文字情報の縦方向の大きさを設定する。 [×1]: 標準 ×2：2倍
013	SYSTEM FREQUENCY SELECT	システム周波数 (59.94i、50i、29.97PsF、25PsF、24PsF、23.98PsF)の切り換えを可能にするかどうかを指定する。 [OFF]：切り換えを可能にしない。 ON：切り換えを可能にする。 ONにするとメニュー表示が変わり、59.94i、50i、29.97PsF、25PsF、24PsF、23.98PsFの切り換えが可能になります。 ◆ システム周波数の切り換え手順については、10-4ページをご覧ください。 **ご注意** • 基本メニューと拡張メニューの設定は、59.94i、29.97PsF、23.98PsFモードと50i、25PsF、24PsFモードで別々に保存されます。切り換えを実行すると、メニューの全項目が切り換えたモードのカレントメニューの値に設定されます。(切り換える前のモードの設定値とは異なります。) • 本機を50i、25PsFモードにすると、アナログテープの再生は簡易再生のみとなります。
018	ACTIVE LINE SELECT (59.94i、29.97PsFモード時のみ有効。)	HDSDI出力の有効ライン数変換 (OFF TAPE/1035/1080/720P)の設定を行う。 [OFF]： 切り換えを可能にしない。 ON： 切り換えを可能にする。 ONにするとメニュー表示が変わり、OFF TAPE/1035/1080/720Pの切り換えが可能になります。 ◆ ACTIVE LINEの切り換え手順については、10-4ページをご覧ください。

(続く)

a) 009と011の設定をするときは、モニター画面を見ながら希望の状態に合わせてください。

項目番号	項目名		設定
023	LOCAL KEY MAP		メニュー項目006で「MAP」が選択されているとき、他の機器からリモートコントロールする場合に、本機のコントロールパネル上で操作できるボタンを下記のサブ項目ごとに独立して選択することができる。 設定値は各サブ項目とも以下のとおり。 DIS: 機能させない。 ENA : 機能させる。
	サブ項目		
	1	STOP	STOPボタンを機能させるかどうかを選択する。
	2	PLAY	PLAYボタンを機能させるかどうかを選択する。
	3	STANDBY	STANDBYボタンを機能させるかどうかを選択する。
	4	EJECT	EJECTボタンを機能させるかどうかを選択する。
	5	JOG	JOGボタンを機能させるかどうかを選択する。
	6	SHUTTLE	SHUTTLEボタンを機能させるかどうかを選択する。
	7	VAR	VARボタンを機能させるかどうかを選択する。
	8	FF/REW	F FWDおよびREWボタンを機能させるかどうかを選択する。
	9	PREROLL	PREROLLボタンを機能させるかどうかを選択する。
	10	LEARN/CUE/PLAY	LEARN、CUE/PLAYボタンを機能させるかどうかを選択する。
	11	F-KEY	F1～F6ボタンを機能させるかどうかを選択する。
	12	AUDIO/MONITOR	オーディオモニター信号選択ボタンを機能させるかどうかを選択する。
	13	OTHERS	ENTRY、STUNT IN、STUNT OUT、PLAY IN、PLAY OUT、TRIM+、TRIM—、GS-MARK、GS-LIST、DELETE、DMC EDITボタンを機能させるかどうかを選択する。
B01	RECALL BANK 1		メニューバンク1の設定を呼び出すときONにする。
B02	RECALL BANK 2		メニューバンク2の設定を呼び出すときONにする。
B03	RECALL BANK 3		メニューバンク3の設定を呼び出すときONにする。
B11	SAVE BANK 1		カレントメニューの設定をメニューバンク1に保存するときONにする。
B12	SAVE BANK 2		カレントメニューの設定をメニューバンク2に保存するときONにする。
B13	SAVE BANK 3		カレントメニューの設定をメニューバンク3に保存するときONにする。
B20	RESET SETUP		カレントメニューの設定を出荷時の設定にリセットするときONにする。

10-4 拡張メニューの項目

拡張メニューには以下の項目があります。
「設定」の欄で□で囲んである値が、工場出荷時の設定です。

項目100～199：コントロールパネルに関する項目

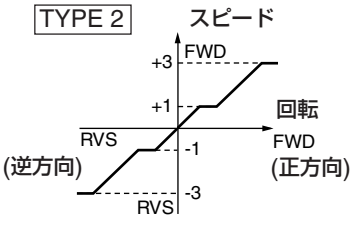
項目番号	項目名	設定
101	SELECTION FOR SEARCH DIAL ENABLE	本機をサーチモードにする方法を設定する。 DIAL：編集実行中以外のいずれの状況でも、サーチダイヤルを回すとサーチモードに入る。 KEY：JOG、SHUTTLE、VARのうちいずれかのボタンを押すとサーチモードに入る。
102	MAXIMUM SPEED	テープ再生時の早送りと巻き戻しのテープ速度、およびサーチモードの実行速度を設定する。 MAX：早送り、巻き戻し、サーチモードのいずれも最高速度で行う。 MX/24：早送り、巻き戻しは最高速度で行う。サーチモードは最高24倍速以内で行う。 MX/35：早送り、巻き戻しは最高速度で行う。サーチモードは最高35倍速以内で行う。 × 24：早送り、巻き戻しは24倍速で行なう。サーチモードは最高24倍速以内で行う。 × 35：早送り、巻き戻しは35倍速で行う。サーチモードは最高35倍速以内で行う。 **早送り、巻き戻しの最高速度** • アナログカセット: 35倍速（59.94Hzモード）または42倍速（50Hzモード） • HDCAMカセット：50倍速 **サーチモードの最高速度** • アナログカセット: 35倍速（59.94Hzモード）または42倍速（50Hzモード） • HDCAMカセット：50倍速
103	AUDIO SELECTED LINE OUT	アナログベータカムテープ再生時、MONITOR OUTPUT端子への出力信号を選択する。 MANU：下部コントロールパネルのオーディオモニター信号選択ボタンにより選択された信号が出力される。 AUTO1：メタルテープ再生時はAFM（CH3、CH4）が、オキサイドテープ再生時はLNG（CH1、CH2）がステレオで出力される。 AUTO2：下部コントロールパネルのオーディオモニター信号選択ボタンにより選択された信号が出力されるが、変速再生時にAFMが選択されている場合は、自動的にLNGが出力される。
104	AUDIO MUTING TIME	ストップモードまたはサーチモード時の静止画モードから再生モードに移るとき、オーディオ出力信号をミューティングする時間を設定する。 OFF：オーディオ信号のミューティング時間を0秒に設定（ミューティングしない）。 0.1S ～1.0S：0.1秒から1.0秒の範囲内で、0.1秒単位で設定。
105	REFERENCE SYSTEM ALARM	ビデオ/オーディオ用基準信号が存在しないときに警告表示するかどうかを選択する。 OFF：警告表示しない。 ON：STOPボタンを点滅させて警告表示する。
106	CAPSTAN LOCK	キャプスタンサーボのロックモードを設定する。 PANEL：ファンクションメニューのCAPSTNでロックモードを設定する。 2F：ファンクションメニューのCAPSTNの設定に関係なく、キャプスタンサーボを2フィールドでロックする。 4F：ファンクションメニューのCAPSTNの設定に関係なく、キャプスタンサーボを4フィールドでロックする。 8F (50i、25PsFモード時のみ)：ファンクションメニューのCAPSTNの設定に関係なく、キャプスタンサーボを8フィールドでロックする。 **ご注意** 24PsF、23.98PsFモード時は、設定は2Fになり、この項目は表示されません。

(続く)

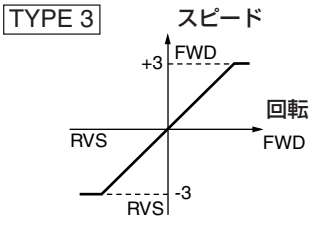
項目100～199：コントロールパネルに関する項目(続き)

項目番号	項目名		設定
111	TSO PLAY		テープスピードオーバーライドモードを可能にするかどうかを選択する。 DIS：テープスピードオーバーライドモードが不可能 TSO：テープスピードオーバーライドモードが可能
116	JOG DIAL RESPONSE		サーチダイヤルの回転数に対応するテープスピード(VTRコマンド)の特性を設定する。 TYPE1：テープスピードは±1倍速の範囲で直線的に変化する。 TYPE2：テープスピードは、下図の「TYPE 2」a)に示すように±3倍速の範囲で段階的に変化する。(±1倍速の部分では、サーチダイヤルの回転数にかかわらずスピードが変化しない平坦部分がある特性を持つ。ただし、HDCAM再生時は下図の「TYPE 4」c)と同じ。) TYPE3：テープスピードは,下図の「TYPE 3」b)に示すように±3倍速の範囲 (HDCAM再生時は、±2倍速の範囲)で直線的に変化する。 TYPE4：テープスピードは、「TYPE 4」に示すように±2倍速の範囲で段階的に変化する。(±1倍速の部分では、サーチダイヤルの回転数にかかわらずスピードが変化しない平坦部分がある特性を持つ。)
117	CONTROL PANEL SELECTION		スイッチパネルのPANEL SELECTスイッチがREARに設定されているとき、どのコントロールパネルが機能するかを選択する。 SW：コネクターパネルのCONTROL PANEL端子に接続されたコントロールパネルのみが機能する。 PARA：スイッチパネルとコネクターパネルのCONTROL PANEL端子に接続されたコントロールパネルが両方とも機能する。
118	KEY INHIBIT SWITCH EFFECTIVE AREA		スイッチパネルのKEY INHIスイッチをONに設定しているときに操作できるスイッチ/ボタンを、下記のサブ項目ごとに独立して選択することができる。
	サブ項目		
	1	REMOTE SELECT	本機の上部コントロールパネルのREMOTE 1(9P)/2(50P)ボタンを機能させるかどうかを選択する。 DIS：機能させない。 ENA：機能させる。
	2	AUDIO/F-KEY	本機の下部コントロールパネルのオーディオモニター信号選択ボタンと下部コントロールパネルのF1～F6ボタンを機能させるかどうかを選択する。 DIS：機能させない。 ENA：機能させる。 AUDIO：モニター信号選択を機能させない。 F-KEY：ファンクションキー（HOME含む）を機能させない。
	3	MODE CONTROL	本機の下部コントロールパネルおよび本機に接続された外部コントロールパネル上の操作できるスイッチ/ボタンを機能させるかどうかを選択する。 DIS：すべてのスイッチ/ボタンを機能させない。 EDIT：編集操作用スイッチ/ボタンを機能させない（オーディオモニター信号選択ボタンとF1～F6ボタンを除く)。 ENA：すべてのスイッチ/ボタンを機能させる（オーディオモニター信号選択ボタンとF1～F6ボタンを除く)。

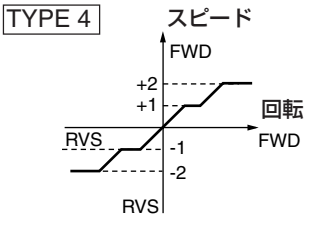
a)



b)



c)



(続く)

項目100～199：コントロールパネルに関する項目(続き)

項目番号	項目名	設定
119	VARIABLE SPEED LIMIT IN KEY PANEL CONTROL	本機のコントロールパネルでバリアブル再生するときの、再生速度の可変範囲を設定する。 OFF：アナログテープではー1～＋3倍速。HDCAMテープではー1～＋2倍速。 ON：HDCAMテープ、アナログテープともに0～1倍速
120	CTL LOCK IN VAR/SHTL	バリアブルまたはシャトル再生時に、CTL信号に位相ロックしてテープを走行させるかどうかを選択する。 OFF：位相ロックしない。 ON：下記の速度で位相ロックする。 ー1、ー0.5、0.5、1.0、2.0倍速
121	DT MODE	可変速再生時のモードを選択する。 FIELD：常にフィールド再生が行われる。 FRAME：ノイズレス再生の速度範囲内でフレーム再生が行われ、その他の速度ではフィールド再生になる。フレーム再生時は、フィールド再生時に比べて静止画がより高精度な画像になる。 **ご注意** • アナログベータカム再生の場合は、常にフィールド再生になります。また、デジタルベータカム再生の場合は、フレーム再生が有効になるのは正方向のみです。 • PsFモードで記録されたHDCAMテープは自動的にフレーム再生になります。
125	AUTO REWIND	テープの最後まで再生したときに、テープを自動的に巻き戻すかどうかを選択する。 DIS：巻き戻さない。 ENA：巻き戻す。
130	TIMER DISPLAY DIMMER CONTROL	タイムデータ/メニュー表示部の明るさを設定する。 0～7：この範囲で設定可能。0が最も明るく、7が最も暗くなる。
133	TELE-FILE CONTROL MODE	テレファイルメニューでデータの変更操作をする装置を選択する。 CONTROL PANEL：本機コントロールパネルで操作する。 REMOTE：REMOTE1、REMOTE2、RS-232Cなどの端子に接続した外部機器で操作する。
134	TELE-FILE MENU AUTO POPUP	メモリーラベルが貼られたカセットを挿入したとき、自動的にテレファイルメニューを開くかどうかを設定する。ただし、ファンクションメニューがHOME、1ページ～6ページのいずれかの場合に有効。 OFF：自動的にテレファイルメニューを開かない。 ON：自動的にテレファイルメニューを開く。
135	TELE-FILE THREAD COUNTER CLEAR MODE	テレファイルのフォーマット時にスレッドカウンターをクリアするかどうかを設定する。 NOT CLEAR：スレッドカウンターをクリアしない。 WHEN FORMAT：スレッドカウンターをクリアする。
136	TELE-FILE IN OUT INPUT CONTINUE	テレファイルメニュー画面でログ（IN/OUT点）データを連続入力するかどうかを設定する。 OFF：ログ（IN/OUT点）データを連続入力しない。 ON：ログ（IN/OUT点）データを連続入力する。

(続く)

項目100～199：コントロールパネルに関する項目(続き)

項目番号	項目名		設定
138	STOP CODE FUNCTION		ストップコードの検出、テープへの書き込みおよび消去に関する操作を行う。 **ご注意** 59.94i、29.97PsFモード時のみ有効です。
	サブ項目		
	1	DETECT STOP	OFF：ストップコードの検出を行わない。 ON：ストップコードを検出したらテープを止める。
	2	STOP ADJUST	ストップコード検出時にテープを止める位置を調整する。 0～30 FRAME：0～30フレーム
	3	REC ADJUST	ストップコードを書き込む位置を調整する。 1～3～5 SEC：1～5秒
	4	CODE REC	OFF：ストップコードの書き込みを行わない。 ON：ストップコードの書き込みを行う。 **ご注意** 動作完了時およびサブメニュー表示を閉じたとき、自動的にOFFになります。
	5	CODE ERASE	OFF：ストップコードの消去を行わない。 ON：ストップコードの消去を行う。 **ご注意** 動作完了時およびサブメニュー表示を閉じたとき、自動的にOFFになります。
139	LOST LOCK DISPLAY ON CONTROL PANEL		LOST LOCKが生じたときに、LOST LOCKの表示をコントロールパネルに表示するかどうかを選択する。 OFF: LOST LOCKの表示をコントロールパネルに表示しない。 ON: LOST LOCKの表示をコントロールパネルに表示する。

項目200～299：リモートコントロールインターフェースに関する項目

項目番号	項目名	設定
201	PARA RUN	2台以上のVTRを同期運転させるかどうかを選択する。 DIS：同期運転させない。 ENA：同期運転させる。 **ご注意** 同期運転させる場合は、すべてのVTRでメニュー項目 201をENAに設定してください。
202	CF FLAG (50i、25PsFモード時のみ有効)	リモートコントローラーから送られるカラーフレームにどのモードでロックするかを選択する。 8F：8フィールドにロックするモード 4F/8F：4または8フィールドにロックするモード
211	REMOTE1 PORT	コネクターパネルのREMOTE 1-IN(9P)/REMOTE 1-OUT(9P)端子の使いかたを選択する。 I&O：本機のモード(ローカルまたはリモート)にかかわらず、IN、OUT端子とも使用する。 IN：本機のモード(ローカルまたはリモート)にかかわらず、IN端子だけを使用する。 OUT：本機のモード(ローカルまたはリモート)にかかわらず、OUT端子だけを使用する。 PANEL：I&O、IN、OUTのいずれに設定するかをファンクションメニューで選択可能にする。 **ご注意** PANELに設定する場合、HOME2ページにユーザー定義ファンクションキーRMT1を選択してください。 ◆ HOME2ページにあるユーザー定義ファンクションキーの設定方法は、メンテナンスマニュアルVolume1をご覧ください。

項目200～299：リモートコントロールインターフェースに関する項目（続き）

項目番号	項目名		設定
212	VIDEO REMOTE CONTROL SELECT (24PsF、23.98PsF モード時は無効。)		VIDEO CONTROL (15ピン)端子に接続したHKDV-900/503などの制御に関する設定を行う。
	サブ項目		
	1	IMAGE ENHANCER	イメージエンハンサーを制御する場合に、アップコンバーター/ダウンコンバーターのどちらを制御するかを選択する。 down：ダウンコンバーターを制御する。 up：アップコンバーターを制御する。 u&d：アップコンバーター、ダウンコンバーターの両方を同様に制御する。
	2	D2 SETUP	HKDV-900/503のD2ボタンを押した状態で、SETUPダイヤルによって変化する制御対象を選択する。 setup：メニュー項目713 (VIDEO SETUP REFERENCE LEVEL)のサブ項目 (OUTPUT LEVEL) black：メニュー項目718 (SETUP LEVEL) ◆詳しくは、メニュー項目718を参照してください。 **ご注意** この項目を切り換えた場合、本機またはHKDV-900/503の電源をいったん切って入れ直してください。

項目300～399：編集に関する項目

項目番号	項目名	設定
301	VAR SPEED RANGE FOR SYNCHRONIZATION	REMOTE-1 IN(9P)またはREMOTE-1 OUT(9P)端子に接続しているリモートコントロールユニットからバリアブルモードで再生操作するときの再生速度範囲を設定する。 －1～＋2：HDCAMテープ、ベータカムSXテープでは－1～＋2倍速。デジタルベータカムテープ、MPEG IMXテープ、およびアナログテープでは－1～＋3倍速。 ～2.45：HDCAMテープ、ベータカムSXテープでは－1.5～＋2.45倍速。デジタルベータカムテープ、MPEG IMXテープ、およびアナログテープでは－1.5～＋3.45倍速。
302	CAPSTAN RE-LOCKING DIRECTION （24PsF、23.98PsF モード時は無効。）	**59.94i、29.97PsFモードの場合** ファンクションメニューのCAPSTNを4Fに設定したとき、キャプスタンサーボのロックのしかたを加速モードでロックするか、減速モードでロックするかのいずれかを選択する。 DECEL：減速モードでロックする。 ACCEL：加速モードでロックする。
		50i、25PsFモードの場合 ファンクションメニューのCAPSTNを4Fまたは8Fに設定したとき、キャプスタンサーボのロックのしかたを加速モードでロックするか、減速モードでロックするかのいずれかを選択する。 DECEL：減速モードでロックする。 ACCEL：加速モードでロックする。
306	DMC INITIAL SPEED	DMC再生を行うときに、自動的に設定される初期速度を選択する。 **ご注意** この項目を設定後、続けて再生するときは、DMC EDITボタン(2-9ページ)とDELETEボタン(2-10ページ)を同時に押して、DMC EDITボタンを消灯させてください。 MANU：サーチダイヤルの回転速度によって決定した速度 PLAY：標準速度 STILL：静止 ±0.03～±1、＋2：この範囲で設定した速度 (＋2、±1、±0.5、±0.2、±0.1、±0.03から選択)

(続く)

項目300～399：編集に関する項目（続き）

項目番号	項目名	設定
307	AUTO-DELETION FOR INCONSISTENT DATA	誤って不適切な編集点を設定したときの動作を選択する。 MANU：下部コントロールパネルのDELETEボタンを点滅させて警告表示する。 不要な編集点を削除するか、正しく設定し直してください。 NEG&E：OUT点がIN点より前にあったり、オーディオOUT点がオーディオIN点よりも前にあるような不適切な設定をした場合や、編集点を必要以上に多く設定した場合には、前に設定された編集点を自動的に削除する。 NEG：OUT点がIN点より前にあったり、オーディオOUT点がオーディオIN点よりも前にあるような不適切な設定をした場合には、前に設定された編集点を自動的に削除する。編集点を必要以上に多く設定した場合には、コントロールパネルのDELETEボタンを点滅させて警告表示する。 **ご注意** 削除したい編集点に対応するボタンとDELETEボタンを同時に押すと、その編集点が削除されます。誤った編集点が設定されている場合は（DELETEボタンが点滅しているとき）、編集は実行されません。
320	DIGITAL AUDIO PB PROCESS ON EDIT POINT （HDW- M2100のみ。24PsF、23.98PsFモード時は無効。）	編集点におけるオーディオの処理を設定する。 CUT：カット編集(編集点で音声に不連続が生じることがある。) FADE：フェードアウト・フェードイン
337	EXTERNAL REFERENCE SELECT	外部基準ビデオ信号を選択する。 HD：HD基準映像信号を基準信号とする。REF. VIDEO INPUT端子には、正負両極性3値同期信号を入力する。 SD：SD基準映像信号を基準信号とします。REF. VIDEO INPUT端子には、クロマバーストつきの映像信号 (VBS)または白黒映像信号 (VS)を入力する。 **ご注意** 24PsF、23.98PsFモード時は、設定はHDになり、この項目は表示されません。
338	OUTPUT AUDIO/TC PHASE	オーディオ(AES/EBUおよびアナログ)とタイムコードの出力位相の設定を行う。 HD：HDSDI出力位相に合わせる。 SD：SD出力位相に合わせる。 **ご注意** 24PsF、23.98PsFモード時は、設定はHDになり、この項目は表示されません。

項目400～499：プリロールに関する項目

項目番号	項目名	設定
401	FUNCTION MODE AFTER CUEUP	キューアップ動作終了後の本機のモードを選択する。 STOP：STOPモードにする。 STILL：静止画モード（サーチモード）にする。 **ご注意** 編集機に標準定数値を設定して本機をコントロールする場合は、STOPに設定してください。
402	TIME REFERENCE FOR PREROLL	タイムコード信号に不連続点があるテープをプリロールする場合、不連続点より前のタイムコードをCTL信号を使って歩進させてプリロールするかどうかを選択する。 CTL：CTL信号でタイムコードを歩進させる。 TC：CTL信号によるタイムコードの歩進は行わない。
403	AUTOMATIC PREROLL REFERENCE ENTRY	プリロール開始時にIN点が設定されていない場合に、PREROLLボタンを押すだけでIN点を自動的に設定するかどうかを選択する。 DIS：IN点の自動設定を行わない。 ENA：IN点を自動的に設定する。

(続く)

項目400～499：プリロールに関する項目（続き）

項目番号	項目名	設定
405	CUEUP BY CTL	キューアップ時のテープ走行モードを選択する。ファンクションメニューのCTL/TCをCTLに設定した場合にのみ有効。 CAP.：キューアップ時、ピンチONの状態でテープ走行する（最大テープ速度10倍速）。 REEL：キューアップ時、ピンチOFFの状態でテープ走行する。キューアップ点に近づき速度が遅くなると、ピンチONになる。a) 編集精度を優先する場合は、CAPを選択してください。

a) 編集機(BVE-2000/9100など)からコントロールする場合は、REELに設定すると高速でキューアップします。

項目500～599：テープ保護に関する項目

項目番号	項目名	設定
501	STILL TIMER	ビデオヘッドおよびテープの保護のため、テープ停止モード（STOPモードまたはサーチモードの静止画モード）で一定の時間が経過すると、本機は自動的にテープ保護モードに移る。本項目では、テープ停止モードになってからテープ保護モードに移るまでの時間を設定する。 0.5S～8M～30M：0.5秒から30分までの範囲内で設定可能。
502	TAPE PROTECTION MODE FROM SEARCH	サーチ（ジョグ/シャトル）モードの静止画状態からテープ保護モードに移る場合の、テープ保護モードの種類を選択する。 STEP：2秒間隔で、順方向へ1/30倍速のステップ送りを繰り返し行う。 STDBY：スタンバイOFFモード（スタンバイが解除された状態）。 T.REL：テンションリリースモード（テープテンションがゆるくなった状態）。
503	TAPE PROTECTION MODE FROM STOP	STOPモードからテープ保護モードに移る場合の、テープ保護モードの種類を選択する。 STDBY：スタンバイOFFモード（スタンバイが解除された状態）。 T.REL：テンションリリースモード（テープテンションがゆるくなった状態）。 STEP：2秒間隔で、順方向へ1/30倍速のステップ送りを繰り返し行う。
504	DRUM ROTATION IN STANDBY OFF	スタンバイOFFモード時にドラムを回転させるかどうかを選択する。 OFF：回転させない。 ON：回転させる。
505	STILL TENSION	静止画時のテープテンションの状態を設定する。 NORML：静止画中も再生に支障のないテープテンションを維持する。 LOOSE：静止画中は、テープテンションをNORMLに設定したときよりさらに低くする。(LMSなど長時間静止画状態で待機する場合には、LOOSEに設定することをおすすめします。） **ご注意** LOOSEに設定した場合、テープテンションが低くなっているときの再生画は保証されません。

項目600～650：タイムコードジェネレーターに関する項目

項目番号	項目名	設定
601	VITC POSITION SEL-1 （24PsF、23.98PsF モード時は無効。）	**59.94i、29.97PsFモードの場合** VITC信号を何ラインに挿入するかを選択する。(SD出力) 12H～[16H]～20H：12ラインから20ラインのいずれかを選択可能。 **ご注意** VITC信号は2か所に挿入することができます。2か所に挿入するときは、メニュー項目601と602をそれぞれ設定してください。
		50i、25PsFモードの場合 VITC信号を何ラインに挿入するかを選択する。(SD出力) 9H～[19H]～22H：9ラインから22ラインのいずれかを選択可能。 **ご注意** VITC信号は2か所に挿入することができます。2か所に挿入するときは、メニュー項目601と602をそれぞれ設定してください。
602	VITC POSITION SEL-2 （24PsF、23.98PsF モード時は無効。）	**59.94i、29.97PsFモードの場合** VITC信号を何ラインに挿入するかを選択する。(SD出力) 12H～[18H]～20H：12ラインから20ラインのいずれかを選択可能。 **ご注意** VITC信号は2か所に挿入することができます。2か所に挿入するときは、メニュー項目601と602をそれぞれ設定してください。
		50i、25PsFモードの場合 VITC信号を何ラインに挿入するかを選択する。(SD出力) 9H～[21H]～22H：9ラインから22ラインのいずれかを選択可能。 **ご注意** VITC信号は2か所に挿入することができます。2か所に挿入するときは、メニュー項目601と602をそれぞれ設定してください。
606	TC OUTPUT SIGNAL IN REGEN MODE	標準速 (1倍速)再生中にTIME CODE OUT端子から出力される信号を選択する。 [TAPE]：テープ再生時は、再生タイムコード信号をリジェネレートせずそのまま出力する。 REGEN：再生タイムコード信号をリジェネレートして出力する。
617	LTC OUTPUT PHASE	タイムコード信号（LTC）の出力位相を設定する。 [TCG/R]：再生時には再生タイムコード信号を出力する。 EDIT PRESET ON時には内蔵タイムコードジェネレーターの発生するタイムコード信号を出力する。 INPUT：入力ビデオと同位相になる。 OUTPT：出力ビデオと同位相になる。 AUTO：編集時は入力ビデオと同位相、それ以外のとき（再生時など）は、出力ビデオと同位相になる。
618	UPCONV EMBEDDED VITC (24PsF、23.98PsF モード時は無効。)	SDテープ再生時、アップコンバートして出力されるHD-SDIエンベディッドVITCのソースを選択する。 [VITC]：SDテープ再生のVITCを選択 LTC：SDテープ再生のLTCを選択
620	TC CONVERT 24F -> 25F (50i、25PsF モードのみ。有効ライン720Pでの動作時は表示されない。)	24PsF、23.98PsF モードで記録されたテープの再生時、タイムコードを25Fに変換するかを選択する。 [OFF]：タイムコード変換を行わない ON：タイムコード変換を行う
	TC CONVERT 25F -> 24F (24PsF、23.98PsF モードのみ。有効ライン 720Pでの動作時は表示されない。)	50i、25PsF モードで記録されたテープの再生時、タイムコードを24Fに変換するかを選択する。 [OFF]：タイムコード変換を行わない ON：タイムコード変換を行う

(続く)

項目600～650：タイムコードジェネレーターに関する項目（続き）

項目番号	項目名	設定
621	24F STARTING TC SEL (50i、25PsFモードのみ。有効ライン720Pでの動作時は表示されない。)	24Fから25Fへタイムコード変換を行うときに24Fのスターティング TCを設定をする。 OFF：設定しない ON：設定する **24Fスターティング TCを設定するには** メニュー表示部に本項目を表示してF5 (SET)ボタンを押すと、スターティング TC設定モードに入ります。F1 (PREV)/F2 (NEXT)ボタンを押して設定する桁を選択します。すべての桁を選択してから再度F5 (SET)ボタンを押します。スターティング TCが保存され、スターティング TC設定モードが解除されます。
	25F STARTING TC SEL (24PsF、23.98PsFモードのみ。有効ライン720Pでの動作時は表示されない。)	25Fから24Fへタイムコード変換を行うときに25Fのスターティング TCを設定する。 OFF：設定しない ON：設定する **25Fスターティング TCを設定するには** メニュー表示部に本項目を表示してF5 (SET)ボタンを押すと、スターティング TC設定モードに入ります。F1 (PREV)/F2 (NEXT)ボタンを押して設定する桁を選択します。すべての桁を選択してから再度F5 (SET)ボタンを押します。スターティング TCが保存され、スターティング TC設定モードが解除されます。
622	24F JUMPING TC SEL (50i、25PsFモードのみ。有効ライン720Pでの動作時は表示されない。)	24F から25Fタイムコードに変換するときに24Fのジャンピング TCを設定する。 −3H：JUMPING TCを (STARTING TC −3H)に設定する −2H：JUMPING TCを (STARTING TC −2H)に設定する −1H：JUMPING TCを (STARTING TC −1H)に設定する ＋1H：JUMPING TCを (STARTING TC ＋1H)に設定する ＋2H：JUMPING TCを (STARTING TC ＋2H)に設定する ＋3H：JUMPING TCを (STARTING TC ＋3H)に設定する 0H：JUMPING TCを (STARTING TC)に設定する
	25F JUMPING TC SEL (24PsF、23.98PsFモードのみ。有効ライン720Pでの動作時は表示されない。)	25Fから24Fタイムコードに変換するときに25Fのジャンピング TC設定する。 −3H：JUMPING TCを (STARTING TC −3H)に設定する −2H：JUMPING TCを (STARTING TC −2H)に設定する −1H：JUMPING TCを (STARTING TC −1H)に設定する ＋1H：JUMPING TCを (STARTING TC ＋1H)に設定する ＋2H：JUMPING TCを (STARTING TC ＋2H)に設定する ＋3H：JUMPING TCを (STARTING TC ＋3H)に設定する 0H：JUMPING TCを (STARTING TC)に設定する

項目651～699：UMIDに関する項目

項目番号	項目名	設定
651	UMID OUTPUT	UMIDのデータ出力を選択する。 off：UMIDを出力しない。 BASIC：Basic UMIDを出力する。 EXTND：Extended UMIDを出力する。 **ご注意** • 「EXTND」に設定した場合でも、Basic UMIDが記録されているテープを再生すると、出力はBasic UMIDとなります。 • 有効ライン720Pでの動作時、UMIDは出力されません。

項目700～799：ビデオコントロールに関する項目

項目番号	項目名		設定
703	BLANK LINE SELECT （24PsF、23.98PsFモード時は無効。）		SDビデオ信号の垂直ブランキング期間の、ブランキングのON/OFFを選択する。 ラインごとに独立して選択でき、Y/C信号、奇数/偶数フィールド同時にブランキングされる。
	サブ項目		
	0	ALL LINE	- - -：各ラインのブランキングをラインごとに指定する。 BLANK：他のサブ項目の設定に関係なく、このメニューで指定できる全ラインがブランキングされる。 THROU：他のサブ項目の設定に関係なく、このメニューで指定できる全ラインについてブランキングを行わない。
59.94i、29.97PsFモードの場合	12 ┆ 20	LINE 12 ┆ LINE 20	ライン12～20について設定する。 BLANK：ブランキングを行う。 THROU：ブランキングを行わない。
	21	LINE 21	ライン21について設定する。 BLANK：ブランキングを行う。 HALF：ハーフブランキングを行う。 THROU：ブランキングを行わない。
50i、25PsFモードの場合	9 ┆ 22	LINE 9 ┆ LINE 22	ライン9～22について設定する。 BLANK：ブランキングを行う。 THROU：ブランキングを行わない。
	23	LINE 23	ライン23について設定する。 HALF：ハーフブランキングを行う。 THROU：ブランキングを行わない。
705	EDGE SUBCARRIER REDUCER MODE （24PsF、23.98PsFモード時は無効。）		コンポジット信号の再生時は、再生回路でエッジサブキャリアリダクション(ESR)がVTR動作に応じて自動的にON/OFFされる。Non-Standard信号を記録する場合など、正規の信号に比べてカラーエッジの状態がよくないときは、ESRを強制的にONにすることができる。この項目ではその動作方法を選択する。 AUTO：自動的に動作させる。 ON：強制的にESRを動作させる。
707	FORCED VERTICAL INTERPOLATION OFF		Y add動作[a]は、通常ジョグまたはバリアブル再生時に自動的にONになる。本項目では、Y add動作を強制的にOFFにするかどうかを選択する。 AUTO：自動的にY add動作をONにする。 OFF：強制的にY add動作をOFFにする。
709	CAV LEVEL FORMAT （59.94i、29.97PsFモード時のみ有効。）		アナログコンポーネント出力フォーマットを、D-1にするかベータカムにするかを選択する 。
	サブ項目		
	0	OUTPUT CAV LEVEL	アナログコンポーネント出力フォーマットを選択する。 B-CAM：ベータカム D1：D-1
710	INTERNAL VIDEO SIGNAL GENZERATOR		内部テスト信号発生器から出力するテスト信号を選択する。 OFF：テスト信号を出力しない。 CB：カラーバー信号 MLTBS：マルチバースト信号 10STP：10ステップ信号 PLSBR：パルスアンドバー信号 RAMP：ランプ信号 BLACK：ブラック信号

フォーマット	カラーバー	Y video	Y sync	R-Y/B-Y
D-1 CAV	100/0/100/0	700mV	300mV	700mV
ベータカム	100/7.5/77/7.5	714mV	286mV	700mV

a) ジョグまたはバリアブル再生時にビデオ信号の垂直インターポレーションを行ない、再生画像の上下動を軽減します。

(続く)

項目700～799：ビデオコントロールに関する項目(続き)

項目番号	項目名		設定
712	VIDEO PROCESS ON CAP LOCK 2FIELD （24PsF、23.98PsF モード時は無効。）		ファンクションメニューの CAPSTN またはセットアップメニュー項目 106 を 2F に設定して 2 フィールド再生するときに、ピクチャーシフトを行うかどうかを選択する。 OFF：ピクチャーシフトしない。 ON：ピクチャーシフトする。 **ご注意** Y/C 分離により発生する Y 信号中の残留クロマサブキャリア信号の影響をなくすため、本機では、自動的に再生画を H 方向にシフトして、2 フィールド再生の場合でも良好な画像を得ることができます。
713	VIDEO SETUP REFERENCE LEVEL (59.94i、29.97PsF モード時のみ有効。)		ベータカム再生信号から取り除かれるビデオセットアップ量、およびコンポジット出力信号に加えられるビデオセットアップ量を設定する。ベータカム再生信号、コンポジット出力信号（以下出力信号と記す）についてそれぞれ独立して設定できる。 **ご注意** 本項目で設定したセットアップレベルは、ファンクションメニュー 2 ページの F5 (SETUP/BLACK) と関係ありません。
	サブ項目		
	0	MASTER LEVEL	ベータカム再生信号および出力信号をマスター(MSTER)に設定した場合、この項目で選択したセットアップ量がベータカム再生信号から取り除かれ、出力信号に同じ量が付加される。 0.0%～7.5%～10.0%：この範囲内で 0.5% 単位で設定可能。
	1	BETACAM PB LEVEL （HDW- M2100 のみ）	MSTER：ベータカム再生信号をマスターに設定する。 0.0%～7.5%～10.0%：ベータカム再生信号から取り除くセットアップ量を、この範囲内で 0.5% 単位で設定可能。
	2	OUTPUT LEVEL	MSTER：出力信号をマスターに設定する。 0.0%～7.5%～10.0%：出力信号に付加するセットアップ量を、この範囲内で 0.5% 単位で設定可能。

項目700～799：ビデオコントロールに関する項目(続き)

(項目715～720：SDビデオプロセス系をメニューの設定に従ってコントロールするための設定)

項目番号	項目名	設定
715	VIDEO GAIN CONTROL	映像出力レベルを調節する。 0～800H～B50H **ご注意** この項目はHD/SD両出力に有効です。
716	CHROMA GAIN CONTROL	クロマ出力レベルを調節する。 0～800H～B50H **ご注意** この項目はHD/SD両出力に有効です。x
717	CHROMA PHASE CONTROL	HD/SDクロマ位相を調節する。 0～80H～FFH **ご注意** この項目はHD/SD両出力に有効です。
718	SETUP LEVEL（59.94i、29.97PsFモード時）/BLACK LEVEL（50i、25PsFモード時）（24PsF、23.98PsFモード時は無効。）	SDセットアップレベル（ブラックレベル)を調整する。 0～110H～220H **ご注意** メニュー項目212 (VIDEO REMOTE CONTROL SELECT)のサブ項目（D2 SETUP)がblackの場合、HD/SD両出力に有効になります。
719	SYSTEM PHASE SYNC （24PsF、23.98PsFモード時は無効。）	SD出力信号のシンク位相を調節する。 0～80H～FFH
720	SYSTEM PHASE SC （24PsF、23.98PsFモード時は無効。）	SD出力信号のサブキャリア位相を調節する。 0～3FFH
721	Y/C DELAY （24PsF、23.98PsFモード時は無効。）	アナログベータカムカセット再生時のY/C遅延量を調節する。 0～800H～FFFH

(続く)

ご注意

- メニュー項目715～718および740～747の設定を有効にするときは、ファンクションメニューのV.PROCをMENUに設定してください。
  MENUに設定すると、ファンクションメニュー上のビデオ出力用コントロールは機能しなくなります。
- メニュー項目337がSDの場合、メニュー項目719、720の設定を変更すると、SDだけでなくHD出力信号の位相も同時に変化します。
  設定を変更したときはファンクションメニュー3ページの項目F1（SYNC）、F2（SC）またはメニュー項目745、746でHD出力信号の位相を再調整してください。

項目700～799：ビデオコントロールに関する項目(続き)

項目番号	項目名	設定
726	H BLANKING WIDTH （24PsF、23.98PsFモード時は無効。）	ビデオ出力信号の水平ブランキング幅を選択する。 [NAROW]： デジタルブランキング (狭い) WIDE： アナログブランキング (広い) アナログブランキングが選択されたときは、RS170Aに準拠した水平ブランキング幅になり、通常、ブランキングが広く、映像が狭くなります。編集段階では、NARROWを選択しておき、送出等、最後にWIDEを選択して、規格に合った信号を出力する方法をおすすめします。
728	OUTPUT SCH PHASE （24PsF、23.98PsFモード時は無効。）	サブキャリアH位相をコントロールする。 0～[800H]～ FFFH
732	COMPOSITE MODE （24PsF、23.98PsFモード時は無効。）	コンポジットビデオ信号を、どちらのクロマフィルターを通して出力するかを選択する。 [WIDE]: SMPTE WIDEを通して出力する。 STD : SMPTE STANDARD（Narrow）を通して出力する。
740	MASTER LEVEL (HD)	HDSDI OUTPUT端子に出力されるHDビデオ信号のレベルを調整する。 Y、P_B、P_Rレベルを同時に調整します。 0.0% (0H)～ [100% (800H)] ～141.3% (B4EH)
741	Y LEVEL (HD)	HDSDI OUTPUT端子に出力されるHDビデオ信号のレベルを調整する。 ビデオ信号のYレベルを調整します。 0.0% (0H)～ [100% (800H)] ～141.3% (B4EH)
742	P_B LEVEL (HD)	HDSDI OUTPUT端子に出力されるHDビデオ信号のレベルを調整する。 ビデオ信号のP_Bレベルを調整します。 0.0% (0H)～ [100% (800H)] ～141.3% (B4EH)
743	P_R LEVEL (HD)	HDSDI OUTPUT端子に出力されるHDビデオ信号のレベルを調整する。 ビデオ信号のP_Rレベルを調整します。 0.0% (0H)～ [100% (800H)] ～141.3% (B4EH)
745	SETUP LEVEL (HD)	HDSDI OUTPUT端子に出力されるHDビデオ信号のレベルを調整する。 ビデオ信号のセットアップレベルを調整します。 0～ [110H] ～220H
746	SYNC PHASE (HD)	HDSDI OUTPUT端子に出力されるHDビデオ信号のHシンク位相をメニューに従って制御する。 0～ [80H] ～FFH
747	FINE (HD)	HDSDI OUTPUT端子に出力されるHDビデオ信号のHシンク位相をメニューに従って微細に制御する。 [0]～3FFH

項目800～899：オーディオコントロールに関する項目

項目番号	項目名	設定
801	DIGITAL JOG SOUND	デジタルジョグサウンドのON/OFFを設定する。 OFF：デジタルジョグサウンドをオフにする。 スピード補正処理を受けていないデジタルチャンネルの音声が出力されます。テープが静止した時は、1秒後に音声がミュートされます。 ON：デジタルジョグサウンドをオンにする。 テープスピード－1～＋1倍速 (ベータカムSX再生時は、－1～＋2倍速)の範囲で、スピード補正処理を行い、従来のアナログVTRと同様なジョグサウンドを出力します。
802	DIGITAL AUDIO MUTING IN SHUTTLE MODE	シャトル再生時における、デジタルオーディオのミュート条件を設定する。 OFF：ミュートしない。 CUEUP：キューアップまたはプリロール時にミュートする。 FULL：シャトルモード時はミュートする。
805	AUDIO MONITOR OUTPUT MIXING	MONITOR OUTPUT端子から出力される、デジタルオーディオ信号またはベータカム再生のアナログオーディオ信号のミキシング方法を設定する。 ADD：単純加算 RMS：相乗平均 AVE：単純平均
806	LEVEL METER SCALE	デジタルオーディオレベルを表示するモードを設定する。 PEAK0：最大レベルを0dBとし、オーディオレベルをマイナス表示する。 REF.0：基準レベルを0dBとし、オーディオレベルをプラス・マイナス表示する。
807	AUDIO OUTPUT PHASE	デジタルオーディオ再生信号(HDSDI、SDI、AES/EBUのみ）の出力タイミングを設定する。80Hを基準位置として、設定値が80Hより小さいと出力タイミングは早まり、80Hより大きいと出力タイミングは遅れる。(80Hのとき128 samples=約2.7ms、1 sample=約20μs) 0～80～FF：この範囲内で設定可能。
808	INTERNAL AUDIO SIGNAL GENERATOR	内蔵のオーディオテスト信号発生器の動作を選択する。 OFF：動作させない。 SILNC：無音信号 1kHz：全オーディオ出力チャンネルに、1kHzで－20dB FSの正弦波が供給される。
809	AUDIO LEVEL METER DIMMER CONTROL	オーディオレベルメーターの明るさを設定する。 0～7：この範囲で設定可能。0が最も明るく、7が最も暗くなる。
823	NON-AUDIO FLAG PB（HDW- M2100のみ。24PsF、23.98PsFモード時は無効。）	再生フォーマットがデジタルベータカム、ベータカムSXのときのノンオーディオフラグを制御する。
	サブ項目	
	1 CH1/CH2	再生時(E-Eモードを除く)、デジタルオーディオ出力のノンオーディオフラグを以下の状態にする。 OFF：OFFにする(データはオーディオ) ON：ONにする(データはノンオーディオ) AUTO：以下の状態に従う。 • テープからの情報が読み出されて確定しているとき：その情報に従い、ONまたはOFFとなる。 • テープからの情報が確定していないとき：それまでの状態を保持する。 **ご注意** • ベータカムSXフォーマットでは常にオーディオ信号としてテープに記録されるため、ノンオーディオフラグはOFFとなります。 • アナログテープ再生中は本項目の設定に関係なく、ノンオーディオフラグはOFFとなります。 • MPEG IMXフォーマットでは、記録、再生またはE-Eモード時、ノンオーディオフラグはメンテナンスメニュー項目M372の設定に従います。 ◆ メンテナンスメニュー項目M372の内容について、詳しくはメンテナンスマニュアルをご覧ください。
	2 CH3/CH4	

(続く)

項目800～899：オーディオコントロールに関する項目（続き）

項目番号	項目名		設定
824	ANALOG LINE OUTPUT SELECT（HDW- M2100のみ）		オーディオ出力チャンネル1～4に割り当てるアナログオーディオ信号(トラック1～8)を選択する。
	サブ項目		
	1	CH1/CH2	[tr1/2]：トラック1、2をオーディオ出力チャンネル1、2に割り当てる。 tr3/4：トラック3、4をオーディオ出力チャンネル1、2に割り当てる。 tr5/6：トラック5、6をオーディオ出力チャンネル1、2に割り当てる。 tr7/8：トラック7、8をオーディオ出力チャンネル1、2に割り当てる。
	2	CH3/CH4	tr1/2：トラック1、2をオーディオ出力チャンネル3、4に割り当てる。 [tr3/4]：トラック3、4をオーディオ出力チャンネル3、4に割り当てる。 tr5/6：トラック5、6をオーディオ出力チャンネル3、4に割り当てる。 tr7/8：トラック7、8をオーディオ出力チャンネル3、4に割り当てる。
825	AUDIO ADVANCE MODE		オーディオの出力位相の設定を行う。 [OFF]：ビデオと同じ位相で出力する。 ON：ビデオに対して1フレーム先行して出力する。
826	AUDIO PB VOLUME SELECT		デジタルオーディオチャンネルの再生コントロールにどの再生音声レベル調整つまみを割り当てるかを設定する。 CH5～CH8は、HDW-M2100のみ有効。
	サブ項目		
	0	ALL CH	[DEFAULT]：下記の設定にする。 CH1：調整つまみ1 CH2：調整つまみ2 CH3：調整つまみ3 CH4：調整つまみ4 CH5：UNITY CH6：UNITY CH7：UNITY CH8：UNITY UNITY：すべてのチャンネルをUNITYに設定し、再生音声レベル調整つまみを無効にする。 MENU：以下のメニュー設定に従う。
	1	CH1	UNITY：再生レベルをUNITYに設定する。 vol 1：再生レベルのコントロールを調整つまみ1に割り当てる。 vol 2：再生レベルのコントロールを調整つまみ2に割り当てる。 vol 3：再生レベルのコントロールを調整つまみ3に割り当てる。 vol 4：再生レベルのコントロールを調整つまみ4に割り当てる。
	2	CH2	
	3	CH3	
	4	CH4	
	5	CH5	
	6	CH6	
	7	CH7	
	8	CH8	

項目900～999：デジタルプロセスに関する項目

項目番号	項目名	設定
901	VIDEO OUTPUT DATA (24PsF、23.98PsF モード時は無効。)	SDビデオ出力データのビット長を選択する。 8bit：データ長は8ビットとなる。 10bit：データ長は10ビットとなる。 接続する機器に合わせた設定を推奨します。
903	FREEZE MODE	画像フリーズ時のフリーズモードとフリーズタイミングを設定する。 FIELD：フィールドモードでフリーズする。フリーズタイミングにより、偶数フィールドまたは奇数フィールドになる。 FLD1：奇数フィールドをフリーズする。 FLD2：偶数フィールドをフリーズする。 FRM12：奇数フィールドとそれに続く偶数フィールドをフリーズする。 FRM21：偶数フィールドとそれに続く奇数フィールドをフリーズする。 奇数フィールドと偶数フィールドは、基準ビデオ信号によって区別される。 フリーズ実行中にこのメニューを変更しても静止画は変化しない。次にフリーズしたときにこの設定が反映される。 画像をフリーズするにはDELETEボタンとTRIM＋ボタンを使用します。 ◆ 詳しくはメニュー項目904の説明をご覧ください。
904	FREEZE CONTROL FROM KEY PANEL	画像フリーズ操作に使用するボタンの機能を選択する。 MOMNT：DELETEボタンを押したままTRIM＋ボタンを押すと画像がフリーズし、ボタンを離すとフリーズが解除される。 LATCH：DELETEボタンを押したままTRIM＋ボタンを押すと画像がフリーズし、ボタンを離してもフリーズが継続する。 • フリーズ画像を更新するには 再びDELETEボタンを押したままTRIM＋ボタンを押す。 • フリーズを解除するには DELETEボタンを押したままTRIM－ボタンを押す。
905	AUTO FREEZE CONTROL	オートフリーズ機能の動作（フリーズ解除の条件など）を設定する。 DT再生（VAR、JOG、PLAY、SHTL）において、チャンネルコンディションの急激な悪化(無記録部分への突入)を検出して、フリーズする機能。 DIS：オートフリーズは機能しない。 MODE1：正常に再生できる状態に復帰したときに自動解除する。 MODE2：STOP後に再生したとき、自動解除する。 • オートフリーズ時のモードは、メニュー項目903で設定する。 • 本機が下記のいずれかのモードに移行したときは、上記の解除条件にかかわらず、即時フリーズを解除する。 エディットプリセットオン キューアップ
906	STOP FREEZE CONTROL	STOP FREEZEを機能させるかどうかを選択する。 DIS：機能させない。 ENA：機能させる。 stby：スタンバイモードのときのみ機能させる。
916	ACTIVE LINE 1035 CONVERT MODE （59.94i、29.97PsF モード時のみ有効。）	有効走査線数の変換モードを選択する。 conv：有効走査線数を1080から1035へ、アスペクト比を維持したまま変換する。 crop：有効走査線数を1080から1035へ変換します。上下左右をカットしてから、左右を引き延ばす。 **ご注意** 本項目は、メニュー項目018の設定が「1035」のときのみ有効です。

(続く)

項目900～999：デジタルプロセスに関する項目（続き）

項目番号	項目名	設定
917	ACTIVE LINE 1080 CONVERT MODE （59.94i、29.97PsFモード時のみ有効。）	有効走査線数の変換モードを選択する。 conv：有効走査線数を1035から1080へ、アスペクト比を維持したまま変換する。 panel：有効走査線数を1035から1080へ変換します。1035ラインを1080ラインにはめ込んでから、左右を縮める。 **ご注意** 本項目は、59.94i、29.97PsFモードでメニュー項目018の設定が「1080」のときのみ有効です。
918	SLOW PROCESS MODE	スロー再生時の垂直解像度を上げる機能を持つフィルターのON/OFFを設定する。 ON：スロー再生時、フィルターをかけて、垂直解像度を上げる。 OFF：スロー再生時、フィルターをかけない。 **ご注意** 本項目は、PsFモードで記録されたHDCAMテープでは無効になります。
920	SD-SDI H-ANC CONTROL （24PsF、23.98PsFモード時は無効。）	SD出力に付加する情報のON/OFFを設定する。
	サブ項目	
	1 AUDIO 5CH-8CH	ON：デジタルオーディオデータCH5～CH8を付加する。 OFF：デジタルオーディオデータCH5～CH8を付加しない。
	2 RP188 ATC	ON：RP188タイムコードデータを付加する。 OFF：RP188タイムコードデータを付加しない。
921	ASPECT FLAG （59.94i、29.97PsFモード時のみ有効。）	HDCAMテープ再生時に、ダウンコンバートしたSD出力に対して、ARIB TR-B17で規定される16:9/Squeeze識別信号を付加する。またSDテープ再生時には、テープ上の16:9/Squeeze識別信号の検出およびアップコンバーターモードの切り替えを設定する。 ON: HDからSqueezeモードでダウンコンバートしたSD出力に対して、16:9/Squeeze識別信号を付加する。 またSDテープ再生時には、テープ上の識別信号を検出して、アップコンバーターモードを自動で切り替える。SDテープ上の16:9/Squeeze識別信号を検出しなかった場合、アップコンバーターモードはメニュー項目950に従う。 OFF: HDからダウンコンバートしたSD出力に16:9/Squeeze識別信号を付加しない。 またSDテープ再生時には、テープ上の識別信号の有無に関わらず、アップコンバーターモードは、メニュー項目950に従う。 **ご注意** HDW-A2100はシリアルナンバー32001より有効です。
930	DOWN CONVERTER MODE （24PsF、23.98PsFモード時は無効。）	ダウンコンバート時のモードを選択する。 crop：エッジクロップモードを選択する。 l-box：レターボックスモードを選択する。 squez：スクイーズモードを選択する。
931	DOWN CONVERTER LETTER BOX MODE （24PsF、23.98PsFモード時は無効。）	メニュー項目930で「l-box」が選択されているとき、ダウンコンバート出力のアスペクト比を選択する。 16:9: HD-SDコンバーター出力のアスペクト比を16:9にする。 14:9：HD-SDコンバーター出力のアスペクト比を14:9にする。 13:9：HD-SDコンバーター出力のアスペクト比を13:9にする。
932	H CROP POSITION（DC） （24PsF、23.98PsFモード時は無効。）	メニュー項目930で「crop」が選択されているとき、ダウンコンバート出力のHクロップ（エッジクロップモードで抜き出す部分の水平方向）の調整を行う。 －120～0～120

（続く）

項目900～999：デジタルプロセスに関する項目(続き)

項目番号	項目名	設定
934	CROSS COLOR（DC） (24PsF、23.98PsFモード時は無効。)	ダウンコンバーターのクロスカラーの調整を行う。 0～[8]～15
935	DETAIL GAIN（DC） (24PsF、23.98PsFモード時は無効。)	ダウンコンバーターのイメージエンハンサーの調整を行う。輪郭強調の鮮鋭度を調整する。 0～[20H]～7FH
936	LIMITER（DC） (24PsF、23.98PsFモード時は無効。)	ダウンコンバーターのイメージエンハンサーの調整を行う。 元信号を強調するために加算されるディテール最大レベルを調整する。 0～[20H]～3FH
937	CRISP THRESHOLD（DC） (24PsF、23.98PsFモード時は無効。)	ダウンコンバーターのイメージエンハンサーの調整を行う。小振幅信号の強調しない振幅値を設定する。 [0]～FH
938	LEVEL DEPEND THRESHOLD（DC） (24PsF、23.98PsFモード時は無効。)	ダウンコンバーターのイメージエンハンサーの調整を行う。輪郭強調の明度範囲を設定する。 0～[8]～FH
939	H DETAIL FREQUENCY（DC） (24PsF、23.98PsFモード時は無効。)	ダウンコンバーターのイメージエンハンサーの調整を行う。輪郭強調する中心周波数を設定する。 2.6MHz～3.4MHz～[3.9MHz]～4.6MHz
940	H/V RATIO（DC） (24PsF、23.98PsFモード時は無効。)	ダウンコンバーターのイメージエンハンサーの調整を行う。輪郭強調度の縦横方向比を設定する。 0～[3]～7
941	GAMMA LEVEL（DC） (24PsF、23.98PsFモード時は無効。)	ダウンコンバーターのイメージエンハンサーの調整を行う。補正カーブの傾きの調整を行う。 0～[80H]～100H
942	V FILTER SELECT (24PsF、23.98PsFモード時は無効。)	ダウンコンバーター出力の垂直補間フィルター係数を設定する。 設定値が大きいほど垂直解像度が高くなる。 [1]～3
943	CROSS COLOR CRISP (24PsF、23.98PsFモード時は無効。)	ダウンコンバーター出力のクロスカラーのクリスプレベルを設定する。 0x00～[0x04]～0x0f
950	UP CONVERTER MODE (24PsF、23.98PsFモード時は無効。)	アップコンバート時のモードを選択する。 [crop]：エッジクロップモードを選択する。 l-box：レターボックスモードを選択する。 squez：スクイーズモードを選択する。
951	H CROP POSITION（UC） (24PsF、23.98PsFモード時は無効。)	メニュー項目950で「crop」が選択されているとき、アップコンバート出力のHクロップ（エッジクロップモードで挿入する画枠の水平方向）の調整を行う。 －120～[0]～120
952	UP LETTER BOX POSITION (24PsF、23.98PsFモード時は無効。)	メニュー項目950で「l-box」が選択されているとき、アップコンバート出力時のレターボックスモードで抜き出す位置の垂直方向の調整を行う。 －120～[0]～120
953	UP CONVERTER PROCESS SELECT (24PsF、23.98PsFモード時は無効。)	SDをHDに変換するときに使用する元画面を選択する。 FIELD：Field画面を使用する。 FRAME：Frame画面を使用する。 [adapt] (**標準モード**)：アップコンバート時に、FrameまたはFieldから変換する割合を標準に設定したモード。 adap2 (**静止優先モード**)：アップコンバート時に、Frameから変換する割合を高く設定したモード。 adap3 (**動き優先モード**)：アップコンバート時に、Fieldから変換する割合を高く設定したモード。

(続く)

項目900～999：デジタルプロセスに関する項目(続き)

項目番号	項目名	設定
954	DETAIL GAIN（UC） (24PsF、23.98PsFモード時は無効。)	アップコンバーターのイメージエンハンサーの調整を行う。輪郭強調の鮮鋭度を調整する。 0～[40H]～7FH
955	LIMITER（UC） (24PsF、23.98PsFモード時は無効。)	アップコンバーターのイメージエンハンサーの調整を行う。 元信号を強調するために加算されるディテール最大レベルを調整する。 0～[20H]～3FH
956	CRISP THRESHOLD（UC） (24PsF、23.98PsFモード時は無効。)	アップコンバーターのイメージエンハンサーの調整を行う。小振幅信号の強調しない振幅値を設定する。 0～[8H]～FH
957	LEVEL DEPEND THRESHOLD（UC） (24PsF、23.98PsFモード時は無効。)	アップコンバーターのイメージエンハンサーの調整を行う。輪郭強調の明度範囲を設定する。 0～[8]～FH
958	H DETAIL FREQUENCY（UC） (24PsF、23.98PsFモード時は無効。)	アップコンバーターのイメージエンハンサーの調整を行う。輪郭強調する中心周波数および周波数特性を設定する。 3.2MHz：3.2MHz±1.1MHz 4.5MHz：4.5MHz±1.4MHz [5.0MHz]：5.0MHz±0.7MHz 4.0MHz：4.0MHz±2.0MHz
959	H/V RATIO（UC） (24PsF、23.98PsFモード時は無効。)	アップコンバーターのイメージエンハンサーの調整を行う。輪郭強調度の縦横方向比を設定する。 0～[3]～7
960	GAMMA LEVEL（UC） (24PsF、23.98PsFモード時は無効。)	アップコンバーターのイメージエンハンサーの調整を行う。補正カーブの傾きの調整を行う。 0～[80H]～100H
961	BACKGROUND COLOR (UC) (24PsF、23.98PsFモード時は無効。)	アップコンバート出力時の素材の無い部分 (バックグラウンド)の色味の設定を行う。 BACKGROUND COLOR：色味の設定を行う。 [BLACK]：黒 GRAY：グレー BLUE：青 TABLE：以下のY/P_B/P_Rのテーブルで設定する。 Y TABLE：バックグラウンドのYレベルを調整する。 [0(H)]～ ff(H) B-Y TABLE：バックグラウンドのB–Yレベルを調整する。 0(H)～ [80(H)] ～ff(H) R-Y TABLE：バックグラウンドのR–Yレベルを調整する。 0(H)～ [80(H)] ～ff(H)

11-1 テープスラック時のカセットの取り出しかた

本機内部でテープスラックが発生した場合は、上ぶたと遮音板を取り外して作業する必要があります。この作業は必ずサービストレーニングを受けた技術者が行ってください。

◆ 詳しくはインストレーションマニュアルの1-17項をご覧ください。

11-2 ヘッドクリーニング

ビデオヘッドやオーディオヘッドをクリーニングするときは、必ず専用のクリーニングカセットテープBCT-HD12CLをお使いください。クリーニングカセットテープを挿入すると、自動的に10秒間走行した後、排出されます。
使用方法を誤るとヘッドを傷めることがありますので、クリーニングカセットの取扱説明書をよくお読みになってから、お使いください。

ご注意

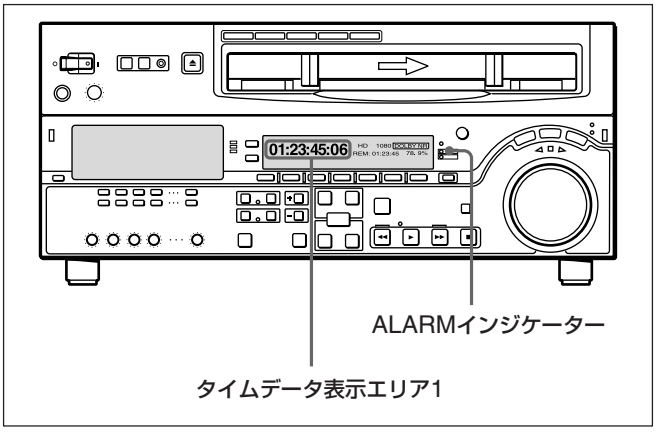
クリーニングカセットテープBCT-5CLNは使用できません。

11-3 エラーメッセージ

本機は自己診断機能を備えており、異常を検出すると、タイムデータ表示部および外部モニターにエラーメッセージを表示します。エラーメッセージが表示されたときは、ソニーのサービス担当者にご連絡ください。

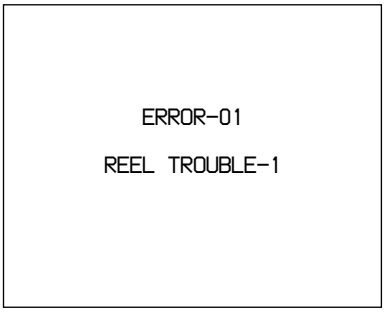
タイムデータ表示部での表示

本機の異常が検出されると、下部コントロールパネルのALARMインジケーターが点灯し、タイムデータ表示エリア1にエラーメッセージとエラーコードが表示されます。



外部モニターでの表示

エラーコードとエラーメッセージは、COMPOSITE VIDEO OUTPUT 3(SUPER)端子、SDI OUTPUT 3(SUPER)端子またはHDSDI OUTPUT 3(SUPER)端子に接続された外部モニター上にもスーパーインポーズされます。エラーコードによっては、モニター上のサブエラーメッセージとして、エラーが発生した部位が表示されることもあります。



エラーメッセージの表示について

- エラーメッセージとエラーコードを外部モニターにスーパーインポーズするためには、ファンクションメニュー4ページのCHARAをONにする必要があります。
- エラーコードの付いていないエラーメッセージもあります。この場合はタイムデータ表示部全体に表示されます。
- エラーコード付きのエラーメッセージは、エラーログデータとして、NV-RAM (不揮発性メモリー)に記憶されます。
- 外部モニターにスーパーインポーズされるメッセージは、タイムデータ表示部に表示されるメッセージと異なる場合があります。

エラーメッセージ一覧

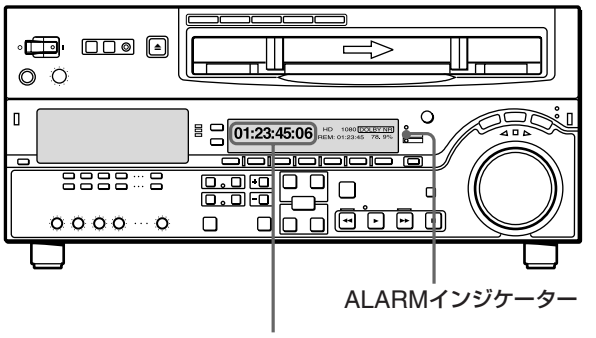
コード	メッセージ	内容
—	NO COMMUNICATION	下部コントロールパネル自身 (KY-464/465基板) が、SYS CPU (SS-89基板) との通信異常を検出
01	REEL TROUBLE	スレッディング、またはアンスレッディング時に、「テープたるみ」を検出
02	REEL TROUBLE	サーチ、早送り、または巻き戻し時に、「テープたるみ」または「テープ切れ」を検出
03	REEL TROUBLE	再生時に、「テープたるみ」、「テープ切れ」、あるいは「S側リール、またはT側リールのロック」を検出
04	REEL TROUBLE	巻き送り、または巻き戻し時に、テープ走行速度の異常を検出
05	REEL TROUBLE	カセット挿入時に、S側、またはT側リールの動作異常を検出
06	TAPE TENSION	再生時に、過大テンションを検出
07	CAPSTAN TROUBLE	キャプスタンモーターの動作異常を検出
08	DRUM TROUBLE	ドラムモーターの動作異常を検出
09	TH/UNTH MOTOR	スレッディング、またはアンスレッディング動作に異常を検出
0A	THREADING	スレッド時のテープトップ処理が終了しないことを検出
10	HUMID	結露を検出
11	TAPE T/E SENSOR	テープトップとテープエンドを同時に検出
12	TAPE TOP SENSOR	テープトップセンサの異常を検出
13	TAPE END SENSOR	テープエンドセンサの異常を検出
14	FAN MOTOR	冷却用ファンモーターの動作異常を検出
20	CASS COMP MOTOR	カセットコンパートメントのアップ、またはダウン動作に異常を検出
21	REEL SFT MOTOR	カセットサイズに応じたリール台の移動動作に異常を検出
22	REEL POS SENSOR	リール台のLカセット位置とSカセット位置を同時に検出
23	THRED RING SENS	スレッディングエンドとアンスレッディングエンドを同時に検出
92	INTERNAL I/F1	SYS CPU (SS-89基板) とその他のCPU/MPU間の通信異常を検出
93	CPU INITIALIZE ERROR	SV CPU (SS-89基板) と DRUM CPU (DR-414基板) 間の通信異常を検出
95	OTHERS NV-RAM ERROR	FP-119基板のNV-RAMの動作異常を検出
96	SY NV-RAM ERROR	システムコントロール系のNV-RAM (SS-89基板) の動作異常を検出
97	SV NV-RAM	サーボ系のNV-RAM(DR-414基板)の動作異常を検出
98	RF NV-RAM ERROR	RF系のNV-RAM (EQ-84基板) の動作異常を検出
99	INTERNAL I/F 2	SYS CPU (SS-89基板)とSERVO CPU (SS-89基板)MPU(EQ-84、DM-123、HIF-1、VPR-64、APR-52、DPR-195、DPR-155基板)間の通信異常を検出

11-4 結露

冷たい場所から急に暖かい場所に本機を移動させたり、湿度の高い部屋で本機を使用すると、VTR内部のヘッドドラムに水滴が生じることがあります。これを結露といいます。

結露の状態のときにテープを走行させると、ドラムにテープが貼り付き、テープを傷めてしまう恐れがあります。これを防ぐために、本機は結露検出機構を備えています。

使用中に、本機のヘッドドラムに結露が生じて、本機の結露検出機構がこれを検出すると、ALARM インジケーターが点灯し、タイムデータ表示エリア1に“ERR-10”の表示が出ます。



この状態では、保護回路が働いて、ドラムとキャプスタンモーターが停止し、カセットが自動的に排出された後、ドラムが乾燥のために再び回転します。このときは、どの操作ボタンを押しても本機は動作しません。結露がなくなると、ALARM インジケーターと“ERR-10”表示が消えます。

電源を入れた直後にALARMインジケーターと“ERR-10”表示が点灯したときは

電源を入れたまま、ALARMインジケーターとエラー表示が消えるまでお待ちください。インジケーターが点灯している間はカセットを入れることはできません。

ALARMインジケーターが消灯しエラー表示が消えれば、本機を使用できます。

本機を寒いところから暖かいところに移動させたときは

本機内部の結露検出機構が働くまでに多少時間がかかりますので、すぐに電源を入れずに、10分間くらい放置してください。

11-5 定期点検

11-5-1 デジタル時間計

デジタル時間計には7種類の表示モードがあり、それぞれのモードごとに、本機の動作の経過時間または回数を累積してタイムデータ表示部に表示します。この時間計を目安として、定期点検を行ってください。

デジタル時間計の表示モード

デジタル時間計には以下の7つの表示モードがあります。

H01:OPERATION (動作時間表示)モード

本機に電源が投入されている時間を累積して1時間単位で表示します。

H02:DRUM RUNNING (ヘッドドラム回転時間表示)モード

スレッディング完了状態でヘッドドラムが回転している時間を累積して1時間単位で表示します。

H03:TAPE RUNNING (テープ走行時間表示)モード

早送り、巻き戻し、再生、サーチの各モード時に、テープが走行している時間を累積して1時間単位で表示します。(ただし、停止と静止画モードは除きます。)

H04:THREADING (スレッディング回数表示)モード

スレッディングの回数を累計して表示します。

H12:DRUM RUNNING (ヘッドドラム回転時間表示)モード (リセット可能)

H02モードと同様の機能です。リセットが可能です。ヘッドドラムの定期交換時期の目安になります。

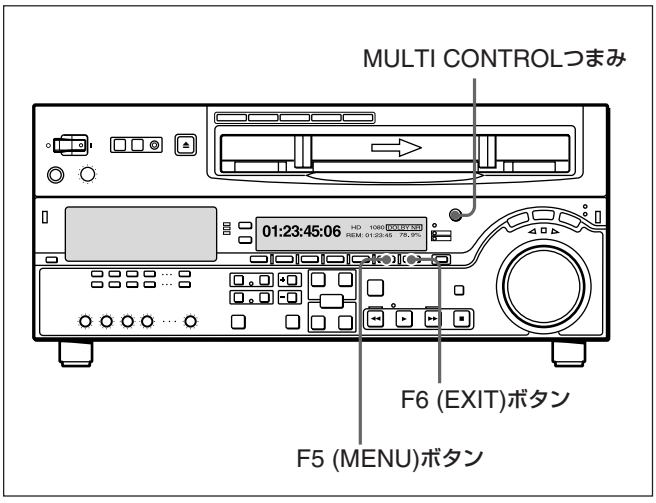
H13:TAPE RUNNING (テープ走行時間表示)モード(リセット可能)

H03モードと同様の機能です。リセットが可能です。固定ヘッドやピンチローラーなどの定期交換時期の目安になります。

H14:THREADING (スレッディング回数表示)モード(リセット可能)

H04モードと同様の機能です。リセットが可能です。スレッディングモーターなどの交換時間の目安になります。

デジタル時間計を表示させるには



デジタル時間計を表示させるには

F5 (MENU)ボタンを押してから、MULTI CONTROLつまみを回してタイムデータ表示部に希望の項目を表示させます。

デジタル時間計から抜けるには

F6 (EXIT)ボタンを押します。

11-5-2 部品交換と点検

各部品の交換と点検時期の目安を下表に示します。
これらの時間は、各部品の保証期間ではありません。部品交換の時期は、使用環境や使用条件によって異なります。特に、ピンチローラーやクリーナーは、その汚れや摩擦の程度により、表の示す値より短い周期で交換が必要になる場合があります。

なお、下表中の「↑」と「↓」は、矢印の先の部品の交換時に一緒に交換されることを示します。

◆ ひんぱんにスレッディング/アンスレッディングをくり返す状況の場合や、部品の交換方法について詳しくは、メンテナンスマニュアルVolume 1をご覧ください。

部品名	デジタル時間計の表示モード (カッコ内はメニュー項目)	交換・点検時期の目安 R：要交換　C：要点検、必要に応じて交換					
		1000 (h)	2000	3000	4000	5000	6000
上ドラム	ヘッドドラム回転時間 (H02)			C	C	C	C(↓)
ドラム組立							C
ブラシスリップリング組立				R			R(↑)
ビデオヘッドクリーナー (ローラー)				R			R
ピンチローラー組立	テープ走行時間 (H03)			R			R
リールテーブル組立					R (以降4000時間ごと)		
ピンチ圧着組立	テープ走行時間 (H03)						R
ファンモーター(カード基板)	動作時間 (H01)	4万時間ごとに交換					
ファンモーター(MD)		4万時間ごとに交換					
ファンモーター(電源)		4万時間ごとに交換					

ご注意

部品の交換・点検作業については、ソニーのサービス担当者または営業担当者にご相談ください。

仕様

一般

電源電圧	AC 100V、50/60Hz
消費電力	2.2A (220W) オプション装備なし
動作温度	5°C～40°C
保存温度	－20°C～＋60°C
湿度	20%～90%
質量	23kg
外形寸法	427×194×544mm (幅/高さ/奥行き)

テープ走行系

テープスピード
HDCAM：96.7mm/秒 (59.94i、29.97PsF)、80.6mm/秒 (50i、25PsF)、77.4mm/秒（24PsF、23.98PsF）
デジタルベータカム：96.7mm/秒
MPEG IMX：64.5mm/秒（525/59.94）、53.8mm/秒（625/50）
ベータカムSX：59.6mm/秒
アナログベータカム：118.6mm/秒 (525/59.94)、101.5mm (625/50)

HDCAM再生時間
59.94i、29.97PsF：124分 (BCT-124HDL使用時)
50i、25PsF：149分 (BCT-124HDL使用時)
24PsF、23.98PsF：155分 (BCT-124HDL使用時)

デジタルベータカム再生時間
124分（BCT-124L使用時）

MPEG IMX再生時間
525/59.94：184分（BCT-184MXL使用時）
625/50：220分（BCT-184MXL使用時）

ベータカムSX再生時間
194分（BCT-194SXLA使用時）

アナログベータカム再生時間
525/59.94：90分 (BCT-90MLA使用時)
625/50：108分 (BCT-90MLA使用時)

早送り・巻き戻し時間
約3分 (BCT-124HDL使用時)

サーチ速度
• シャトルモード
HDCAM再生時：
静止画～約±50倍速 (59.94i、29.97PsF)、
静止画～約±58倍速 (50i、25PsF)
静止画～約±60倍速 (24PsF、23.98PsF)
デジタルベータカム再生時：
静止画～約±50倍速
MPEG IMX/ベータカムSX再生時：
静止画～約±78倍速
アナログベータカム再生時：
静止画～約±35倍速（525/59.94）
静止画～約±42倍速（625/50）

• バリアブルモード
HDCAM再生時：－1～＋2倍速
デジタルベータカム再生時：－1～＋3倍速
MPEG IMX再生時：－1～＋3倍速
ベータカムSX再生時：－1～＋2倍速
アナログベータカム再生時：－1～＋3倍速

• ジョグモード
静止画～±2倍速

サーボロック時間
0.6秒 (59.94i、29.97PsF)以下、0.7秒 (50i、25PsF、24PsF、23.98PsF)以下 (スタンバイオンからの時間)

ローディング・アンローディング時間
6秒以下

推奨テープ
HDCAMカセット (SおよびL)
BCT-6HD/12HD/22HD/32HD/40HD
BCT-34HDL/64HDL/94HDL/124HDL
MPEG IMXカセット（SおよびL）
デジタルベータカムカセット（SおよびL）
ベータカムSXカセット（SおよびL）
ベータカムSPカセット (SおよびL)
ベータカムカセット (SおよびL)

デジタルビデオ系

デジタルビデオ信号形式

サンプリング周波数　Y：74.25MHz
　　R－Y/B－Y：37.125MHz
量子化特性　　8ビット/サンプル
コンプレッション　　コエフィシェントレコーディングシステム
チャンネルコーディング
　　S-I-NRZI PR-IV
エラー訂正方式　　リードソロモンコード

アナログコンポーネント出力

周波数帯域幅　　Y：0～5.75MHz＋0.5dB/－2.0dB
　　R－Y/B－Y：0～2.75MHz
　　＋0.5dB/－2.0dB
S/N　　56dB以上
Kファクター (2Tパルス)
　　1%以下

アナログコンポジット出力

周波数帯域幅　　Y：0～5.75MHz＋0.5dB/－2.0dB
S/N　　53dB以上
ディファレンシャルゲイン
　　2%以下
ディファレンシャル位相
　　2°以下
Y/Cディレイ　　20ns以下
Kファクター(2Tパルス)
　　1%以下
出力SCH位相　　RS-170A/CCIR R.624-3準拠
　　(メニューで調節可能)

デジタルオーディオ系

デジタルオーディオ(CH1～CH4)信号形式

サンプリング周波数　48kHz (映像同期)
量子化特性　　20ビット/サンプル
ワウフラッター　　測定限界以下
ヘッドルーム　　20dB (または18dB、選択可能)
エンファシス　　T1＝50μs、T2＝15μs (記録時にON/OFF選択可能)

アナログ入出力 (CH1～CH4)

A/D、D/A量子化特性
　　20ビット/サンプル
周波数特性　　20Hz～20kHz＋0.5dB/－1.0dB (0dB、1kHz)
ダイナミックレンジ　　95dB以上(1kHz、エンファシスON)
ひずみ率　　0.05%以下(1kHz、エンファシスON、基準レベル(＋4dBm))
クロストーク　　－80dB以下 (1kHz、各チャンネル間)

アナログオーディオ(CUE)

周波数特性　　100 Hz～12 kHz、±3dB
S/N　　45dB以上 (ひずみ率3%のレベルに対して)
ひずみ率　　2%以下 (THD、1 kHz基準レベル)
ワウフラッター　　0.2% rms以下

デジタルベータカム再生

ビデオ

周波数帯域幅	Y	0～5.75MHz＋0.5dB/－0.5dB
	R－Y/B－Y	0～2.75MHz＋0.5dB/－0.5dB
S/N		62dB以上
Kファクター		1%以下

デジタルオーディオ（CH1～CH4）

周波数特性	20Hz～20kHz＋0.5dB/－1.0dB
ダイナミックレンジ	95dB（1kHz、エンファシスON）
ひずみ率	0.05%以下（1kHz、エンファシスON）
ワウフラッター	測定限界以下

アナログオーディオ（キュートラック）

周波数特性	100Hz～12kHz＋3dB/－3dB
S/N	45dB以上（ひずみ率3%のレベルに対して）
ひずみ率	2%以下（THD、1kHz、基準レベル）
ワウフラッター	0.2%rms以下

MPEG IMX再生

ビデオ

周波数帯域幅	Y	0～5.75MHz＋0.5dB/－2.0dB
	R－Y/B－Y	0～2.75MHz＋0.5dB/－2.0dB
S/N		56dB以上
Kファクター		1%以下

デジタルオーディオ(CH1～CH8)

周波数特性	20Hz～20kHz＋0.5dB/－1.0dB (0dBで1kHz)
ダイナミックレンジ	90dB以上 (1kHz、エンファシスON、16ビット/48kHz)
ひずみ率	0.05%以下 (1kHz、エンファシスON、基準レベル (＋4dBm))

ベータカムSX再生

ビデオ

バンド幅	Y	0～4.5MHz＋0.5dB/－3.0dB
	R-Y/B-Y	0～2.0MHz＋0.5dB/－3.0dB
S/N		56dB以上
Kファクター（2Tパルス）		1%以下

デジタルオーディオ（CH1～CH4）

周波数特性	20Hz～20kHz＋0.5dB/－1.0dB（1kHzで0dB）
ダイナミックレンジ	90dB以上（1kHz、エンファシスON）
ひずみ率	0.05%以下（1kHz、エンファシスON、基準レベル（＋4dBm））

アナログベータカム再生

ビデオ

		メタルテープ	オキサイドテープ
周波数帯域幅	Y	30Hz～4.5MHz＋0.5dB/－4.0dB	30Hz～4.1MHz＋0.5dB/－6.0dB
	R－Y/B－Y	30Hz～1.5MHz＋0.5dB/－3.0dB	30Hz～1.5MHz＋0.5dB/－3.0dB
S/N	Y	51dB以上	48dB以上
	R－Y/B－Y	48dB以上	45dB以上
Kファクター(2Tパルス)		2%以下	3%以下
LF non-linearity	Y	3%以下	
	R－Y/B－Y	4%以下	
Y/Cディレイ		20ns以下	

オーディオ

		メタルテープ	オキサイドテープ
LNG	周波数特性(基準レベル(＋4dBm)の10dB下)	50Hz～15kHz＋1.5dB/－3.0dB	50Hz～15kHz±3.0dB
	S/N(ひずみ率3%のレベルに対して)	72dB以上	50dB以上(ドルビーNR OFF)
	ひずみ率(THD、1kHz、基準レベル(＋4dBm))	1%以下	2%以下
	ワウフラッター	0.1%rms以下	0.1%rms以下
AFM	周波数特性(基準レベル(＋4dBm))	20Hz～20kHz＋0.5dB/－2.0dB	－
	S/N(ひずみ率3%のレベルに対して)	85dB以上	－
	ひずみ率(THD、1kHz、基準レベル(＋4dBm))	0.5%以下	－

プロセッサー調整範囲

ビデオレベル　±3dB/－∞～＋3dB選択可能
クロマレベル　±3dB/－∞～＋3dB選択可能
セットアップ（59.94i、29.97PsFモード）
　±30IRE
ブラック（50i、25PsFモード）
　±210mV
Y/Cディレイ　±100ns (アナログベータカムの再生時)
クロマ位相　±30°
システム位相　SYNC：±15μs
　SC：±200ns

入力端子

REF. VIDEO INPUT
　BNC（2、ループスルー）
　ブラックバーストまたはコンポジットシンク
　0.3Vp-p、75Ω、同期負

出力端子

HDSDI OUTPUT　BNC (3、1つはキャラクタースーパーインポーズあり)
　シリアルデジタル(1.485Gbits/秒)
　SMPTE 292M
SDTI OUTPUT　BNC (2) (オプション)
　SMPTE 305M (SDTI)
COMPONENT VIDEO OUTPUT
　BNC (1セット)
　Y：1.0Vp-p、同期負
　R－Y/B－Y：0.7Vp-p、75Ω、100%/75%カラーバーに対するレベル選択可能
COMPOSITE VIDEO OUTPUT
　BNC (3、1つはキャラクタースーパーインポーズあり)
　1.0Vp-p、75Ω、同期負
SDI OUTPUT　BNC (3、1つはキャラクタースーパーインポーズあり)
　シリアルデジタル (270Mbits/秒)
　SMPTE 259M

AUDIO OUTPUT CH1/2/3/4
XLR、3ピン、凸(4)
＋4dBm (600Ω負荷時)、ローインピーダンス、平衡

AUDIO OUTPUT (AES/EBU) CH1/2、CH3/4、CH5/6、CH7/8
BNC (4)
AES-3id-1995準拠
（HDW-A2100はCH1/2、CH3/4のみ）

CUE OUT
XLR、3ピン、凸(1)
＋4dBm (600Ω負荷時)、ローインピーダンス、平衡

MONITOR OUTPUT(L/R)
XLR、3ピン、凸(2)
＋4dBm (600Ω負荷時)、ローインピーダンス、平衡

TIME CODE OUT
XLR、3ピン、凸(1)
2.2Vp-p、ローインピーダンス、平衡

PHONES
JM-60ステレオフォーンジャック
－∞～－12dBu (8Ω負荷時)、不平衡

リモート端子

CONTROL PANEL 10ピン(2)、凹、フロント/リア切り換え

REMOTE1-IN(9P) D-sub 9ピン、凹

REMOTE1-OUT(9P)
D-sub 9ピン、凹

RS-232C D-sub 9ピン、凸

VIDEO CONTROL (15P)
D-sub 15ピン、凸(別売りのBVR-50接続用)

VIDEO CONTROL (9P)
D-sub 9ピン、凹(別売りのHKDV-900接続用)

REMOTE 2 PARALLEL I/O(50P)
50ピン、凹

メモリーカード挿入口

PCMCIA

メモリースティック挿入口

メモリースティック (8～128MB)

付属品

AC電源コード(1)
ラックマウント用PSW4×16ネジ(4)
CD-ROMマニュアル(1)
インストレーションマニュアル(1)
オペレーションガイド(1)

別売りアクセサリー

コントロールパネルHKDW-101
コントロールパネルエクステンションキットBKMW-103
リモートコントロールユニットBKMW-102
SDTIインターフェースボード HKDW-102
9ピンリモートコントロールケーブルRCC-5G
ビデオリモートコントローラーBVR-50
ビデオリモートコントローラーHKDV-900
ラックマウントアダプターRMM-131
クリーニングカセットテープBCT-HD12CL

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

本機は「高調波電流規格JIS C 61000-3-2適合品」です。

携帯通信機器による電磁波障害を防止するために
携帯電話などの通信機器を本機の近くで使用すると、誤動作を引き起こしたり、映像、音声などに影響を与えることがあります。本機の近くでは、携帯通信機器の電源はできるだけ切ってください。

HKDV-900/503の設定項目と本機セットアップメニューの対応一覧

HKDV-900/503の設定項目	本機セットアップメニューのメニュー項目
HD Master	740: MASTER LEVEL (HD) a)
HD Y	741: Y LEVEL (HD) a)
HD Pb	742: Pb LEVEL (HD) a)
HD Pr	743: Pr LEVEL (HD) a)
HD Setup	745: SETUP LEVEL (HD) a)
HD Sync Phase	746: SYNC PHASE (HD/UC) a)
HD Fine	747: FINE (HD/UC) a)
D1 Master	対応しているメニュー項目はなし
D1 Y	対応しているメニュー項目はなし
D1 B-Y	対応しているメニュー項目はなし
D1 R-Y	対応しているメニュー項目はなし
D2 VIDEO	715：VIDEO GAIN CONTROL (HD/DC/SD/UC) a)
D2 CHROMA	716：CHROMA GAIN CONTROL (HD/DC/SD/UC) a)
D2 HUE	717：CHROMA PHASE CONTROL (HD/DC/SD/UC) a)
SETUP	713：VIDEO SETUP REFFERENCEのOUTPUT LEVEL (DC/SD) a), c)
	718：SETUP LEVEL/BLACK LEVEL (HD/DC/SD/UC) a), c)
SD Sync Phase	719：SYSTEM PHASE SYNC (DC/SD)
SD Fine	720：SYSTEM PHASE SC (DC/SD)
CROSS COLOR	934: CROSS COLOR (DC)
H CROP POSITION	932: H CROP POSITION (DC)/951: H CROP POSITION (UC) b)
DETAIL GAIN	935: DETAIL GAIN (DC)/954: DETAIL GAIN (UC) b)
LIMITTER	936: LIMITER (DC)/955: LIMITER (UC) b)
CRISP	937: CRISP THRESHOLD (DC)/956: CRISP THRESHOLD (UC) b)
DEPEND	938: LEVEL DEPEND THRESHOLD (DC)/957: LEVEL DEPEND THRESHOLD (UC) b)
FREQUENCY	939: H DETAIL FREQUENCY (DC)/958: H DETAIL FREQUENCY (UC) b)
H/V RATIO	940: H/V RATIO (DC)/959: H/V RATIO (UC) b)
GAMMA	941: GAMMA LEVEL (DC)/960: GAMMA LEVEL (UC) b)
CROP	930: DOWN CONVERTER MODE/950: UP CONVERTER MODE b)
LETTER BOX	930: DOWN CONVERTER MODE/950: UP CONVERTER MODE b)
SQUEEZE	930: DOWN CONVERTER MODE/950: UP CONVERTER MODE b)

a) ファンクションメニュー2ページのF1（V.PROC）がMENUのときのみ、出力に対して有効となります。

b) DC、UCのどちらを設定するかはメニュー項目212（VIDEO REMOTE CONTROL SELECT）で設定します。両方（メニュー項目212でU&D）を選択した場合は該当するメニューの両者の設定を行いますが、本機からの返答値およびユニティ値はDCの値が使用されます。

c) メニュー項目713、718のどちらを設定するかは、メニュー項目212（VIDEO REMOTE CONTROL SELECT）のサブメニューで選択します。

HD: HDCAM再生時のHD SDI出力

DC: HDCAM再生時のSD（D1 SDI/COMPOSITE）へのダウンコンバート出力

SD: SDフォーマット再生時のSD（D1 SDI/COMPOSITE）出力

UC: SDフォーマット再生時のHD SDIへのアップコンバート出力

HD/SDビデオ出力位相の設定について

HD/SDビデオ出力位相については、メンテナンスメニューから設定が可能です。

◆ メンテナンスメニューについて詳しくは、メンテナンスマニュアルをご覧ください。

項目番号	項目名		設定
M3	M3A: OUTPUT PHASE SELECT	M3A0: HD PHASE SEL	HDビデオ出力信号の位相をREFに対して0Hまたは－90H (HD)アドバンスの選択が可能です。 0H: REFと同位相で出力する。 －90H: REFに対して－90H (HD)進んだ位相で出力する。
		M3A1: SD PHASE SEL	SDビデオ出力信号の位相をREFに対して0Hまたは－2H (SD)アドバンスの選択が可能です。 0H: REFと同位相で出力する。 －2H: REFに対して－2H (SD)進んだ位相で出力する。
		M3A2: SD UPCNV SEL	SDテープ再生時にSDビデオ出力信号の位相を同位相、または1フレームディレイして出力する選択が可能です。 noml: SDビデオ出力位相は、そのまま出力をする。(REFに対してHDビデオ出力は1フレームディレイする。) HD: SDビデオ出力位相は、1フレーム遅れて出力します。(REFに対してHDビデオ出力とSDビデオ出力は同位相。)

ご注意

SDSDI (D1) 出力とコンポーネント/コンポジット出力は同位相です。

◆ オーディオ/タイムコード出力位相について詳しくは、セットアップメニュー項目338をご覧ください。

索引

五十音順

あ

アース端子 2-14
アナログ
　オーディオ出力部 2-12
　ビデオ入出力部 2-12

え

エラーメッセージ 11-2

お

オーディオ
　出力部 ..... 2-12、2-13
　表示 2-4
　モニター信号出力部 2-15
　モニター信号選択ボタン 2-5

か

外部機器
　接続 3-1
　接続部 2-14
拡張メニュー項目 10-9
各部の名称と働き
　下部コントロールパネル 2-3
　コネクターパネル 2-12
　スイッチパネル 2-11
　上部コントロールパネル 2-2
カセット 3-6

き

基本メニュー項目 10-6
キャプスタンオーバーライド機能 4-4
キューアップ ..... 5-6、7-6

け

結露 11-4

こ

コネクターパネル 2-12
コントロールパネル 2-1
　下部 2-3
　上部 2-2

さ

サーチ操作部 2-7
サーチダイヤル 2-7
サーボ
　ロック 2-9
再生
　キャプスタンオーバーライド 4-4
　シャトルモード 4-3
　準備 4-1
　ジョグモード 4-3
　操作 4-2
　速度表示 2-6
　バリアブルモード 4-4
　DMC 4-6

し

システム構成例 1-3
システム周波数
　インジケーター 2-6
　切り換え 10-4
シャトルモード 4-3
仕様 A-1
ジョグモード 4-3
ショットデータ 5-6
ショットマーク
　概要 5-1
　操作 5-3
　操作部 2-10
　操作メニュー 5-2
　ソーティング 5-8
　読み込み 5-3
　リストの操作 5-4

す

スーパーインポーズ 3-4
ストップコード
　記録 6-2
　記録フォーマット 6-1
　検出 6-2
　消去 6-3
　停止位置の調整 6-2
　SOM点 6-1

せ

接続 3-1
セットアップ 3-3
セットアップメニュー
　拡張メニュー項目 10-9
　基本メニュー項目 10-6
　構成 10-1
　操作 10-2

た

タイムコード
　出力部 2-15
タイムデータ 3-4
　表示部 2-5

て

定期点検 11-5
テープスラック 11-1
テープ走行制御部 2-8
テープフォーマット・ラインスタンダードインジ
　ケーター 2-6
デジタル
　機器との接続 3-1
　時間計 11-5
　出力部 2-13
　信号処理 1-1
テレファイル
　アトリビュートデータ 7-11
　アンドゥ 7-10
　概要 7-1
　クリップデータ 7-3
　フォーマット 7-12
　メニュー 7-2
　メモリーラベル 7-1
　レジューム 7-10
電源
　電源部 2-14
　スイッチ 2-2

と

動作モード 3-5
特長 1-1
ドロップフレーム
　マーク 3-5
　モード 9-3

の

ノンドロップフレーム
　マーク 3-5
　モード 9-3

は

バリアブルモード 4-4

ひ

ビデオ
　入出力部 2-12
表示部 2-5

ふ

ファンクションメニュー
- 概要 9-1
- 項目 9-3
- 操作 ..... 2-5、9-2

フィールドマーク 3-5
フォーマット表示 2-2
部品交換 11-6

へ

ベータカム
- 互換性 1-1
- カセット 3-6
- SPカセット 3-6

ヘッドクリーニング 11-1
ヘッドホン端子 2-2
編集
- 操作部 2-9

ほ

ポストマーク
- 書き込み 5-3

め

メモリースティック 3-8
メニュー
- 操作 ..... 2-5、2-7、9-2、10-2
- バンク 10-5
- 表示 2-7

ら

ライン変換
- 切り換え 10-4
- モード 10-5

り

リファレンス信号
◆「基準信号」の項を参照

れ

レベルメーター 2-4

アルファベット順

A

AC IN端子 2-14
ALARMインジケーター 2-9
AUDIO OUTPUT (AES/EBU)端子 2-13
AUDIO OUTPUT CH1～CH4端子 2-12

B

BLACK (ファンクションメニュー) 9-4

C

C PHAS (ファンクションメニュー) 9-4
CAPSTN (ファンクションメニュー) 9-5
CHANNEL CONDITIONインジケーター ... 2-5
CHARA (ファンクションメニュー) 9-5
CHROMA (ファンクションメニュー) 9-4
COMPONENT VIDEO OUTPUT端子 ... 2-13
COMPOSITE VIDEO OUTPUT端子 2-13
CONTROL PANEL端子 2-14
CTL/TC (ファンクションメニュー) 9-3
CUE OUT端子 2-12
CUE/PLAYボタン 2-10

D

DELETEボタン 2-10
DF (ファンクションメニュー) 9-3
DFインジケーター 2-6
DISPLAY FULL/FINEボタン 2-4
DMC再生点
- 設定 2-10

DMC EDITボタン 2-9
DMC (ダイナミックモーションコントロール)
- 再生 4-6

DOLBY NRインジケーター 2-6
DOLBY (ファンクションメニュー) 9-5

E

EJECTボタン 2-2
EMPHSS (ファンクションメニュー) 9-4
ENTRYボタン 2-10

F

F FWDボタン 2-9
F1～F6 ボタン 2-5

H

HDSDI出力位相
- 切り換え 10-5

HDSDI OUTPUT端子 2-13
HDCAM 1-1
- カセット 3-6

HOMEボタン 2-5
HUE (ファンクションメニュー) 9-4

J

JOG
- インジケーター 2-7
- ボタン 2-7

K

KEY INHIインジケーター 2-9
KEY INHIスイッチ 2-11

L

LEARNボタン 2-10
LISTボタン 2-10
LTCインジケーター 2-6

M

MARKボタン 2-10
MEMORYインジケーター 2-9
MENU (ファンクションメニュー) 9-3
MONITOR OUTPUT L端子 2-15
MONITOR OUTPUT R端子 2-15

P

PBつまみ 2-5
PHONESジャック/つまみ 2-2
PLAYボタン 2-9
PLAY IN/OUTボタン 2-10
POWERスイッチ 2-2
PREROLLボタン 2-8
PUSH/SHIFTインジケーター 2-7

R

REC/ERASE インジケーター 2-10
REC INH（ファンクションメニュー） 9-5
REF.VIDEO INPUT端子/75 Ω終端
　スイッチ 2-12
REMOTE 2 PARALLEL I/O(50P)端子 ... 2-14
REMOTEボタン 2-2
REMOTE1-IN(9P)端子 2-14
REMOTE1- OUT(9P)端子 2-14
RESETボタン 2-7
REWボタン 2-9
RS-232C
　インジケーター 2-2
　端子 2-14

S

SC (ファンクションメニュー) 9-4
SDI OUTPUT端子 2-13
SDTI OUTPUT端子 2-13
SERVO インジケーター 2-9
SETUP（ファンクションメニュー） 9-4
SHUTTLEボタン 2-7
SHUTTLE/VAR インジケーター 2-7
SOM点（プログラムの開始点） 6-1
STANDBYボタン 2-8
STOPボタン 2-9
STUNT IN/OUTボタン 2-10
SYNC (ファンクションメニュー) 9-4

T

T INFO (ファンクションメニュー) 9-4
TCR (ファンクションメニュー) 9-3
TIME CODE OUT端子 2-15
TRIMボタン 2-10

U

UMID
　概要 8-1
　出力 8-2
　表示 8-2

V

VARボタン 2-7
VIDEO (ファンクションメニュー) 9-3
VIDEO CONTROL (15P/9P)端子 2-14
VITCフィールドマーク 3-5
V.PROC (ファンクションメニュー) 9-3

Y

YC DLY (ファンクションメニュー) 9-4

本機は、特別に海外での設置使用を踏まえ、以下に認証取得に関わる安全規格注意文･EMCステートメント文を記載し、各々の認証を保証するものです。

WARNING

To prevent fire or shock hazard, do not expose the unit to rain or moisture.

To avoid electrical shock, do not open the cabinet. Refer servicing to qualified personnel only.

THIS APPARATUS MUST BE EARTHED.

WARNUNG

Um Feuergefahr und die Gefahr eines elektrischen Schlages zu vermeiden, darf das Gerät weder Regen noch Feuchtigkeit ausgesetzt werden.

Um einen elektrischen Schlag zu vermeiden, darf das Gehäuse nicht geöffnet werden. Überlassen Sie Wartungsarbeiten stets nur einem Fachmann.

DIESES GERÄT MUSS GEERDET WERDEN.

AVERTISSEMENT

Afin d'éviter tout risque d'incendie ou d'électrocution, ne pas exposer cet appareil à la pluie ou à l'humidité.

Afin d'écarter tout risque d'électrocution, garder le coffret fermé. Ne confier l'entretien de l'appareil qu'à un personnel qualifié.

CET APPAREIL DOIT ÊTRE RELIÉ À LA TERRE.

This symbol is intended to alert the user to the presence of important operating and maintenance (servicing) instructions in the literature accompanying the appliance.

For the customers in the U.S.A.

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class A digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference when the equipment is operated in a commercial environment. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instruction manual, may cause harmful interference to radio communications. Operation of this equipment in a residential area is likely to cause harmful interference in which case the user will be required to correct the interference at his own expense.

You are cautioned that any changes or modifications not expressly approved in this manual could void your authority to operate this equipment.

The shielded interface cable recommended in this manual must be used with this equipment in order to comply with the limits for a digital device pursuant to Subpart B of Part 15 of FCC Rules.

WARNING: THIS WARNING IS APPLICABLE FOR USA ONLY.

If used in USA, use the UL LISTED power cord specified below.

DO NOT USE ANY OTHER POWER CORD.

Plug Cap	Parallel blade with ground pin (NEMA 5-15P Configuration)
Cord	Type SJT, three 16 or 18 AWG wires
Length	Less than 2.5 m (8 ft 3 in)
Rating	Minimum 10 A, 125 V

Using this unit at a voltage other than 120V may require the use of a different line cord or attachment plug, or both.
To reduce the risk of fire or electrical shock, refer servicing to qualified service personnel.

WARNING: THIS WARNING IS APPLICABLE FOR OTHER COUNTRIES.

1. Use the approved Power Cord/Plug with earthing-contacts that conforms to the safety regulations of each country if applicable.
2. Use the Power Cord/Plug conforming to the following ratings, which meets power supply voltage of each country.

Rating: 10A or more

AVERTISSEMENT: CET AVERTISSEMENT EST VALABLE POUR LES AUTRES PAYS.

1. Utilisez le cordon et la fiche d'alimentation avec prise de terre, approuvés et conformes à la réglementation relative à la sécurité, adoptée par chaque pays.
2. Utilisez le cordon et la fiche d'alimentation correspondant aux caractéristiques suivantes, en fonction de la tension d'alimentation secteur de chaque pays.

Ampérage: 10 A ou plus

WARNUNG: Die folgenden Warnungsangaben gelten für das Modell für andere Länder.

1. Das Nezkabel/der Netzstecker muss einen Erdungskontakt besitzen und den Sicherheitsbestimmungen lhres Landes genügen.
2. Das Netzkabel muss je nach der Netzspannung lhres Landes für folgende Spannungen und Ströme ausgelegt sein.

Stromstärke 10 A oder mehr

For the customers in Europe

This product with the CE marking complies with both the EMC Directive (89/336/EEC) and the Low Voltage Directive (73/23/EEC) issued by the Commission of the European Community.
Compliance with these directives implies conformity to the following European standards:

- EN60950: Product Safety
- EN55103-1: Electromagnetic Interference (Emission)
- EN55103-2: Electromagnetic Susceptibility (Immunity)

This product is intended for use in the following Electromagnetic Environment(s):
E1 (residential), E2 (commercial and light industrial), E3 (urban outdoors) and E4 (controlled EMC environment, ex. TV studio).

Pour les clients européens

Ce produit portant la marque CE est conforme à la fois à la Directive sur la compatibilité électromagnétique (EMC) (89/336/CEE) et à la Directive sur les basses tensions (73/23/CEE) émises par la Commission de la Communauté européenne.
La conformité à ces directives implique la conformité aux normes européennes suivantes:

- EN60950: Sécurité des produits
- EN55103-1: Interférences électromagnétiques (émission)
- EN55103-2: Sensibilité électromagnétique (immunité)

Ce produit est prévu pour être utilisé dans les environnements électromagnétiques suivants:
E1 (résidentiel), E2 (commercial et industrie légère), E3 (urbain extérieur) et E4 (environnement EMC contrôlé ex. studio de télévision).

Für Kunden in Europa

Dieses Produkt besitzt die CE-Kennzeichnung und erfüllt die EMV-Richtlinie (89/336/EWG) sowie die Niederspannungsrichtlinie (73/23/EWG) der EG-Kommission.
Angewandte Normen:

- EN60950: Sicherheitsbestimmungen
- EN55103-1: Elektromagnetische Verträglichkeit (Störaussendung)
- EN55103-2: Elektromagnetische Verträglichkeit (Störfestigkeit),

für die folgenden elektromagnetischen Umgebungen:
E1 (Wohnbereich), E2 (kommerzieller und in beschränktem Maße industrieller Bereich), E3 (Stadtbereich im Freien) und E4 (kontrollierter EMV-Bereich, z.B. Fernsehstudio).

Peak inrush current

(1) Power ON, current probe method:
HDW-A2100: 40 A (240 V), 20 A (100 V)
HDW-M2100: 50 A (240 V), 14 A (100 V)
(2) Hot switching inrush current, measured in accordance with European standard EN55103-1:
HDW-A2100: 15 A (230 V)
HDW-M2100: 18 A (230 V)

Appel de courant de crÍte

(1) Mise sous tension (ON), méthode de sondage du courant:
HDW-A2100: 40 A (240 V), 20 A (100 V)
HDW-M2100: 50 A (240 V), 14 A (100 V)
(2) Mesuré conformément à la norme européenne EN55103-1:
HDW-A2100: 15 A (230 V)
HDW-M2100: 18 A (230 V)

Spitzenstrom

(1) Einschaltstrom, Stromsonde:
HDW-A2100: 40 A (240 V), 20 A (100 V)
HDW-M2100: 50 A (240 V), 14 A (100 V)
(2) Gemessen in EN55103-1:
HDW-A2100: 15 A (230 V)
HDW-M2100: 18 A (230 V)

このマニュアルに記載されている事柄の著作権は当社にあり、説明内容は機器購入者の使用を目的としています。
従って、当社の許可なしに無断で複写したり、説明内容（操作、保守等）と異なる目的で本マニュアルを使用することを禁止します。

Sony Corporation

HDW-A2100/M2100(J)
3-204-953-**16**(1)

http://www.sony.co.jp/

© 2000